

ちば産学官連携プラットフォーム 2026年度 単位互換推奨科目シラバス

No.	大学等名称	科目名	学期	曜日	時限	ページ
1	植草学園大学	人間と道徳	前	月	6	4
2	植草学園大学	倫理学入門	後	火	1	5
3	植草学園大学	心理学	前	水	6	6
4	植草学園大学	教育学入門	前	火	6	7
5	植草学園大学	行動科学入門	後	金	2	8
6	植草学園大学	バイオリテラシー入門	前	金	1	9
7	植草学園大学	人間関係論	前	木	6	10
8	植草学園大学	コミュニケーション論	後	木	5	11
9	植草学園大学	統計学入門	前	月	5	12
10	植草学園大学	障害インクルージョン論	後	水	6	13
11	神田外語大学	児童英語教育論A (2コマセットの授業)	前	月 木	3 3	15
12	神田外語大学	中国語学概論 I	前	月	3	17
13	神田外語大学	インドネシアの政治・経済 I	前	月	3	18
14	神田外語大学	韓国の宗教・社会 I	前	火	2	19
15	神田外語大学	児童英語指導法 (Reading & Writing) A (2 コマセットの授業)	前	火 金	2 4	20
16	神田外語大学	認知発達と英語教育A (2コマセットの授業)	前	火 金	4 3	23
17	神田外語大学	東南アジア宗教論 I	前	火	4	26
18	神田外語大学	ブラジルの民族・地理	前	火	4	27
19	神田外語大学	児童英語指導法 (Listening & Speaking) A (2コマセットの授業)	前	水 水	1 2	28
20	神田外語大学	スペイン語音声学 I	前	木	2	30
21	神田外語大学	現代スペイン文学 I	前	木	2	31
22	神田外語大学	現代ラテンアメリカ研究 I	前	木	2	33
23	神田外語大学	韓国語社会言語学 I	前	木	2	34
24	神田外語大学	現代イベリア研究 I	前	木	3	35
25	神田外語大学	東南アジア研究入門 I	前	金	1	37
26	神田外語大学	中国文学史 I	前	金	2	38
27	神田外語大学	韓国語文法論 I	前	金	2	39
28	神田外語大学	米国政治・外交論 I	前	金	3	40
29	神田外語大学	東南アジア政治経済論 I	前	金	3	41
30	帝京平成大学	スポーツ心理学	前	火	5	42
31	帝京平成大学	スポーツ指導論	前	水	2	44
32	帝京平成大学	スポーツ倫理	前	木	3	46
33	帝京平成大学	スポーツ社会学	前	木	5	48
34	帝京平成大学	コーチング論	前	金	3	50
35	帝京平成大学	予防と介護	後	月	1	52
36	帝京平成大学	スポーツマネジメント論	後	水	1	55
37	帝京平成大学	スポーツ栄養学	後	木	2	57
38	帝京平成大学	スポーツ経営・管理学	後	木	4	59
39	帝京平成大学	スポーツ医学入門	後	金	2	61
40	淑徳大学	社会福祉論	前	月	2	64
41	淑徳大学	福祉政策論	前	金	1	65
42	淑徳大学	スポーツマネジメント	後	月	5	66
43	淑徳大学	ボランティア・市民活動論	後	月	5	67
44	淑徳大学	共生援助論	後	火	1	68
45	淑徳大学	家族社会学	後	火	1	69
46	淑徳大学	地域福祉論	後	火	5	70
47	淑徳大学	コーチング理論	後	火	5	71
48	淑徳大学	地域振興論	後	水	4	72
49	淑徳大学	社会心理学	後	水	6	74
50	千葉明德短期大学	音楽表現演習 I (ギター)	前	火	2	75
51	千葉明德短期大学	音楽表現演習 II (ギター)	後	月	3	76
52	千葉明德短期大学	保育原論	前	水	3	77

No.	大学等名称	科目名	学期	曜日	時限	ページ
53	千葉明德短期大学	あそび実践演習（言葉）	後	水	2	78
54	千葉明德短期大学	教育原論	前	木	1	79
55	千葉明德短期大学	あそび実践演習（音楽）	後	火	1	80
56	千葉明德短期大学	社会福祉	前	木	2	81
57	千葉明德短期大学	社会的養護Ⅰ	後	水	1	82
58	千葉明德短期大学	フィールドワーク（人間と文化）	集中	集中	集中	83
59	千葉明德短期大学	フィールドワーク（生活と社会）	集中	集中	集中	84
60	千葉明德短期大学	フィールドワーク（自然と環境）	集中	集中	集中	85
61	東京情報大学	コンピュータグラフィックス基礎	前	月	1	86
62	東京情報大学	システム設計論 a	前	月	2	87
63	東京情報大学	ゲーム制作基礎	前	火	1	88
64	東京情報大学	地理情報システム a	前	木	2	90
65	東京情報大学	ソフトウェア工学 a	前	木	1	91
66	東京情報大学	社会学概論	後	月	2	92
67	東京情報大学	経営学概論	後	月	3	93
68	東京情報大学	心理学概論	後	水	3	94
69	東京情報大学	情報ネットワーク概論	後	金	3	95
70	東京情報大学	視覚デザイン論	後	金	3	97
71	千葉経済大学	社会保障論Ⅰ	前	月	3	98
72	千葉経済大学	社会保障論Ⅱ	後	月	3	99
73	千葉経済大学	経済データ分析Ⅰ	前	火	4	100
74	千葉経済大学	経済データ分析Ⅱ	後	火	4	101
75	千葉経済大学	労働経済学Ⅰ	前	水	3	102
76	千葉経済大学	労働経済学Ⅱ	後	水	3	103
77	千葉経済大学	現代企業論Ⅰ	前	水	4	104
78	千葉経済大学	現代企業論Ⅱ	後	水	4	105
79	千葉経済大学	財務分析Ⅰ	前	金	2	106
80	千葉経済大学	財務分析Ⅱ	後	金	2	107
81	千葉経済大学	経営戦略論Ⅰ	前	金	3	108
82	千葉経済大学	経営戦略論Ⅱ	後	金	3	110
83	千葉経済大学短期大学部	情報と社会	前	月	3	112
84	千葉経済大学短期大学部	観光ビジネスⅠ	前	火	1	114
85	千葉経済大学短期大学部	自然科学への招待 A	前	月	5	115
86	千葉経済大学短期大学部	健康科学概論（βh）	前	木	4	116
87	千葉経済大学短期大学部	健康科学概論（αh）	前	木	3	117
88	千葉経済大学短期大学部	映画で学ぶ英語表現	後	月	2	118
89	千葉経済大学短期大学部	ホスピタリティサービス	後	火	1	119
90	千葉経済大学短期大学部	観光ビジネスⅡ	後	火	1	121
91	千葉経済大学短期大学部	文学	後	木	2	123
92	千葉経済大学短期大学部	自然科学への招待 B	後	月	5	125
93	千葉経済大学短期大学部	歴史への旅	後	木	2	126
94	敬愛大学	数学Ⅰ	前	月	2	127
95	敬愛大学	数学Ⅱ	後	月	2	128
96	敬愛大学	統計学Ⅰ	前	水	3	129
97	敬愛大学	統計学Ⅱ	後	水	3	130
98	敬愛大学	憲法	前	金	2	131
99	敬愛大学	法学	前	金	3	132
100	敬愛大学	歴史学	後	月	2	133
101	敬愛大学	法学	後	金	2	134
102	敬愛大学	憲法	後	金	3	135
103	敬愛大学	日本語コミュニケーション論	前	金	1	136
104	敬愛大学	言語学	前	金	2	137
105	敬愛大学	地域ボランティア活動	前	水	2	138
106	敬愛短期大学	生涯スポーツ実習	前	火	4	139
107	敬愛短期大学	乳児保育Ⅱ	後	金	3	140
108	敬愛短期大学	子どもと造形	後	月	2	141
109	敬愛短期大学	保育内容演習（健康）	後	月	4	142

No.	大学等名称	科目名	学期	曜日	時限	ページ
110	敬愛短期大学	育ちと学びの心理学	前	火	3	143
111	敬愛短期大学	子どもと言葉	前	火	2	144
112	敬愛短期大学	保育者論	後	木	1	145
113	敬愛短期大学	教育原理	後	金	2	146
114	敬愛短期大学	子ども家庭支援の心理学	前	金	2	147
115	敬愛短期大学	特別支援教育	前	木	2	148
116	敬愛短期大学	社会的養護Ⅰ	前	木	3	149
117	敬愛短期大学	児童文化Ⅱ	前	火	2	150

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	人間と道徳	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	月曜日・6 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	実際に起きた社会の問題を題材に、多様性のある社会における価値観、道徳的な生き方について多角的に考える。受験のための勉強と違ってすぐに答えは出ない。思考力や想像力を鍛えながら深く人間や社会について探求する授業。		
到達目標	1.さまざまな価値観が複雑に絡まりあっている社会において、多角的・批判的な思考ができるようになる。 2.正義や道徳心を守るために、自分が所属する仲間や組織の同調圧力に安易に流されず、自律的な考えができるようになる。 3.ひとつのものごとを深く探求し、自分の考えを的確に表現できるようになる。		
授業内容	第 1 回 ガイダンス「あなたは正義のために自分の所属する組織を裏切ることができるか」(目標 2・3) 第 2 回 「なぜ人を殺してはいけないか」(目標 1・3) 第 3 回 「いじめ考～あなたはいじめを止められるか」(目標 2・3) 第 4 回 なぜ児童虐待は増え続けているのか(目標 2・3) 第 5 回 校則はなぜ必要なのか(目標 1・3) 第 6 回 感染症と薬害エイズ(目標 2・3) 第 7 回 報道と差別(目標 1・3) 第 8 回 死は誰のものか(目標 1・3) 第 9 回 高齢者福祉は安心か(目標 1・3) 第 10 回 代理母論～あなたは他人のために子どもを産めるか(目標 1・3) 第 11 回 狙われる高齢者(目標 1・3) 第 12 回 ウクライナの正義 vs ロシアの正義(目標 1・3) 第 13 回 重度障害者は社会を不幸にするか、社会にとって必要か(目標 1・3) 第 14 回 やまゆり園事件とプライバシー(目標 1・3) 第 15 回 優生思想についてどう考えるか(目標 1・2・3)		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 80% 毎回授業の中で課題(教科書の抜粋部分を読んでの意見や感想を書く)を提示する。-google クラウドのフォームから提出する。 レポート 20% 期末課題を-google クラウドのフォームから提出する。		
評価基準	1.さまざまな価値観が複雑に絡まりあっている社会において、多角的・批判的な思考ができるようになったかどうか。 2.正義や道徳心を守るために、自分が所属する仲間や組織の同調圧力に安易に流されず、自律的な考えができるようになったかどうか。 3.ひとつのものごとを深く探求し、自分の考えを的確に表現できるようになったかどうか。		
テキスト	「弱さを愛せる社会へ～分断の時代を超える『令和の幸福論』」(野澤和弘著、中央法規)		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援 教育学科
科目名※	倫理学入門	単位数※	2
開講年度学期※	後期	曜日・時限※	火曜日・1 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	講義室 1 3
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	古代ギリシャ時代から広く取り組まれてきた倫理的課題の検討は、文化と経済がグローバル化した現代で、ますますその重要性が高まっている。また、インターネットと SNS の普及によって、さまざまな当事者の声が届くに至り、立場の違いが錯綜的に議論される一方で、合理的配慮などの新たな取り組みで、人類の倫理観の向上が期待できる動きもある。現実の報道事例等を手掛かりに、規範倫理学の主要な理論を概観しながら、応用倫理的な身近なトピックをどのように理解すべきか、ディスカッションを通じて考察する。		
到達目標	1.善いことを判断するためのさまざまな基準について理解できる。 2.自分がどのような倫理的基準に従っているかを検討できる。 3.現代社会における倫理的問題とその背景を理解できる。		
授業内容	第 1 回 イントロダクション：現代社会の倫理的問題（目標 1・2・3） 第 2 回 倫理学とはどのような学問か：相対主義と善悪（目標 1） 第 3 回 愚行権とパターナリズム（目標 2・3） 第 4 回 自由と自己決定権（目標 2・3） 第 5 回 倫理学の理論的展開(1)：自分の意見をまとめるために（目標 2） 第 6 回 生・死・QOL（目標 2・3） 第 7 回 性・ジェンダー（目標 2・3） 第 8 回 性差別とマイノリティ当事者（目標 2・3） 第 9 回 炎上と権力構造（目標 1・2・3） 第 10 回 倫理学の理論的展開(2)：自分の意見を伝えるために（目標 2） 第 11 回 偏見（目標 2・3） 第 12 回 マイクロ・アグレッション（目標 2・3） 第 13 回 公平性・多様性・社会的受容（目標 2・3） 第 14 回 共生とエンハンスメント問題（目標 2・3） 第 15 回 倫理的課題に対する議論の理解と自分の主張の整理（目標 1・2）		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 40% 毎回の授業時に行う簡単な論述あるいは選択式の課題で、その日の授業内容について十分な考察が行われたか、確認する。 レポート 50% 授業時間中に実施するレポート課題で、授業で扱った中心的トピックについての十分な考察が行われたか、確認する。 授業内での発表 10% 個別の意見の構築とディスカッションを推進するために、個人の意見やその根拠を口頭で発表する。		
評価基準	授業中の課題、ディスカッションでの発言、小レポートで、以下の目標への到達度で評価します。 1.善いことを判断するためのさまざまな基準について理解できる。 2.自分がどのような倫理的基準に従っているかを検討できる。 3.現代社会における倫理的問題とその背景を理解できる。 さらに、予習・復習の取り組み（予習・復習シートの実施と提出）も評価対象とします。		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/ WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	心理学	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	水曜日・6 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	身近な心理的な問題に理解を深め、自分の意見を述べる力を養うとともに、発達心理学や教育心理学、臨床心理学などより専門的な授業を履修するために必要となる基礎的な知識を習得する。授業の前半では、心理学の起源や、感覚・知覚、記憶、学習、発達などの基礎心理学的な知識を習得し、それらを踏まえて、精神分析、社会心理学、集団心理学、臨床心理学などの応用心理学分野を学ぶ。このように心理学の様々な研究分野の知見について基礎的な理解を身につけ、自分や他者の心の働きを理解するために活用する。授業の終盤では、心理学の研究手法や心理学と哲学の関連性、ストレスと精神的健康、心理的問題とその援助に焦点を当て、心理学的な知識を自己理解や他者理解、個人的問題・社会的問題への対応に実践的に活用できるようになることを目指す。		
到達目標	1. 心理学に関する基礎的な知識について理解する。 2. 身近な心理的問題について理解する。 3. 心理学的な知識を、自分や他者の心の働きを考えるために活用できる。		
授業内容	第1回：授業ガイダンス・心理学の起源(目標1) 第2回：感覚・知覚(目標1,2) 第3回：記憶(目標1,2) 第4回：脳研究と心理学(目標1,3) 第5回：学習(目標1,2,3) 第6回：動機づけ(目標1,2,3) 第7回：問題解決と意思決定(目標1,3) 第8回：発達と発達理論(目標1,2,3) 第9回：パーソナリティ(目標1,2,3) 第10回：無意識と精神分析(目標1,3) 第11回：社会(対人認知・態度変容)(目標1,2,3) 第12回：集団の心理(目標1,2,3) 第13回：心理学の研究手法(目標1,3) 第14回：ストレスと精神的健康(目標1,3) 第15回：心理的問題とその援助(目標1,3)		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 30% 毎回の授業で出題される課題の内容をもとに授業への理解度を評価する。 期末試験 70% 対面で行う筆記試験の得点をもとに成績評価を行う。		
評価基準	1. 心理学に関する基礎的な知識について理解し、その概要を説明できること。 2. 身近な心理的問題について理解し、自分の考えを述べるができること。 3. 心理学的な知識を、自分の心の働きを考えるために活用できること。		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援 教育学科
科目名※	教育学入門	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	火曜日・6 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	この科目では、人間の成長・発達や学校教育等、教育に関する入門的な知識を理解するとともに、教育の在り方や教育課題等について学習を深めるための学習活動を行います。 なお、この授業は Google クラウドスライドを用いて遠隔授業（オンデマンド授業）を行います。授業が始まる前日までにキャンパスポータルに授業を受ける方法が配信されますので、履修希望者は確認するようにして下さい。		
到達目標	1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原則や学校教育に関して、理解し基礎的な知識を習得する。 2. 日本の教育の現状や教育課題について、データや資料に基づいて自らの考えをまとめることができるようになる。 3. 教育に関する理解を深めるために積極的に予習・復習に取り組んだり、教育課題を解決することができる方法を考えようとする。		
授業内容	第 1 回 講義概要の説明：「教育学入門」における学習の目的、授業計画、授業の進め方、授業外の学修、評価方法など 教育はなぜ必要なのか：社会、文化と人間形成（目標 1） 第 2 回 子どもの成長・発達：ゲゼル、ヴィゴツキー、ピアジェ（目標 1） 第 3 回 教育の思想と歴史：フレーベル、モンテッソーリ（目標 1） 第 4 回 教育の思想と歴史：デューイ（目標 1） 第 5 回 幼稚園と保育園、「教育」と「ケア」（目標 1） 第 6 回 教育・保育に関する行政と制度（目標 1・2・3） 第 7 回 学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷（目標 1・2・3） 第 8 回 食育（目標 1・2・3） 第 9 回 不登校をめぐる問題（目標 1・2・3） 第 10 回 生涯教育、生涯学習（目標 1・2・3） 第 11 回 教職、教員の多忙（目標 1・2・3） 第 12 回 働き方改革、学校部活動をめぐる問題（目標 1・2・3） 第 13 回 地域社会と教育・保育支援（目標 1・2・3） 第 14 回 ヤングケアラーをめぐる問題（目標 1・2・3） 第 15 回 教育・保育とジェンダー（目標 1・2・3）		
授業形態※			
評価方法※	授業内の提出物 30% 授業への取り組み（Google クラウドスライド上で取り組む課題） 期末試験 70%		
評価基準	1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原則や家庭・学校・地域社会の教育役割・機能に関して、理解し基礎的な知識を習得できたか。 2. 日本の教育の現状や教育課題について、データや資料に基づいて自らの考えをまとめることができたか。 3. 教育に関する理解を深めるために積極的に予習・復習に取り組んだり、教育課題を解決することができる方法を考えようとしたか。		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援 教育学科
科目名※	行動科学入門	単位数※	2
開講年度学期※	後期	曜日・時限※	金曜日・2 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	講義室 1 2
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	行動科学の考え方を理解し、人や動物の行動に関する科学的知見を学び、日常生活や社会における人間の行動に対する理解を深めます。初めに、青年の親もしくは親子関係に関する認知と自立の関係性や社会的情報処理と適応、行動の自己制御行動の仕組みをテーマとして取り上げます。行動の仕組みに焦点を当てた回では、行動の生物科学的な側面や行動の動機づけと学習、進化心理学（子育ての視点から）について学びます。対人関係・社会に関する領域では対人関係（印象形成と対人魅力）、集団と組織（集団の凝集性と組織規範、リーダーシップとジェンダー）などについて学習し、健康に関する領域ではストレスマネジメントとメンタルヘルス、カウンセリングマインドと傾聴、遊戯療法・芸術療法に関する健康心理学や臨床心理学分野を学修します。		
到達目標	(1) 認知、行動のしくみ、対人・社会、健康という各テーマにおける行動の基礎的知識を説明できる (2) 行動に関わる意思決定過程や行動の生起・変容に関わる理論やメカニズムについて理解・説明できる (3) 日常生活や社会的出来事に見られる様々な行動について、行動科学の視点から議論できる		
授業内容	第1回 ガイダンス（行動科学と研究手法）（目標1） 第2回 認知（1）；青年の親もしくは親子関係に関する認知と自立の関係性（目標1,2,3） 第3回 認知（2）；社会的情報処理と適応（対人行動と認知過程）（目標1,2,3） 第4回 認知（3）；行動の自己制御（実行機能と認知過程）（目標1,2,3） 第5回 行動のしくみ（1）；行動の生物科学的入門（目標1,2） 第6回 行動のしくみ（2）；進化心理学（個が生き残る力）（目標1, 2, 3） 第7回 行動のしくみ（3）；進化心理学（子孫を残し反映する力）（目標1, 2, 3） 第8回 対人・社会（1）；対人行動（印象形成と対人魅力）（目標1,2,3） 第9回 対人・社会（2）；集団と組織（集団の凝集性と組織規範）（目標1,2,3） 第10回 対人・社会（3）；集団と組織（リーダーシップとジェンダー）（目標1,2,3） 第11回 健康（1）；ストレスマネジメントとメンタルヘルス（目標1,2,3） 第12回 健康（2）；遊戯療法と芸術療法（目標2,3） 第13回 健康（3）；カウンセリングマインドと傾聴（目標2,3） 第14回 健康（4）：ノンバーバル・コミュニケーション（描画法）を活用した自分のイメージを表現（目標2,3） 第15回 まとめ；レポート課題のフィードバック（目標1,2,3）		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 30% 毎回の授業の提出物 レポート 70% レポート課題は、各担当教員の授業回（第4回、第7回、第10回、第14回を予定）に課すものとする。		
評価基準	(1) 授業で取り上げた、各テーマにおける行動の基礎的知識を説明できることを合格基準とする (2) 授業で取り上げた、行動に関わる意思決定過程や行動の生起・変容に関わる理論やメカニズムについて説明できることを合格基準とする (3) 授業で得た知識を基に、日常生活や社会的出来事に見られる様々な行動について、行動科学の視点から自分の意見を述べられることを合格基準とする		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/ WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援 教育学科
科目名※	バイオリテラシー入門	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	金曜日・1 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	基礎医学実験室
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	高校までに獲得した生物学の断片的な知識を再構成し、実感の伴ったまとまった知識にまで昇華させることを目指す。学習内容は、主に進化の視点を軸とした生物分類の話と、私達が生きていくために必要なエネルギーを得る代謝について行う。		
到達目標	1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得する。 2.生物の中に潜む法則性と生物間の多様性について、多様な側面から考えることができるようになる。 3.日常生活と、生物学との係わりや意義について理解できるようになる。		
授業内容	第1回 脊椎動物の進化と分類1（恐竜の特徴・爬虫類の進化と分類について）（目標1,2,3） 第2回 脊椎動物の進化と分類2（鳥類の特徴と進化について）（目標1,2,3） 第3回 脊椎動物の機能と生態（コアジサシについて）（目標1,2,3） 第4回 脊椎動物の進化と分類3（哺乳類の特徴と進化について）（目標1,2,3） 第5回 脊椎動物の進化と分類4（クジラの特徴について）（目標1,2,3） 第6回 生物・動物の分類（目標1,2,3） 第7回 棘皮動物の進化と分類（ウニについて）（目標1,2,3） 第8回 新口動物の分類と進化1（目標1,2,3） 第9回 新口動物の分類と進化2（目標1,2,3） 第10回 動物と植物（目標1,2,3） 第11回 エネルギー代謝（何故お腹がすくか？）（目標1,2,3） 第12回 糖代謝（目標1,2,3） 第13回 タンパク質・脂質代謝（目標1,2,3） 第14回 外呼吸（目標1,2,3） 第15回 内呼吸（目標1,2,3）		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 40% 授業内での発表 20% 期末試験 40%		
評価基準	1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得できたか。 2.生物の共通性と多様性について、多様な側面から考えることができたか。 3.日常生活と、生物学との係わりや意義について理解できたか。		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/ WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	人間関係論	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	木曜日・6 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	この授業では、様々な組織や集団における人間関係の特徴についての理解を深め、現実の人間関係の中で生じる問題への対処法を考えるために役立つ知識を幅広く学習する。 まず、自己概念・自己評価、自尊感情について学び、自己に関する心理学の知見を紹介する。次に、個人が他者を理解する際の対人認知のメカニズムや印象形成に関わる要因について、主に心理学における知見を紹介する。対人魅力や親密性、恋愛、説得の方法や集団と個人の相互関係などのテーマが含まれる。さらに、集団における問題解決や攻撃行動、虐待など対人関係や社会的な関係の中で生じる問題のほか、リーダーシップ、社会的アイデンティティ、ジェンダーなどのテーマにも焦点を当てる。またインターネット上の人間関係や交流についても検討する。様々な人間関係における問題とその解決策を理解し、実際の人間関係構築に役立つ知識の習得を目指す。		
到達目標	1.様々な人間関係に関する知識について理解する。 2.様々な組織や集団における人間関係の特徴を理解する。 3.人間関係で生じる問題を理解し、学んだ知識を活用して解決法を考えることができる。		
授業内容	第1回 授業ガイダンス・社会心理学とは (目標1) 第2回 自己概念・自己評価(目標1) 第3回 自尊感情(目標1) 第4回 印象・対人認知の仕組み (目標1) 第5回 対人魅力の規定要因・親密性(目標1) 第6回 恋愛 (目標1) 第7回 説得 (目標1,3) 第8回 攻撃行動・暴力 (目標1,3) 第9回 虐待 (目標1,3) 第10回 集団と個人(目標1,2,3) 第11回 集団による問題解決 (目標2,3) 第12回 リーダーシップ(目標1) 第13回 社会的アイデンティティ(目標1,3) 第14回 ジェンダー(目標3) 第15回 インターネットに関わる交流(目標1,3)		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 30% 毎回の授業で出題される課題の内容をもとに授業への理解度を評価する。 期末試験 70% 対面で行う筆記試験の得点をもとに成績評価を行う。		
評価基準	1.様々な人間関係に関する知識について理解し、概要を説明できること。 2.様々な組織や集団における人間関係の特徴を理解し、概要を説明できること。 3.人間関係で生じる問題を理解し、学んだ知識を活用して解決法を検討できること。		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援教育学科
科目名※	コミュニケーション論	単位数※	2
開講年度学期※	後期	曜日・時限※	木曜日・5 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	さくらホール
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	この授業では、コミュニケーションに関する基礎的な知識やスキルを学ぶ。対人援助職の職務において重要となる傾聴スキルや受容と共感やアサーションなどのスキル、感情のコントロールや説得的コミュニケーションに関して、ロールプレイやケーススタディを用いて考える練習を行い、コミュニケーション能力を高めていくための土台の形成を目指す。授業の後半ではインターネットやマスコミュニケーションについても取り上げる。教育や医療場面での実践に焦点を当て、障害や困難を抱える人への適切なアプローチやコミュニケーション手法も学ぶ。理論と実践を組み合わせ、幅広い状況における効果的なコミュニケーションを学んでいく。		
到達目標	1. コミュニケーションの基礎概念や理論を学び、理解する。 2. 教育や医療の専門職として、実際の対人場面でのコミュニケーションを理解する。 3. 学んだ知識やスキルを活用し、様々な状況における最適なコミュニケーションの取り方について考えることができる。		
授業内容	第1回 授業ガイダンス・コミュニケーションの概要(目標1) 第2回 言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション(目標1) 第3回 傾聴とコミュニケーションスキル(目標1,2,3) 第4回 受容と共感(目標1,2,3) 第5回 アサーション(目標1,2,3) 第6回 説得的コミュニケーション(目標1,3) 第7回 自己開示と自己呈示(目標1,3) 第8回 感情のコントロール(目標1) 第9回 ストレスとバーンアウト(目標1) 第10回 他者を欺くコミュニケーション(目標1) 第11回 インターネットのコミュニケーション(目標1,2) 第12回 文化とコミュニケーション(目標1,3) 第13回 マスコミュニケーション(目標1) 第14回 障害・困難を抱える人へのコミュニケーション(目標2) 第15回 発達障害児へのコミュニケーション支援(目標2)		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 30% 毎回の授業で出題される課題の内容をもとに授業への理解度を評価する。 期末試験 70% 対面で行う筆記試験の得点をもとに成績評価を行う。		
評価基準	1. コミュニケーションの基礎概念や理論を理解し、説明できること。 2. 教育や医療の専門職として、実際の対人場面でのコミュニケーションを理解し、説明できること。 3. 様々な状況における最適なコミュニケーションの取り方を自分なりに工夫できること。		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援 教育学科
科目名※	統計学入門	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	月曜日・5 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	講義室 2 1, 2 2
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	日常生活における様々な現象について、数量で表現されたものを正しく理解できるように統計学の基礎知識を学ぶ。さらに、毎回の授業後の確認テストを行うことで、統計処理の基本操作について学びを深める。表計算ソフト EXCEL を用いて、基本的なデータ処理ができるようにする。		
到達目標	1. データの整理として、記述統計の方法を説明できる。 2. データの関連を調べるために、推測統計の方法を説明できる。 3. 統計処理の活用について実践できる。		
授業内容	第 1 回 統計学を学ぶために (目標 1) 第 2 回 代表値と散布度 (目標 1) 第 3 回 確率論と期待値 (目標 1) 第 4 回 正規分布 (目標 1) 第 5 回 母集団と標本 (目標 2) 第 6 回 標本変動と信頼区間 (目標 2) 第 7 回 背理法と帰無仮説 (目標 2) 第 8 回 母平均の検定 (目標 2) 第 9 回 2つの母平均の検定 (目標 2・3) 第 10 回 散布図と相関係数 (目標 2・3) 第 11 回 単回帰分析 (目標 2・3) 第 12 回 重回帰分析 (目標 2・3) 第 13 回 尺度とクロス集計表 (目標 2・3) 第 14 回 カイ二乗検定とロジスティック回帰分析 (目標 2・3) 第 15 回 人工知能 (AI) と統計学 (目標 3)		
授業形態※	講義		
評価方法※	レポート 60% 期末試験 40%		
評価基準	毎回の確認テストと最終課題を通じ、統計学の知識・手法に関する理解度について、以下の 3 点にもとづいて評価します。 1. 記述統計の方法を用いて、データの整理を説明できる。 2. 推測統計の方法を用いて、データの関連を説明できる。 3. 社会の現象について、統計処理を活用して説明できる。		
テキスト	教科書は使用しません。毎回、講義資料を配付します		
注意事項			
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/ WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	植草学園大学	学部・学科名※	発達教育学部 発達支援 教育学科
科目名※	障害インクルージョン論	単位数※	2
開講年度学期※	後期	曜日・時限※	水曜日・6 時限
キャンパス※	千葉若葉キャンパス	教室※	遠隔授業
学修分野	教養教育科目 基礎科目		
授業目的※	「障害」とはあらゆる社会課題と人間の真摯な関わりをテーマとする。現実で起こっている虐待や差別から、障害者が登場する映画やドラマ、障害者アートなども紹介し、最新の知見に基づいた授業を行う。毎回小テストを行い、常識ではわからない障害の奥の深さやおもしろさについても実感してもらう。		
到達目標	1. 発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性はなにかを知る。 2. 虐待の実態や差別の取り組みを学ぶ。 3. 地域共生社会や障害者文化芸術の新しい潮流を知る。		
授業内容	第1回 ガイダンス（授業計画の説明、講師の自己紹介） 講義「君たちはどんな時代を生きていくのか、何を学ぶのか」（目標1） 第2回 前回のアクションペーパーの紹介 頭を柔らかくする小テスト①（障害児の世界を知る） 講義「障害者のリアルに迫る」（目標1） 第3回 前回のアクションペーパーの紹介とQ&A 頭を柔らかくするテスト② 講義「障害者虐待」（目標2） 第4回 前回のアクションペーパーの紹介とQ&A 頭をやわらかくするテスト③ 講義「あなたは虐待する？」（目標2） 第5回 前回のアクションペーパーの紹介とQ & A 頭を柔らかくするテスト④ 講義「虐待をしないためには何が必要か」（目標2） 第6回 前回のアクションペーパーの紹介とQ & A 頭を柔らかくするテスト⑤ 講義「行動障害と身体拘束」（目標2） 第7回 前回のアクションペーパーの紹介とQ & A 頭を柔らかくするテスト⑥ 講義「行動障害の改善」（目標2） 第8回 前回のアクションペーパーの紹介とQ & A 頭を柔らかくするテスト⑦ 講義「利用者中心の支援」（目標1） 第9回 前回のアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「障害者が登場する映画やドラマ」（目標3） 第10回 前回のアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「警察プロジェクト」（目標3） 第11回 前回のアクションペーパーの紹介とQ & A 障害者差別をなくすための千葉県条例～条例の成立過程と内容(目標2) 第12回 前回のアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「発達障害と事件」（目標1, 2） 第13回 前回のアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「アール・ブリュット」（目標3） 第14回 前回のアクションペーパーの紹介とQ & A 講義「意思決定支援」（目標1） 第15回 地域共生型福祉と障害(目標3)		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業内の提出物 80% 毎回授業を聞いての意見や感想（アクションペーパー）をGoogleクラスルームのフォームで書いて提出する。 レポート 20% 期末課題をGoogleクラスルームのフォームから提出する。		
評価基準	1. 発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性を理解できたか。 2. 虐待の実態や差別解消の取り組みを理解できたか。 3. 地域共生、障害者文化芸術の新しい潮流を知ることができたか。		
テキスト	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する。		

注意事項	
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/ WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	児童英語教育論 A	単位数※	4
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	月曜 3 限、木曜 3 限 (2 コマセットの授業)
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	2020 年度から開始された小学校外国語教育を中心に、早期英語学習者に関連する理論の枠組みと授業実践の基礎を学ぶ。 － 小学校学習指導要領（外国語活動・外国語科）を理解する。 － 子どもの認知や英語指導に関連する理論への理解を深める。 － 早期英語学習者を対象とした指導法を体験する。 － 学んだ理論を応用した小学校外国語科の授業計画・教材作成・模擬授業を実践する。 － 理論と実践の結びつきを振り返り、最終的に早期英語教育における今後の課題を検討する		
到達目標			
授業内容	第 1 回 講座内容の紹介、成績評価方法の説明 第 1 章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ① 第 2 回 第 1 章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ② 新学習指導要領を紐解く、グループワーク① 第 3 回 第 1 章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ③ 新学習指導要領を紐解く、クイズ、グループワーク② 第 4 回 第 2 章：言語習得と関連領域 ① 子どもの言語獲得の過程 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み① 学習理論、生成文法、相互作用論 実践体験：子どもの歌、TPR 第 5 回 第 2 章：言語習得と関連領域 ② 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み② インプットとアウトプット理論、インタラクション仮説 第 6 回 第 2 章：言語習得と関連領域 ③ 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み③ CPH、気付きの理論、ピアジェ、ヴィゴツキー 第 7 回 第 3 章：基本的な外国語教授法 ナチュラルアプローチ、CLT、他教科連携① 第 8 回 第 3 章：基本的な外国語教授法 ナチュラルアプローチ、CLT、他教科連携② 実践体験：チームティーチング① 第 9 回 実践体験：チームティーチング②、演習 第 10 回 第 3 章：基本的な外国語教授法 絵本やお話を使った外国語指導① 実践体験：絵本の読み聞かせ① 第 11 回 第 3 章：基本的な外国語教授法 絵本やお話を使った外国語指導② 実践体験：絵本の読み聞かせ② 第 12 回 第 4 章：国際理解教育と英語教育 第 13 回 第 9 章：クラスルーム・イングリッシュの活用 スモールトーク演習① 第 14 回 第 9 章：クラスルーム・イングリッシュの活用 スモールトーク演習②		

授業形態※	第 15 回 第 11 章：教材の使い方・選び方と開発方法：教材の作成・教具についての知識① グループワーク 第 16 回 第 11 章：教材の使い方・選び方と開発方法：教材の作成・教具についての知識② グループワーク 第 17 回 第 11 章：教材の使い方・選び方と開発方法：音声指導 歌やチャンツの使い方、演習① 第 18 回 第 11 章：教材の使い方・選び方と開発方法：音声指導 歌やチャンツの使い方、演習② 第 19 回 第 14 章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク① 第 20 回 第 14 章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク② 第 21 回 第 14 章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク③ 第 22 回 第 15 章：文字指導のあり方① 模擬授業準備、実践演習、グループワーク④ 第 23 回 第 15 章：文字指導のあり方② 模擬授業準備、実践演習、グループワーク⑤ 第 24 回 教材作成、実践演習、グループワーク⑥ 第 25 回 模擬授業に向けての技術的指導、実践演習、グループワーク⑦ 第 26 回 模擬授業①チームティーチング、考察、フィードバック 第 27 回 模擬授業②チームティーチング、考察、フィードバック 第 28 回 模擬授業③チームティーチング、考察、フィードバック 第 29 回 模擬授業実践の振り返りと理論の裏付け 第 30 回 実践と理論の結びつけ、授業のまとめ 対面
評価方法※	クイズ・振り返り 30% 実技演習 40% 授業への貢献 30% クイズ、振り返り、授業計画・教材作成・模擬授業、授業への貢献度を考慮して総合的に評価する。
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	中国語学概論 I	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	月曜 3 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	・中国語の文字や文法体系について学び、その歴史や特徴を理解する。(DP1、DP3) ・中国語とはどのような言語か、その主な特徴について説明できる。(DP1) ・中国語という言語を多面的に考察し、その本質を理解する力を養う。(DP3)		
到達目標			
授業内容	第 1 回 ガイダンス、中国語とはどのような言語であるのか 第 2 回 文字とは何かー漢字の起源・六書・字形の変化と「字書」の話 第 3 回 中国の漢字と日本の漢字、中国の文字改革 第 4 回 ピンイン・ローマ字の制定、正書法 第 5 回 「語法」と「文法」、「字」と「語」、外来語 第 6 回 グループワーク：外来語について調べる（次週の発表準備） 第 7 回 中間発表：外来語について調べて発表（中間試験に相当。形式等詳細は授業内で説明します） 第 8 回 単語と連語、文の成立、标点符号 第 9 回 文の種類（構造上の分類、用法上の分類） 第 10 回 文の成分（主語、述語、述語の構成から見た基本構文） 第 11 回 文の成分（賓語） 第 12 回 文の成分（補語） 第 13 回 文の成分（修飾語） 第 14 回 ことばにみる中国人の世界観、思考法 第 15 回 前期のまとめ（期末試験ならびに解説）		
授業形態※	対面		
評価方法※	授業参加度・課題への取り組みなどの平常点（60%）、中間発表（グループワーク・10%）、期末試験（30%）		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	インドネシアの政治・経済 I	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	月曜 3 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	・インドネシアの政治、特にインドネシアにおける民主主義に関する専門知識を身に付けます (DP3) ; ・インドネシア政治に関する知識を得ることで、異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢を身に付けます。(DP3)		
到達目標			
授業内容	第 1 回 イントロダクション：インドネシアの歴代大統領 第 2 回 独立戦争後の困難 第 3 回 スカルノ体制 第 4 回 スハルトの開発独裁体制 第 5 回 民主化運動とスハルト体制の崩壊 第 6 回 民主化の開始：ハビビ政権 第 7 回 東ティモール問題 第 8 回 1999 年総選挙とアブドゥルラフマン、メガワティ政権 第 9 回 スハルト時代にたいする反省：歴史問題 第 10 回 2004 年、2009 年総選挙とユドヨノ政権 第 11 回 選挙スタイルの変化と民主化の矛盾 第 12 回 イスラムの政治コモディティ化 第 13 回 2014 年、2019 年総選挙・大統領選挙のポリティクス 第 14 回 ジョコウィ政権と 2024 年総選挙 第 15 回 まとめと今後の課題		
授業形態※	対面		
評価方法※	筆記試験		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認してください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	韓国の宗教・社会 I	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	火曜 2 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	到達目標としては、韓国・朝鮮にみられる事柄を宗教や社会システムに着目してより深く捉えなおすことで、朝鮮半島でみられる事柄に関する知識と理解を深める(DP3)と同時に、地域相対的に物事を捉える視点を身につける(DP1)。またその過程において物事の本質を見極める視点(DP5)や人間社会における課題の発見(DP6)、多様性についての理解力(DP7)を養う。		
到達目標			
授業内容	第 1 回 イン트로ダクションー宗教からみる韓国・朝鮮社会 第 2 回 朝鮮社会にみる二重構造、多重構造、シンクレティズム 第 3 回 生活に根づく巫俗儀礼 第 4 回 時代に翻弄された仏教の今日 第 5 回 韓国・朝鮮社会に入り込んだ儒教 第 6 回 現代にみられる儒教の影響とその変化 第 7 回 現代におけるキリスト教の受容 第 8 回 グローバル化する新宗教 第 9 回 韓国・朝鮮社会における風水地理の過去と現在 第 10 回 陰陽五行と四象医学 第 11 回 「もの」と韓国・朝鮮社会ー商人と匠がなぜ蔑視されたのか？ 第 12 回 生殖技術の発展と現代韓国社会 第 13 回 朝鮮社会と中華思想 第 14 回 韓国ナショナリズム 第 15 回 まとめー英霊の登場と変わりゆく宗教観		
授業形態※	対面		
評価方法※	平常のリアクションペーパーとレポートで評価する。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	児童英語指導法（Reading & Writing） A	単位数※	4
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	火曜 2 限、金曜 4 限 （2 コマセットの授業）
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	絵本を活用した活動において、学生は、子どもの認知発達・言語習得・心の育成を目的とした Interactive Read Aloud（対話的読み聞かせ）の方法を修得し、また、基礎的な語や文の読み方の指導を目的とした Shared Reading（共有読み聞かせ）の指導ができるようにする。そのために、まずは、読み書きに必要な英語の音素認識、そしてフォニックスの指導方法を学ぶ。さらに、絵本の内容を理科や社会などの他教科と連携させたり、発展させたりしながら行う読み書きの指導方法を修得する。 絵本を読み聞かせるにあたり、読み手は正確に英語を発音することが子どもの言語習得に重要である。従って、履修者には徹底的な発音訓練を行い、子どもへの発音指導が行えるようにする。		
到達目標			
授業内容	第 1 回 クラスの概要・評価・宿題等、小学校学習指導要領概説 第 2 回 小学校学習指導要領概説： 公立小学校における英語教育の目的と特に「読むこと」と「書くこと」の目標および言語活動を学習指導要領を用いて熟知する。 第 3 回 小学校「外国語（英語）」（5、6 年生）教科書分析： 小学校高学年用の検定教科書を分析し、学習指導要領の中の特に「読むこと」と「書くこと」がどのような形で教科書に反映されているか、また読み書きの指導として、どのような指導や活動が推奨されているか確認する。 第 4 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』理論編 第 1 章 & 2 章（Intro）： 読み書きを学ぶことの必要性・重要性など、英語の読み書きが個人の学力や国の経済力などどのように関係しているかを総合的に学ぶ。 第 5 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』理論編 第 3 章、実践編 第 1 章（Phonemic awareness 理論と実践）： 英語の読みは音素認識を高めることから始まる。音素認識とは何か、子どもたちにはどのように指導したら良いかを学ぶ。学生は英語音素を実践を通して学ぶ。 第 6 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』実践編 第 1 章（Phonemic awareness 実践）： 音素認識活動を教科書に沿ってクラスの前で実践する。 第 7 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』理論編 第 4 章、実践編 第 2 章（Phonics 理論と実践）： フォニックスとは何か、どのような指導法があるか、英語の読み書きをどのように指導したら良いかを学び、学生は教科書からアクティビティを選んでクラスの前で実践する。 第 8 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』実践編 第 2 章（Phonics 実践）： フォニックスの指導を教科書から選んでクラスの前で実践する。 第 9 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』実践編 第 2 章（Phonics 実践）： フォニックスの指導を教科書から選んでクラスの前で実践する。		

第 10 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』理論編 第 5 章 & 実践編 第 3 章 歌を使った文字指導： 歌の歌詞を使って、どのように「読むこと」と「書くこと」の指導に結びつけたら良いかを学ぶ。学生は教科書からアクティビティを選んでクラスの前で実践する。 第 11 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』理論編 第 5 章 & 実践編 第 3 章 歌を使った文字指導： 歌を使った「読むこと」と「書くこと」の具体的な指導法を学ぶ。学生は教科書の中から歌を選んでクラスの前で実践する。 第 12 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』理論編 第 5 章 & 実践編 第 3 章 歌を使った文字指導： 教科書の中の歌を使って、読み書きの指導をクラスの前で実践する。 第 13 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』理論編 第 5 章 & 実践編 第 4 章 体を使った文字指導： 体やジェスチャーなどを使って指導する方法を学ぶ。学生は教科書からアクティビティを選んで、クラスの前で実践する。 第 14 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』理論編 第 5 章 & 実践編 第 4 章 体を使った文字指導： 体を使ったり、ジェスチャーを利用したり、また空書きを活かして読んだり書いたりする指導をクラスの前で実践する。 第 15 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』理論編 第 6 章 & 実践編 第 6 章 評価、その他読み書き指導： 小学校における評価の方法を学ぶ。また、第 6 章では、さまざまな言語活動を教科書の手順を参考に学生がクラスの前で実践する。 第 16 回 『絵本で教える英語の読み書き』第 1 章： 学力の基礎として絵本の重要性、また、読むことの導入として絵本が大きな役割を果たすことを学び、絵本を使って「読むこと」と「書くこと」の指導の方法を学ぶ。 第 17 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』実践編 第 5 章 絵本を使った文字指導 (Pat's Fat Rat, The Fox and the Frog, The Lion and the Mouse) 実践： 絵本は指導の目的（絵本を使って何を教えたいか）によって使い分けが必要である。ここでは三種の絵本をどのように使い分けたら良いか一緒に考える。 第 18 回 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』実践編 第 5 章 絵本を使った文字指導 (Pat's Fat Rat, The Fox and the Frog, The Lion and the Mouse) 実践： 学生は自分が選んだ絵本を使って、「読むこと」と「書くこと」の指導を実践する。 また、Pat's Fat Rat を使って、指導案の書き方を学ぶ。 第 19 回 『絵本で教える英語の読み書き』第 1 章： 絵本の役割、絵本を使うことの意義、絵本から学べることなどを議論を通して理解し、これ以降の授業に生かしていく。また、『絵本で教える英語の読み書き』を使って、Read aloud（対話的読み聞かせ）、Shared reading（共有読み）、Guided reading（誘導読み）など、絵本の活用法を学ぶ。 第 20 回 『絵本で教える英語の読み書き』Read aloud (実践)]: 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』実践編 第 5 章 絵本を使った文字指導 学生は教科書内のインソップの物語を一つ選んで、Interactive read aloud（対話的読み聞かせ）をクラスの前で実践する。 第 21 回 『絵本で教える英語の読み書き』Shared reading： Shared reading（共有読み）でどのように音素認識、フォニックス活動を取り入れたら良いか、指導法および留意点を学ぶ。 第 22 回 『絵本で教える英語の読み書き』Shared Reading (実践)]: 各自自分が選んだ絵本のどの部分を音素認識やフォニックスの活動に使用するか、どのように授業を進めるかを考える。

授業形態※	また、一つの物語に対し、どのような構成が望ましいかを学び、指導例に基づいて、レッスンプランを考える。 第 23 回 模擬授業 個別指導： 各自自分が選んだ絵本を「読む」練習をする。また絵本の内容を十分理解した上で、子どもにその内容をどのように伝えたら良いかを考える。 レッスンプランの構成と内容の指導を受ける。 第 24 回 模擬授業 個別指導： 選んだ絵本の中から、どの単語を音素認識、フォニックス活動に使うかを決め、指導法を考案する。内容理解の質問や内容予測の質問なども考える。レッスンプランの構成と内容の指導を受ける。 第 25 回 模擬授業 個別指導： 選んだ絵本の中から、どの単語を音素認識、フォニックス活動に使うかを決め、指導法を考案する。内容理解の質問や内容予測の質問なども考える。レッスンプランの構成と内容の指導を受ける。本番のデモに向けて、教材準備及び個別に練習をする。 第 26 回 模擬授業 個別指導： 教員の前で絵本の一部を実践し、フィードバックを受ける。その他の学生は本番のデモに向けて、教材準備及び個別に練習する。 第 27 回 読み書き指導デモンストレーション： 読み聞かせの留意点に十分注意して、クラスの前で英語絵本の読み聞かせの実践をする。その後全員で良い点と改善点を話し合い、スキルアップを目指す。各自 Google classroom にて読み聞かせを実践したクラスメートにフィードバック、授業実践者は、それを参考にしながら、自分の実践を振り返る。 第 28 回 読み書き指導デモンストレーション： 読み聞かせの留意点に十分注意して、クラスの前で英語絵本の読み聞かせの実践をする。その後全員で良い点と改善点を話し合い、スキルアップを目指す。各自 Google classroom にて読み聞かせを実践したクラスメートにフィードバック、授業実践者は、それを参考にしながら、自分の実践を振り返る。 第 29 回 読み書き指導デモンストレーション： 読み聞かせの留意点に十分注意して、クラスの前で英語絵本の読み聞かせの実践をする。その後全員で良い点と改善点を話し合い、スキルアップを目指す。各自 Google classroom にて読み聞かせを実践したクラスメートにフィードバック、授業実践者は、それを参考にしながら、自分の実践を振り返る。 第 30 回 振り返り：全体を振り返り、今後の課題について話し合う。今後どのようにスキルアップを目指したら良いかを考える。補足練習なども行う。 対面
評価方法※	モデルレッスン（実技） 50% レッスンプラン 20% 宿題 その他、実技 30%
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	認知発達と英語教育 A	単位数※	4
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	火曜 4 限、金曜 3 限 (2 コマセットの授業です)
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	本講座において学生は、認知発達の過程と特徴、および、子どもの心理と言語習得に関する知識を修得すると同時に、これらの知識をどのように英語教育の指導方法や指導技術に応用できるかをともに考える。		
到達目標			
授業内容	第 1 回 クラスの紹介 (シラバス・レポート・宿題等の確認) 第 1 章 枠組みと方法 子どもの発達に関する重要な課題や疑問、また発達研究において用いられる主な行動学的・神経生理学的方法について学ぶ。 第 2 回 第 1 章 枠組みと方法 子どもの発達に関する重要な課題や疑問、また発達研究において用いられる主な行動学的・神経生理学的方法について学ぶ。 第 3 回 第 2 章 理論と方法 ロックやルソーの発達理論を学ぶ。またピアジェの発達の見方とヴィゴツキーの発達の見方の主要な点を学ぶ。さらに、愛着理論と動物行動学におけるその起源について学ぶ。 第 4 回 第 2 章 理論と方法 ロックやルソーの発達理論を学ぶ。またピアジェの発達の見方とヴィゴツキーの発達の見方の主要な点を学ぶ。さらに、愛着理論と動物行動学におけるその起源について学ぶ。 第 5 回 第 3 章 乳幼児期への導入 胎児期の発達と母親の影響、早産の長期にわたる認知的影響、早期の運動能力、生後 1 週間の赤ちゃんの知覚について学ぶ。 第 6 回 第 4 章 乳児期の認知発達 乳児の対象のカテゴリー化の発達、初期の認知発達について学ぶ。 第 7 回 第 5 章 初期の言語発達 言語発達が乳児の誕生前から始まっていること、乳児の音素認識について、喃語の段階、初期の言語発達と社会的文脈、語の認識、乳児の語彙の測定法などを学ぶ。 第 8 回 第 5 章 初期の言語発達 言語発達が乳児の誕生前から始まっていること、乳児の音素認識について、喃語の段階、初期の言語発達と社会的文脈、語の認識、乳児の語彙の測定法などを学ぶ。 第 9 回 第 6 章 乳児期における社会的、情動的発達 ここでは他者との関係が認知や言語的発達への文脈を提供するとともに、社会的、情動的発達に重要であることを学ぶ。乳児期に起こっていることは個々の生涯を通して起こることに影響することを学ぶ。具体的には、乳児の顔の認識能力とその重要性、早期の発達における模倣の役割、愛着について学ぶ。 第 10 回 第 6 章 乳児期における社会的、情動的発達 ここでは他者との関係が認知や言語的発達への文脈を提供するとともに、社会的、情動的発達に重要であることを学ぶ。乳児期に起こっていることは個々の生涯を通して起こることに影響することを学ぶ。具体的には、乳児の顔の認識能力とその重要性、早期の発達における模倣の役割、愛着について学ぶ。 第 11 回 第 7 章 就学前期への導入 2 歳から 6 歳の脳の発達と身体的、精神的発達、運動能力の主な変化、描画能力の発達について学ぶ。		

	第 12 回 第 7 章 就学前期への導入 2 歳から 6 歳の脳の発達と身体的、精神的発達、運動能力の主な変化、描画能力の発達について学ぶ。 第 13 回 第 8 章 就学前期の認知能力 就学前期におけるピアジェの認知発達に関する考え、推理や問題解決の発達とそれらの測定方法・課題、見かけと現実の区別の発達、心の理論の発達と自閉スペクトラムとの関係について学ぶ。 第 14 回 第 8 章 就学前期の認知能力 就学前期におけるピアジェの認知発達に関する考え、推理や問題解決の発達とそれらの測定方法・課題、見かけと現実の区別の発達、心の理論の発達と自閉スペクトラムとの関係について学ぶ。 第 15 回 第 9 章 就学前期における言語発達 内側から外への言語発達理論と外側から内への言語発達理論、チョムスキーとピンカーの生得理論、文法的発達と子どもが受ける言語入力との関係について、過大規則化の誤りと、それがなぜ言語発達の理論において重要であるか、早期の文法理解を理解するための選好注視法、特異的言語発達障害の主な特徴などについて学ぶ。 第 16 回 第 9 章 就学前期における言語発達 内側から外への言語発達理論と外側から内への言語発達理論、チョムスキーとピンカーの生得理論、文法的発達と子どもが受ける言語入力との関係について、過大規則化の誤りと、それがなぜ言語発達の理論において重要であるか、早期の文法理解を理解するための選好注視法、特異的言語発達障害の主な特徴などについて学ぶ。 第 17 回 第 10 章 就学前期の社会性と情動の発達 就学前期の子どもの友達関係の発達と良好な相互交渉の基礎となる重要なスキル、性差についての気づき、自己理解、ふり遊びの発達の意義などについて学ぶ。 第 18 回 第 11 章 児童中期への導入 運動技能の発達と行動の性差、脳の発達過程、注意欠如多動症（ADHD）の主要な特性と診断方法、発達性協調運動障害（DCD）の特性とそれを持つ子どもの動きの計画の困難さについて学ぶ。 第 19 回 第 12 章 児童中期の認知発達 ピアジェの具体的操作的推理、ワーキングメモリの変化、数的処理を学ぶときに直面する課題、計算障害の特徴、数学的能力の文化間の差について学ぶ。 第 20 回 第 12 章 児童中期の認知発達 ピアジェの具体的操作的推理、ワーキングメモリの変化、数的処理を学ぶときに直面する課題、計算障害の特徴、数学的能力の文化間の差について学ぶ。 第 21 回 第 12 章 児童中期の認知発達 ピアジェの具体的操作的推理、ワーキングメモリの変化、数的処理を学ぶときに直面する課題、計算障害の特徴、数学的能力の文化間の差について学ぶ。 第 22 回 第 13 章 読み書き能力（リテラシー） 子どもはどのように読みを学ぶかを決める主要な要因、記号解読スキルと読みの理解の違い、書体によって読みの困難度が違う理由、子どもが文字を綴るときに用いる方法、発達性ディスレクシアの特徴と読みの理解の障害との違い、手書きの困難さが学校での学習に影響する理由などについて学ぶ。 第 23 回 第 13 章 読み書き能力（リテラシー） 子どもはどのように読みを学ぶかを決める主要な要因、記号解読スキルと読みの理解の違い、書体によって読みの困難度が違う理由、子どもが文字を綴るときに用いる方法、発達性ディスレクシアの特徴と読みの理解の障害との違い、手書きの困難さが学校での学習に影響する理由などについて学ぶ。 第 24 回 第 13 章 読み書き能力（リテラシー） 子どもはどのように読みを学ぶかを決める主要な要因、記号解読スキルと読みの理解の違い、書体によって読みの困難度が違う理由、子どもが文字を綴るときに用いる方法、発達性ディスレクシアの特徴と読みの理解の障害との違い、手書きの困難さが学校での学習に影響する理由などについて学ぶ。
--	---

授業形態※	第 25 回 第 14 章 児童中期の社会性と感情性の発達 友人関係の発達、「公正」「悪意」の考え方の発達、ピアジェとコールバーグによる道徳性の発達、「感情表現ルール」の意味と、非社会的状況に対する子どもの反応の変化、性役割（ジェンダー）の発達について学ぶ。 第 26 回 第 15 章 青年期の導入 青年期を通じての脳の発達変化と、青年期特有の行動との関係、青年期の行動に及ぼす文化の影響について学ぶ。 第 27 回 第 16 章 青年期の認知発達 ピアジェの形式的操作的推理、道徳的推理、青年期の実行機能の発達とその脳の発達との関係について学ぶ。 第 28 回 第 17 章 青年期の社会的、情動的発達 青年期の道徳的判断は社会・文化的要因にどのように影響されるか、青年期の家族・友人との関係の重要性、愛着の長期にわたる成り行き、攻撃性といじめの型の性差、家族・親の役割について学ぶ。 第 29 回 全体の振り返り 課題の確認 第 30 回 期末テスト、その他 対面
評価方法※	期末テスト 40% レポート 30% 宿題 30%
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	東南アジア宗教論 I	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	火曜 4 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	・東南アジアの上座部仏教社会について理解を深め、その価値観を尊重することができる。(DP3、7) ・同時に平等や公正といった点から社会を批判的に分析することができる。(DP5)		
到達目標			
授業内容	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 上座部仏教とは何か 第 3 回 出家者の仏教：なぜ出家するのか① 在家者の仏教：五戒・八戒とは何か 第 4 回 GW 課題（持戒体験） 第 5 回 出家者の仏教：なぜ出家するのか② 第 6 回 出家者の仏教：なぜ出家するのか③ 第 7 回 在家者の仏教：積徳行とは何か 第 8 回 中間テスト 歴史：王権と仏教 1 第 9 回 歴史：王権と仏教 2 第 10 回 仏塔と経済 第 11 回 女性は出家できるか 1 第 12 回 女性は出家できるか 2 第 13 回 社会参加仏教 第 14 回 仏教と政治 第 15 回 期末テストと解説		
授業形態※	対面		
評価方法※	1) リアクションペーパー：10% 2) 課題：40% 3) 中間テスト：20% 4) 期末テスト：30% ※欠席は1回につき減点3%		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認してください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	ブラジルの民族・地理	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	火曜 4 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	ブラジルの自然や民族の多様性を学び、ブラジル研究を進める上で必要な知識を得ることを目的とする（DP1）。 受講者はブラジルの都市、移住者集団についてプレゼンテーションを実施することで、特定のテーマに関する専門知識を身につける（DP3）。		
到達目標			
授業内容	第 1 回 講義概要および提出課題の説明 ブラジルの基礎知識の確認 第 2 回 ブラジル史概観 第 3 回 ブラジル 5 地域の特徴を知る（オンデマンド） 第 4 回 先住民の生活と文化 第 5 回 ポルトガル人植民者／アフリカ系住民（移住の経緯、文化と生活） 第 6 回 ヨーロッパ移民（イタリア系、ドイツ系など） 第 7 回 アジア系移民（中東系、中国系、韓国系） 第 8 回 アジア系移民（日本移民） 第 9 回 在外ブラジル人（移住の経緯と生活文化） 第 10 回 ブラジルの移住者集団／ブラジルの一次産品に関する発表 第 11 回 ブラジルの地形／気候／植生 第 12 回 アマゾン・パンタナル 第 13 回 ブラジルの都市① 第 14 回 ブラジルの都市② 第 15 回 授業の総括と期末試験		
授業形態※	対面		
評価方法※	原則として 4 回欠席した者、課題（プレゼン資料）未提出者、試験未受験者は評価の対象から外す。 授業貢献 20%、課題（プレゼン）30%、期末試験 50%。成績は A+から F の評価とする。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	児童英語指導法 (Listening & Speaking) A	単位数※	4
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	水曜 1 限、水曜 2 限 (2 コマセットの授業です)
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	早期英語学習者（幼児・児童）を対象として、英語音声（「聞く」「話す」）を活用する指導法とその意義について学び、指導計画から模擬授業までの実践力を伸ばす。 具体的には、以下の主要なプロジェクトを達成するために、講義を理解し、課題や演習に取り組む。 プロジェクト① 早期英語学習者を対象とした読み聞かせやストーリーテリングを行って、教師としてのオーラルスキルを高める。 プロジェクト② 未就学児～中学年児童を対象とした歌やチャンツを題材に、「音素認識」を高める授業計画立案と模擬授業を行う。 プロジェクト③ 高学年児童を対象とし、「音素認識」や「オンセット＆ライム」、「音から文字への繋がり」を指導する授業計画立案と模擬授業を行う。 最終的に、中学英語に有機的に接続する指導体系と実践能力を習得する		
到達目標			
授業内容	第 1 回 授業形式・成績評価・課題の説明 早期英語教育と子どもの言語発達：音声言語の獲得 EFL 環境での英語教育：音声指導の意義 第 2 回 音声指導を支える理論的枠組み 英語の音声指導の基本：1. 日本語と英語の音声の違い、2. 英語の音声の特徴 第 3 回 Whole approach：絵本やお話（コンテキスト）を使った英語授業 演習① 絵本の読み聞かせ 第 4 回 Whole approach：絵本やお話（コンテキスト）を使った英語授業 演習② ストーリーテリング 第 5 回 Whole approach：絵本やお話（コンテキスト）を使った英語授業 演習③ ストーリーテリング 第 6 回 子どもへの音声指導法：音素認識、文字知識、音韻認識 演習④ アルファベットジングル、音素認識を高めるアクティビティ 第 7 回 子どもへの音声指導法：歌やチャンツ 演習⑤ キーボードを使った技術指導 第 8 回 演習⑥ 歌やチャンツを使った音素認識・音韻認識を高めるアクティビティ 第 9 回 模擬授業①マイクロティーチング：歌やチャンツを使ったオリジナルレッスン・振り返り 第 10 回 演習⑦ 音声指導用 DVD 映像視聴から授業への応用 第 11 回 演習⑧ 年齢層別音声指導の違い① Young children 向けの授業 第 12 回 演習⑨ 年齢層別音声指導の違い② Older children 向けの授業、支援を必要とする児童を含むインクルーシブな英語授業		

授業形態※	第 13 回 音声から文字への円滑な指導 1 : アルファベット知識、フォニックス 第 14 回 音声から文字への円滑な指導 2 : アルファベット知識、フォニックス 第 15 回 小学校外国語活動・外国語科における音声指導① 文字指導との連携、授業単元計画・授業立案 第 16 回 小学校外国語活動・外国語科における音声指導② 文字指導との連携、授業単元計画・授業立案 第 17 回 演習⑩ 小学校外国語活動・外国語科における音声指導① 第 18 回 演習⑪ 小学校外国語活動・外国語科における音声指導② 第 19 回 子どもの語彙の発達と語彙指導：音声指導の観点から 第 20 回 子どもの英語音声習得を促進する教材・教具（教材論） 第 21 回 演習⑫ 子どもの英語音声習得を促進する教材・教具を使った授業 第 22 回 子どもへの音声指導法：音素認識、音素の明示的な発音指導と指導順序 演習⑬ ミニマルペア判別・音素認識を高める指導 第 23 回 子どもへの音声指導法：音素認識、音素の明示的な発音指導と指導順序 演習⑭ ミニマルペア判別・音素認識を高める指導 第 24 回 子どもへの音声指導法：音韻認識（オンセット&ライム、音節）の明示的な指導 演習⑮ オンセット&ライムの指導 第 25 回 子どもへの音声指導法：音韻認識（オンセット&ライム、音節）の明示的な指導 演習⑯ オンセット&ライムの指導 第 26 回 Content-based approach におけるリスニングやスピーキング活動 第 27 回 最終模擬準備・個別指導 第 28 回 最終模擬準備・個別指導 第 29 回 最終模擬・フィードバック 第 30 回 模擬講評・技術的指導・振り返り
評価方法※	授業計画・授業案立案 30% 実技演習 40% 授業への貢献 30% 授業計画や教材作成、授業デモ、振り返り、授業への貢献度を考慮して総合的に評価する。
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認してください。
授業シラバス	

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	スペイン語音声学Ⅰ	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	木曜 2 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	・スペイン語音声学に関する気補填きな用語や知識を身につける。(DP3) ・スペイン語のさまざまな音声事象について理解する。(DP3) ・とりわけスペイン語教育の観点から、スペイン語の音声学的特徴を理解する。(DP3)		
到達目標			
授業内容	第 1 回 オリエンテーション（授業の目的・進め方について） 概論：音声学とは 第 2 回 調音器官、発音記号（IPA）、母音と子音、有声/無声と調音点と調音法 第 3 回 スペイン語の母音、音節、アクセント スペイン語の子音 両唇閉鎖音：無声音[p]と有声音[b]、両唇摩擦音：有声音[β] 第 4 回 歯裏閉鎖音：無声音[t]と有声音[d]、歯裏閉鎖音：有声音[ð] 第 5 回 軟口蓋閉鎖音：無声音[k]と有声音[g]、軟口蓋摩擦音：有声音[ɣ] 第 6 回 無声唇歯摩擦音[f]と無声歯間摩擦音[θ] 第 7 回 歯茎摩擦音：無声音[s]と有声音[z] 第 8 回 有声硬口蓋摩擦音[j]と有声硬口蓋接近音[j] 第 9 回 硬口蓋破擦音：有声音[dʒ]と無声音[tʃ] 第 10 回 両唇鼻音[m]と歯茎鼻音[n] 第 11 回 硬口蓋鼻音[ɲ]と無声軟口蓋摩擦音[x] 第 12 回 歯茎側(面接近)音[l]と硬口蓋側(面接近)音[ʎ] 第 13 回 歯茎たたき音[r]と顫動音(ふるえ音)[r] 第 14 回 前期の総復習と期末試験 第 15 回 前期のまとめ スペイン語の歌、詩と音節構造		
授業形態※	対面		
評価方法※	・授業活動、リアクションペーパー…20% ・演習課題、期末試験…50% ・ディクテーション…30%		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	現代スペイン文学 I	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	木曜 2 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	Aprender la historia de la literatura española y comprender las características y diversidad de la cultura española. (DP3) Conocer las características fundamentales de la literatura española en cada período histórico-literario. (DP3) Conocer a los escritores y obras más importantes de cada época. (DP3) Reconocer las particularidades de las obras que se analicen en clase. (DP1) Aprender a comentar de manera adecuada un texto literario. (DP3) Adquirir los conocimientos básicos para hablar de literatura española en cualquier situación comunicativa. (DP3) Fomentar el pensamiento crítico a través de los textos literarios. (DP4) スペイン文学の歴史を学び、スペイン文化の特徴と多様性を理解する。(DP3) スペイン文学における、歴代作品の基本的な特徴を知る。(DP3) 各時代の優れた著者について、その作品について知る。(DP3) 授業で分析する作品の特徴についての理解を深める。(DP1) 文学作品に適切な注釈をつける方法を学ぶこと。(DP3) スペイン文学について語るうえで、必要な基礎知識を身に付けること。(DP3) 文学作品を通じて、批判的思考を考える力を身につけよう。(DP4)		
到達目標			
授業内容	第1回 Introducción a la asignatura / オリエンテーション、シラバス確認 第2回 La literatura medieval española / 中世スペイン文学 第3回 Análisis del "Cantar de mio Cid" / 『わがシッドの歌』の分析 第4回 Análisis de El conde Lucanor / 『ルカノーリ伯爵』の分析 第5回 Análisis de "La Celestina" / 『ラ・セレスティーナ』の分析 第6回 La literatura española del Siglo de Oro / スペイン黄金世紀文学 第7回 Análisis del "Lazarillo de Tormes" / 『ラザリーヨ・デ・トルメスの生涯』の分析 第8回 Análisis de "Fuenteovejuna" / 『フエンテ・オベフーナ』の分析 第9回 Análisis de "Don Quijote de la Mancha" / 『ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ』の分析 第10回 La literatura española del Romanticismo / スペインロマン主義文学 第11回 Análisis de "Don Juan Tenorio" / 『ドン・ファン・テノーリオ』の分析 第12回 Análisis de las "Leyendas" / 『伝説集』の分析 第13回 La literatura española del Realismo y Naturalismo / スペイン写実主義文学 第14回 Análisis de "Fortunata y Jacinta" / 『フォルトゥナータとジャシント』の分析 第15回 Análisis de "La Regenta" y examen final / 『ラ・レヘンタ』の分析と学期末試験		
授業形態※	対面		
評価方法※	Trabajo: 40% Examen (respuesta múltiple): 40% Participación en clase: 20% レポート 40% 試験 [選択問題] 40% 授業への貢献 20%		

評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	現代ラテンアメリカ研究 I	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	木曜 2 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	ラテンアメリカの政治、社会および文化について学び、その特質性と多様性を理解する（DP3）。		
到達目標			
授業内容	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 食文化 第 3 回 人種と階層社会 第 4 回 先住民 第 5 回 宗教（１）： キリスト教の普及 第 6 回 宗教（２）： 植民地時代以前の宗教とキリスト教の融合 第 7 回 環境問題（１）： 開発と環境保全 第 8 回 環境問題（２）： 先住民から見た環境保全 第 9 回 政治と経済（１）： 独立から寡頭支配体制まで 第 10 回 政治と経済（２）： ポピュリズム 第 11 回 政治と経済（３）： 軍事政権 第 12 回 政治と経済（４）： 民政移管 第 13 回 小説・映画 第 14 回 音楽・絵画 第 15 回 まとめ 発表の総評		
授業形態※	対面		
評価方法※	授業への貢献度(42%)、発表（58%）		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	韓国語社会言語学Ⅰ	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	木曜 2 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	皆さんは、韓国語が使用される国・地域における歴史、文化、社会、政治、経済の特質を理解するとともに、アジアのダイナミズムに目を向け、広い視野で共生のあり方を考察する力を身が付きます。(ディプロマ・ポリシー 3)		
到達目標			
授業内容	第 1 回 オリエンテーション（授業の目的・進め方について）、シラバス確認 社会言語学の領域と基本概念 第 2 回 「韓国の若者言葉と俗語（356 単語・表現）」その 1 : pp.1-15. 第 3 回 「韓国の若者言葉と俗語（356 単語・表現）」その 2 : pp.16-30. 第 4 回 課題提出 第 5 回 「韓国の若者言葉と俗語（356 単語・表現）」その 3 : pp.31-45. 第 6 回 「韓国の若者言葉と俗語（356 単語・表現）」その 4 : pp.46-60. 第 7 回 「社会階層による言語特性の違い」その 1 : 研究目的 第 8 回 「社会階層による言語特性の違い」その 2 : 研究方法 第 9 回 「社会階層による言語特性の違い」その 3 : 音声/語彙 第 10 回 「社会階層による言語特性の違い」その 4 : 文章/談話 第 11 回 「言語と性（gender）」その 1 : 研究史概観 第 12 回 「言語と性（gender）」その 2 : 研究方法 第 13 回 「言語と性（gender）」その 3 : 応答語/疑問形語尾/語頭濃音化/母音変異 第 14 回 「言語と性（gender）」その 4 : 語彙/発話行為/性差別的言語現象 第 15 回 期末試験とその解説		
授業形態※	対面		
評価方法※	定期試験と授業への貢献度を考慮して総合的に評価します。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	現代イベリア研究 I	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	木曜 3 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	A：スペイン・ポルトガルの歴史の展開がイベロアメリカ諸国とどう共通し、どのように異なるかを理解する。(DP-3) B：他の欧州諸国やアフリカとの交流や相克を広範なスケールで理解する。(DP-3, 4) C：イベリア諸国の動きを通して、農業社会・工業社会・情報社会へと移行する文明的な見方や、多文化との共生・反発の歴史を理解する。(DP-1, 4)		
到達目標			
授業内容	第 1 回 【講義】イントロ：①スペイン・ポルトガルに関するアンケートを行う。②そのあと、イベリア半島の地政学的位置を明らかにする。 【予習】1 時間。イベリア諸国のイメージ、自分の知見を整理しておく。 【復習】2 時間。地政学が何であるかを確認する。 第 2 回 【講義】18 世紀啓蒙主義時代のイベリア諸国：カルロス三世とポンバル侯爵による産業育成と教育改革 【予習】1 時間。イベリア両国の貿易状況をまとめておく。 【復習】2 時間。経済の自由化、宗教の寛容が何であるかをまとめる。 第 3 回 【講義】19 世紀ナポレオン戦争時代：ナポレオンのイベリア半島侵入；自由主義憲法としてのカディス憲法制定。 【予習】1 時間。ナポレオンの人物像と業績を調べる。 【復習】2 時間。自由主義とは何であるかをその特徴を把握する。 第 4 回 【講義】19 世紀イベロアメリカ諸国の独立と旧宗主国への影響：リエゴの反乱；ポルトガル国王の帰国とブラジル独立。 【予習】1 時間。「リエゴ賛歌」について調べる。 【復習】2 時間。ブラジルの独立の経緯を整理する。 第 5 回 【講義】19 世紀イベリア諸国で並行する内乱：カルリスタ戦争とミゲリスタ戦争 【予習】1 時間。サリカ法典について調べる。 【復習】2 時間。両内戦の共通する特徴を把握する。 第 6 回 【講義】19 世紀スペインの第一共和政 【予習】1 時間。これと同時代的に生じた明治維新の背後にある思想を調べておくこと。 【復習】2 時間。革命家で教育者のカステラールの思想についてまとめる。 第 7 回 【講義】19 世紀スペインの王政・復古：穏健な王政と二大政党体制の成立。 【予習】1 時間。カノバスの人物像を調べておくこと。 【復習】2 時間。二大政党制の意義と限界をまとめる。 第 8 回 【講義】19 世紀イベリア両国の工業発展と都市化の進展。 【予習】1 時間。エッフェル塔で有名なエッフェルによる建築物を調べる。 【復習】2 時間。スペインにあるビルバオとバルセロナの工業化をまとめる。 第 9 回 【講義】1898 年米西戦争の帰趨とポルトガルのアフリカ植民地構想 【予習】1 時間。フィリピン、キューバの当時の政情を調べておく。 【復習】2 時間。ポルトガルと英国との緊張をまとめておく。		

授業形態※	第 10 回 【講義】1910 年のポルトガル革命：理念先行、現実を置き去りにした憲法発布 【予習】1 時間。メキシコ革命やロシア革命の理念を調べておく。 【復習】2 時間。ポルトガル共和革命の脆弱性をまとめる。 第 11 回 【講義】1910 年代と 20 年代のイベリア諸国の混乱 【予習】1 時間。エサ・デ・ケイロス著「アマロ神父の罪」によりポルトガル社会の状況を調べておく。 【復習】2 時間。スペインと北モロッコとの抗争を整理しておく。 第 12 回 【講義】1920 年代のスペイン独裁者プリモ・デ・リベラ：汎欧州的なファシズムの動向 【予習】1 時間。イタリアの独裁者ムッソリーニの思想と行動を調べる。 【復習】2 時間。プリモ・デ・リベラによる産業振興策の全体像をまとめる。 第 13 回 【講義】スペイン内戦（1936 から 39 年）と授業のまとめ：人民戦線と国民戦線との抗争；フランコ・サラザール体制の成立。 【予習】1 時間。フランスやチリでの人民戦線の実情を調べる。 【復習】2 時間。スペインにおける対立のポイントを整理しておく。 第 14 回 【講義】19 世紀カタルーニャにおける“文化復興”運動 【予習】1 時間。カタルーニャ語の特徴を調べる 【復習】2 時間。カタルーニャ復興運動の特色を整理する 第 15 回 【講義】ポルトガルの独裁者サラザールとグルベンキアン。全体のまとめ 【予習】1 時間。オスマントルコにおけるアルメニア人の位置づけを調べる 【復習】2 時間。グルベンキアンの文化活動をまとめる 対面
評価方法※	期末レポートをはじめ数回のレポート 70%、授業発表貢献点 30% の割合で合算して成績を出す。レポートは講評を行います。
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	東南アジア研究入門Ⅰ	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	金曜 1 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	東南アジアの文化や社会の基礎知識を学びながら、東南アジア地域に生きる人々の暮らしや多様性を理解する DP(3)		
到達目標			
授業内容	第 1 回 イン트로ダクション 第 2 回 中華世界と東南アジア①華夷秩序 第 3 回 中華世界と東南アジア②琉球王国と東南アジア 第 4 回 海の領有権問題①南シナ海問題 第 5 回 海の領有権問題②さまよえる人々 第 6 回 インドと「インド化」 第 7 回 貿易で栄えた港市国家 第 8 回 中間のまとめ 第 9 回 東南アジアの日本人町 第 10 回 外来人国家アユタヤ 第 11 回 「反逆者」か「英雄」か？ 第 12 回 港市国家の支配者と建国神話① 第 13 回 港市国家の支配者と建国神話② 第 14 回 これまでのまとめ 第 15 回 期末レポートへのフィードバックと発展学習		
授業形態※	対面		
評価方法※	期末レポートの成績、および授業への貢献度（グループディスカッションおよびプレゼンテーションでのプレゼンスを含む）、リアクションペーパーの内容をもとに、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認してください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	中国文学史 I	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	金曜 2 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	作品鑑賞と漢詩制作によって、中国古典詩歌に対する多角的で深い学びを目指す。(DP3)		
到達目標			
授業内容	第 1 回 授業説明 中国文学概説 第 2 回 中国詩史概説 漢詩制作①「漢詩の基礎知識」 第 3 回 解説と鑑賞：『詩経』 漢詩制作②平仄 第 4 回 解説と鑑賞：『楚辞』 漢詩制作③対句 第 5 回 解説と鑑賞：漢魏の詩、楽府、賦① 漢詩制作④その他のルール 第 6 回 解説と鑑賞：漢魏の詩、楽府、賦② 漢詩制作⑤名作を分析する 第 7 回 解説と鑑賞：六朝の詩歌① 漢詩制作⑥グループワーク 五言絶句「詩の内容を考えよう」 第 8 回 解説と鑑賞：六朝の詩歌② 漢詩を作ってみよう⑦グループワーク 五言絶句「漢字を並べてみよう」 第 9 回 解説と鑑賞：唐代の詩① 漢詩制作⑧グループワーク 五言絶句「ルールに沿って整えよう」 第 10 回 解説と鑑賞：唐代の詩② 漢詩制作⑨グループワーク 発表と相互評価 第 11 回 解説と鑑賞：唐代の詩③ 漢詩制作⑩グループワーク 七言律詩「詩の内容を考えよう」 第 12 回 解説と鑑賞：唐代の詩④ 漢詩制作⑪グループワーク 七言律詩「漢字を並べてみよう」 第 13 回 解説と鑑賞：宋代の詞① 漢詩制作⑫グループワーク 七言律詩「ルールに沿って整えよう」 第 14 回 解説と鑑賞：宋代の詩② 漢詩を作ってみよう⑬グループワーク 発表と相互評価 第 15 回 まとめ・質疑応答 期末テスト		
授業形態※	対面		
評価方法※	テスト 60% グループワーク 40%（貢献度 20%、成果物 20%）		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認してください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	韓国語文法論Ⅰ	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	金曜 2 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	韓国語が使用される国・地域における文化、社会の特質を理解するとともに、アジアのダイナミズムに目を向け、広い視野で共生のあり方を考察する力が、皆さんには身に付きます。 (ディプロマ・ポリシー3)		
到達目標			
授業内容	第 1 回 オリエンテーション（授業の目的・進め方について、韓国語能力試験の概要説明）、シラバス確認、「韓国語文法論・文法事項目録」の概説 「助詞」の 1 ～ 5 第 2 回 「助詞」の 6 ～ 10 第 3 回 「助詞」の 11 ～ 14 第 4 回 これまでの授業に関する課題提出 第 5 回 「助詞」の 15 ～ 20 第 6 回 「後置詞」の 1 ～ 8 第 7 回 「終止形語尾」の 1 ～ 5 第 8 回 「終止形語尾」の 6 ～ 9 第 9 回 「終止形語尾」の 10 ～ 13 第 10 回 「終止形語尾」の 14 ～ 18 第 11 回 接続形語尾」の 1 ～ 6 第 12 回 「接続形語尾」の 7 ～ 12 第 13 回 「接続形語尾」の 13 ～ 18 第 14 回 「接続形語尾」の 19 ～ 24 第 15 回 ・期末試験と解説		
授業形態※	対面		
評価方法※	筆記試験、授業への貢献度を考慮して総合的に評価します。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	米国政治・外交論 I	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	金曜 3 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	1. アメリカのナショナリズムと政治の根幹にあるデモクラシー、リベラリズムについて、憲法・法律や外交の観点から説明することができる。 2. アメリカの帝国主義について、国際政治、資本主義、文化・宗教といった多角的な視点から論じることができる。 3. アメリカ外交のキーワードの 1 つである国際主義について、歴史学・国際政治学の観点から説明することができる。		
到達目標			
授業内容	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 建国外交 第 3 回 国際戦争の進行とアメリカ外交 第 4 回 【オンライン】課題 第 5 回 対英戦争終結とモンロー主義 第 6 回 西部への発展と日米外交の黎明 第 7 回 19 世紀後半のアメリカ外交 第 8 回 帝国主義外交の展開 第 9 回 ウィルソン外交と第一次世界大戦 第 10 回 戦争とアメリカニズム 第 11 回 1920 年代のアメリカ外交 第 12 回 F・D・ルーズベルトの外交 第 13 回 戦間期のアメリカ① 第 14 回 戦間期のアメリカ② 第 15 回 総括		
授業形態※	対面		
評価方法※	・授業への参加（リーディング、プレゼンテーション、ディスカッション、授業内での発言等）：40 ポイント ・小テスト、課題：30 ポイント ・最終レポート：30 ポイント 合計：100 ポイント		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名※	外国語学部
科目名※	東南アジア政治経済論 I	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	金曜 3 限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	東南アジア地域および各国に関する基本知識、それらの歴史的背景、そして政治経済の現状と、現在抱える問題を理解する。(DP3)		
到達目標			
授業内容	第 1 回 イントロダクション：東南アジアというまとまりと、その国々 第 2 回 ミャンマー（ビルマ） 第 3 回 タイ 第 4 回 ベトナム 第 5 回 カンボジア、ラオス 第 6 回 フィリピン 第 7 回 マレーシア、シンガポール、ブルネイ 第 8 回 インドネシア 第 9 回 東チモール 第 10 回 冷戦下の東南アジア 第 11 回 ASEAN の発展 第 12 回 東南アジアの対外関係 第 13 回 東南アジアの人権問題 第 14 回 東南アジアの紛争 第 15 回 まとめと今後の課題		
授業形態※	対面		
評価方法※	筆記試験		
評価基準			
テキスト			
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。		
授業シラバス			

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ心理学	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	月曜日 5 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-102 教室
学修分野			
授業目的※	スポーツ心理学とはスポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり、応用心理学の一領域として捉えられています。本講義ではスポーツ心理学の基礎的な理論を中心に説明し、トピックに応じて実践的な利用法についても紹介していきます。		
到達目標	競技スポーツ、学校体育、健康スポーツなどに関連する心理的な諸問題を理解し、説明できるようになる。さらに、本講義で学んだこと、今まで自身が経験してきたこととの関連性についても考察できるようになる。		
授業内容	本講義ではスポーツに関わる領域（競技、学校体育、健康など）の内容を取り上げながら、学生の皆さんが将来目指す立場（競技者、指導者、教員、スポーツ医・科学スタッフなど）のトピックを学んでいきます。また、毎授業時に受講生が作成するレポート課題の記載内容や質問を活用しながら他者の経験を受益し、自身の心理面との比較も行います。その際、グループディスカッションを適宜取り入れることがあります。		
授業形態※	対面		
評価方法※	定期試験の成績 60%、平常点 40%（授業内での毎回のレポート課題、授業時の取り組み）とし、総合して評価する。		
評価基準			
テキスト	「なし」 ※適宜プリントを配布する予定です。		
注意事項			
授業シラバス	第1回 スポーツ心理学とは 授業の内容：ガイダンス、概念、歴史、スポーツ心理学が扱う分野について 事前学習：シラバスを熟読しておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第2回 スポーツ心理学の研究法 授業の内容：第1回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり）、実験法、調査法、面接法など 事前学習：研究の意味や方法について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第3回 スポーツと発達 授業の内容：第2回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり）、心身の運動の発達など 事前学習：発達と心の関係について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第4回 スポーツと動機づけ 授業の内容：第3回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり）、目標設定、社会的動機づけなど 事前学習：動機づけの意味について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第5回 スポーツとパーソナリティ 授業の内容：第4回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり）、競技特性によるパーソ		

	ナリテの違い 事前学習：パーソナリティの意味について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第6回 運動のメカニズム 授業の内容：第5回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），学習理論，技術の獲得など 事前学習：運動学習について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第7回 競技スポーツの心理① 授業の内容：第6回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），競技者の心理，心理的スキルなど 事前学習：心理的スキルについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第8回 競技スポーツの心理② 授業の内容：第7回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），競技に必要な緊張，イメージなど 事前学習：緊張の意味について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第9回 学校体育と心理 授業の内容：第8回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），スポーツ選手のライフスキルなど 事前学習：ライフスキルについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第10回 スポーツが心身の健康に及ぼす影響 授業の内容：第9回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），メンタルヘルス，ストレスコーピングなど 事前学習：メンタルヘルスの意味について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第11回 メンタルトレーニング① 授業の内容：第10回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），心理臨床技法のスポーツへの活用（認知） 事前学習：心理学における認知の意味について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第12回 メンタルトレーニング② 授業の内容：第11回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），心理臨床技法のスポーツへの活用（行動） 事前学習：心理学における行動の意味について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第13回 スポーツと社会心理学 授業の内容：第12回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），凝集性，集団規範など 事前学習：社会心理学で取り扱われる内容について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第14回 スポーツと臨床 授業の内容：第13回目のレポート課題のフィードバック（配布資料あり），アスリートの心理的課題 事前学習：臨床心理学で取り扱われる内容について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第15回 まとめ 授業の内容：第14回目のレポート課題のフィードバック（資料あり），今までの授業で特に重要な範囲のまとめ，振り返り 事前学習：14回目までの範囲を再読しておくこと 事後学習：授業全体の内容についてまとめておくこと ※授業内容は，受講者数や受講者の興味関心，理解度などに応じて多少変更することがあります。
--	---

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ指導論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	水曜日 2 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	1-219 教室
学修分野			
授業目的※	スポーツ指導者は、パフォーマンススキルに関する知識だけではなく、選手のやる気を引き出したり、リーダーシップを発揮してチームをまとめたりと多様な能力を身に着けている必要があります。スポーツ指導論では、指導者が社会に求められる役割から実務的なマネジメントまで基礎的な知識を身につける。		
到達目標			
授業内容	本授業では、スポーツ指導者の倫理や心構え等の重要性について学ぶ。さらに、指導者の役割やプレーヤーと指導者の望ましい関係等について学ぶ。 また、指導計画のたて方やスポーツ活動と安全管理についても学ぶ。		
授業形態※	対面		
評価方法※	毎回の授業内小レポート・授業外学習（50％）及び定期試験に代わるレポート（50％）とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	なし		
注意事項			
授業シラバス	第 1 回 オリエンテーション コーチングの概念を概説する 第 2 回 スポーツ指導者とは スポーツの意義と価値、スポーツライフ構築の為の指導者について 第 3 回 スポーツ指導者の倫理 スポーツ指導者としての望ましい考え方や行動について 第 4 回 指導者の心構え・視点 スポーツ指導者の心構え、コーチングの基本的な理論 第 5 回 プレイヤーと指導者の望ましい関係 望ましいプレイヤー像、コーチングスキルについて 第 6 回 ミーティングの方法 なぜミーティングをするのか、ミーティング実施のポイントについて 第 7 回 指導計画の立て方 スポーツ指導計画の重要性、スポーツ指導計画立案の原則について 第 8 回 スポーツ活動と安全管理 スポーツにおける安全確保の知識、具体的行動について 第 9 回 スポーツ指導者に求められる役割 スポーツ指導者に求められる役割。そのための知識とスキルについて 第 10 回 プレイヤーズセンタードなコーチング		

	最適なスポーツ経験、ゲーム基盤型コーチングについて 第 11 回 コーチの学び コーチの学びの場とセルフマネジメントについて 第 12 回 対他者力を磨こう コミュニケーションスキル、リーダーシップスキル等の対他者スキルについて 第 13 回 暴力・ハラスメントの根絶 暴力根絶宣言等について 第 14 回 スポーツ指導者の法的責任 スポーツ指導者が負う法的責任について 第 15 回 まとめ ※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。
--	--

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ倫理	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	木曜日 3 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	1-315 教室
学修分野			
授業目的※	ジュニア期のスポーツに焦点を当て、子どもの特性・発育発達を踏まえた指導を、スポーツ倫理の側面から学修を進める。日本スポーツ協会のジュニアスポーツ指導員資格教本に準拠し、指導者の資質向上に向けた基礎的知識の獲得が主たるテーマとする。		
到達目標	本授業の到達目標は、以下の 3 点である。 ①ジュニア期のスポーツ指導者としての基礎知識が説明できる ②指導者としての倫理観が説明できる ③子どもとのコミュニケーションの基本が説明できる		
授業内容	本授業では、ジュニア期のスポーツの考え方、子どもの発達とコミュニケーションスキルといった具体的なテーマのもと、スポーツ倫理の重要性を学修する。スポーツ文化の価値を高め、創造するため、社会から求められる指導者像の確立につなげる。指導における、体罰や暴力の根絶に必要な知識とスキルを具体的に学ぶ。		
授業形態※	対面		
評価方法※	毎回の授業内小レポート・授業外学習（40%）及び定期試験（60%）とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	指定テキストは特にない。必要な教材は随時配布もしくは紹介する。		
注意事項			
授業シラバス	第 1 回 オリエンテーション 授業のねらい及び到達目標、学習内容、成績評価方法・基準について 第 2 回 スポーツ倫理とは何か、なぜスポーツ倫理を学ぶのか スポーツ倫理とは何か、なぜスポーツ倫理を学ぶのかについて 第 3 回 現代社会における子どもを取り巻く環境 子どもたちを取り巻く環境、体育・スポーツを行う意味とは 第 4 回 ジュニア期のスポーツの考え方① 取り巻く問題とその背景 第 5 回 ジュニア期のスポーツの考え方② 発育・発達段階に応じたプログラム 第 6 回 ジュニア期のスポーツの考え方③ 望ましいジュニア期のスポーツ指導 第 7 回 子供の発達とコミュニケーションスキル① コミュニケーションスキルの必要性 第 8 回 子供の発達とコミュニケーションスキル② 自発的な行動を引き出すためのコミュニケーション 第 9 回 スポーツ指導者のための倫理ガイドライン スポーツの意義と価値・フェアプレイの実践		

	第 10 回 暴力、体罰、ハラスメントと社会 暴力、体罰、ハラスメントを克服するために 第 11 回 ドーピング、アンチ・ドーピング スポーツの精神・価値、なぜドーピングはいけないのか 第 12 回 スポーツボランティアについて スポーツボランティアとは？スポーツボランティアの種類等について 第 13 回 ゲームの倫理学 ゲームとは？ルール遵守等について 第 14 回 スポーツとジェンダー ジェンダーとは？スポーツにおけるジェンダー 第 15 回 まとめ ※授業内容は，受講者数や受講者の興味関心，理解度などに応じて多少変更することがあります。
--	---

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ社会学	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	木曜日 5 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-205 教室
学修分野			
授業目的※	本授業は、近代社会におけるスポーツの特徴や意義・役割について概説する。またこれからのスポーツ振興のあり方や方法についても概説する。		
到達目標	スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やあり方について説明できるようになる。さらに地域のスポーツ振興についても興味を持てるようになる。		
授業内容	本授業では、まずスポーツの概念や歴史から学ぶ。さらにスポーツ振興に重要な役割を果たす総合型地域スポーツクラブを通じて地域のスポーツ振興についても学ぶ。 また、スポーツ指導における法的責任や人権、政治、資格を通じてこれからのスポーツ振興について学ぶ。 授業の後半は、講義だけでなくグループワークも行う。		
授業形態※	対面		
評価方法※	毎回の授業内小レポートと manaba を活用した授業外学習（50%）及び定期試験に代わる授業外レポート（50%）とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	指定テキストは持っていない。必要な教材は随時配付もしくは紹介する。		
注意事項			
授業シラバス	第1回 オリエンテーション シラバスをもとに、授業のねらい及び到達目標、学習内容、成績評価方法・基準について説明する。 事前学習：シラバスを熟読しておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第2回 スポーツの概念と歴史 スポーツの概念と歴史について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツの概念と歴史について調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第3回 文化としてのスポーツ スポーツの文化的特性やスポーツ文化の内容について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：文化としてのスポーツについて調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第4回 社会の中のスポーツ 現代社会とスポーツ、スポーツの産業化と発展について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：社会の中のスポーツについて調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第5回 我が国のスポーツプロモーション 我が国のスポーツプロモーションとその課題・展望について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。		

	事前学習：我が国のスポーツプロモーションについて調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第6回 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわりについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわりについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第7回 総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義 総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第8回 総合型地域スポーツクラブの育成と運営 総合型地域スポーツクラブの育成と運営について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：総合型地域スポーツクラブの育成と運営について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第9回 地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」 地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第10回 スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティング スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティングについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティングについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第11回 スポーツ事業のプロモーション スポーツ事業・イベントの計画・立案について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツ事業のプロモーションについて調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第12回 スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任について調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第13回 スポーツと人権 スポーツ倫理と基本的人権、スポーツと社会規範について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツと人権について調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第14回 スポーツと政治 スポーツと政治との関わりについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツと政治について調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第15回 スポーツ指導者と資格 資格社会におけるスポーツ指導者資格の位置付けについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツ指導者と資格について調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 ※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。
--	--

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	コーチング論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	金曜日 3 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-102 教室
学修分野			
授業目的※	各種スポーツにおけるコーチの役割は、試合およびトレーニング現場での指導からチームマネジメントに至るまで多岐にわたる。本授業では、コーチングに必要な基礎的理論を学習する。		
到達目標	各種スポーツにおけるコーチを目指す学生が、対象に合わせたコーチングに必要な基礎的理論を理解し、更にトレーニング計画を作成できる。		
授業内容	本講義では、コーチが選手の意欲や能力を引き出し促進するための「コーチング・スキル」に焦点を当てる。 また、主な対象としてジュニア期を採り上げ、ジュニア期の選手の指導方法について学ぶ。そのほか、グループワークを通して実践的なコーチングの手順を学ぶ。		
授業形態※	対面		
評価方法※	期末試験(80%)，授業内課題等(20%)として総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	不要		
注意事項			
授業シラバス	第 1 回 オリエンテーション・コーチとは？ 授業概要の説明，評価方法・コーチとしての在り方・コーチに求められる役割 事前学習：シラバスを熟読しておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 2 回 コーチング哲学 指導者のコーチング哲学・プレイヤーズセンタード・よい指導者としての観点・アスリートファーストとは 事前学習：コーチングにおける「動機付け」「共感」について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 3 回 コーチングスキル コーチングの基本的な考え・コーチに求められる知識とスキル 事前学習：コミュニケーションにはどのような種類があるか調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 4 回 コミュニケーションスキル① 「傾聴」と「承認」 事前学習：「自分が褒められて嬉しい言葉」をできるだけ多く考えておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 5 回 コミュニケーションスキル② 「質問」の役割 事前学習：「質問」と「発問」の違いをまとめておくこと		

	事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 6 回 モチベーションの向上① モチベーションを上下させる要因とは 事前学習：「ハーズバーグの二要因理論」について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 7 回 モチベーションの向上② 相手のモチベーションを最大限引き出すにはどうすれば良いか？ 事前学習：自分の成功体験を振り返りまとめておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 8 回 前半のまとめ 前半の学習内容についての振り返り 事前学習：第 1 回から第 7 回までの講義内容をまとめておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 9 回 コーチングにおける安全管理 リスクアセスメントとリスクマネジメント・安全管理上の配慮事項 事前学習：スポーツ指導の事故事例を調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 10 回 トレーニング計画 トレーニング期分け・プログラム作成時のポイント 事前学習：各競技の海外のトレーニング事情を調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 11 回 ジュニア期の動きの獲得と発達 ジュニア期の発育発達と動きの獲得過程・動きの質的評価 事前学習：生理学のテキストを復習しておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 12 回 ジュニアスポーツ選手のためのトレーニング ジュニア選手のための筋力トレーニングとその安全性 事前学習：生理学のテキストを復習しておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 13 回 タレント発掘 タレント発掘事業，タレントトランスファー・時代をリードするコーチング 事前学習：各地で行われているタレント発掘事業について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 14 回 コーチングの実践事例・ケーススタディ（専門種目ごとに分かれてグループワーク） コーチングの実践事例の紹介と問題点について 事前学習：出身校など身の回りのスポーツ指導現場の実際について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行うこと 第 15 回 まとめ 講義全体のまとめ，要点の整理 事前学習：14 回までのノートを再読しておくこと 事後学習：授業全体について振り返りを行うこと ※授業内容は，受講者数や受講者の興味関心，理解度などに応じて多少変更することがあります。
--	---

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	予防と介護	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	月曜日 1 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-104 教室
学修分野			
授業目的※	わが国では平均寿命が延び、高齢化が急速に進むことで、高齢者のみの世帯が急増している。高齢者だけでご自宅で過ごす時間も長くなっているだろう。 昔ながらの日本家屋は段差が多く、廊下や開口部防狭いなど、高齢者にとって安全で快適な住まいとは言えないことが多い。安心して、快適に、自立してすまうことができる「福祉住環境」の視点が非常に重要であることは言うまでもない。 そこで、本科目のねらいは、受講生が①「福祉住環境」の視点を理解し説明できること、②「福祉住環境コーディネーター3 級」取得の意義を理解し説明できること、とする。		
到達目標	・基本的な福祉、高齢者における住環境に対して意見交換ができる。 ・介護予防に必要な改善プログラムの基礎知識を持つ。 ・日商で行われている検定試験の福祉住環境コーディネーター3 級レベルの知識を有する。		
授業内容	高齢者が住み慣れた地域で、主体性をもって自分らしく生活を最後まで続けることができるように「地域包括ケアシステム」という概念は、これからの地域ケアを導く先導概念として用いられている。この医療と介護、福祉にまたがる包括的なケアを実践していく上で、福祉と住環境の関連分野の基礎的知識について概説していく。医療・介護・福祉分野に関わり、地域社会や障がいのある人に対して、健康管理・健康増進を担う受講生にとっては土台となる概念であろう。授業は講義だけでなくオンライン上での課題遂行や教室内でのグループ学習などを通じ、履修生自身が知識や自分の考えをアウトプットする機会を多く設け、進めていく。授業は講義だけでなくオンライン上での課題遂行や教室内でのグループ学習などを通じ、履修生自身が知識や自分の考えをアウトプットする機会を多く設け、進めていく。		
授業形態※	対面		
評価方法※	学修成果物（レポート課題、グループ発表など）：60% 定期試験：40%		
評価基準			
テキスト	東京商工会議所(編).福祉住環境コーディネーター検定試験 3 級公式テキスト改訂 6 版.東京商工会議所		
注意事項			
授業シラバス	【第1回】介護予防とは 事前学習：介護予防について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第2回】介護保険制度とは 介護保険制度について概観し、制度の隙間で起こるハラスメント事例についてグループディスカッションを行う。 事前学習：介護保険制度について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実		

	施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第3回】介護予防プログラムとは 千葉県市原市の現状を概観し、なぜ介護予防が必要なのか？地域レベルで何ができるのか？グループディスカッションを行う。 事前学習：介護予防運動について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第4回】介護保険における介護予防とは 介護予防を考えていく上で、高齢者の身体機能体験することで何をすべきなのか？グループワークを行う。 事前学習：介護予防についての意義について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第5回】地域支援事業における介護予防とは 地域支援事業を考えていく上で、建造環境にも配慮する必要がある。建造環境において、何かりりアとなり得るのか？グループワークを行う。 事前学習：地域支援事業について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第6回】高齢者、障がい者の身体知識 高齢者、障がい者の身体機能体験を通して自己学習できたことをグループで共有しレポートにまとめるグループワークを行う。 事前学習：高齢者の身体的特徴について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第7回】高齢者、障がい者の病気 高齢者、障がい者の疾患・心理を理解する上でどのような情報が 필요한のか？どのようなコミュニケーションを取る必要があるのか？グループディスカッションを行う。 事前学習：高齢者のなりやすい病気について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第8回】高齢者、障がい者の心理 高齢者、障がい者の疾患・心理を理解する上でどのような情報が 필요한のか？どのようなコミュニケーションを取る必要があるのか？仮想症例を通してグループディスカッションを行う。 事前学習：高齢者の心理状態について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。
--	--

	【第9回】高齢者の運動および注意点 高齢者、障がい者に運動や身体活動を促す際どのようなことに注意し、配慮すべきなのか？仮想症例を通してグループディスカッションを行う。 事前学習：高齢者の運動時の注意点について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第10回】運動器の機能向上プログラム 高齢者、障がい者に運動や身体活動を促す際どのようなことに注意し、配慮すべきなのか？仮想症例に合わせたプレゼンテーションを行う。 事前学習：運動療法について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第11回】口腔ケア、栄養改善プログラム フレイル予防・改善に向けた地域活動、取り組みについて概観し、グループディスカッションを行う。 事前学習：高齢者の嚥下障害について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第12回】福祉用具の選定、住宅改修の知識 事前学習：福祉用具、住宅改修について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第13回】ケアマネジャーとは 事前学習：ケアマネジャーの役割について使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第14回】ケアマネジメント 地域在住高齢者をいかにして自律した生活を取り戻し、地域の互助活動に戻って頂くのか？仮想地域の取り組みに合わせてグループプレゼンテーションを行う。 事前学習：アセスメントについて使用テキスト及び参考書を事前に読み、分からない箇所はノートにまとめておき、主体的に調べる。また、授業内で課題を提示する。次回の授業までに各自実施しておくこと。 事後学習：授業内容について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 【第15回】まとめ 今までの学習したことをリフレクションを行い、再確認しながら理解を深める。各回のキーワードについてグループディスカッションを行う。 事前学習：今まで行った授業を振り返り、講義資料やテキスト、自己学習ノートを再読しておく。 事後学習：授業全体について振り返り、manaba ドリル課題や自己調べ学習を行い、ノートにまとめておくこと。 ※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。
--	--

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツマネジメント論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	水曜日 1 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-106 教室
学修分野			
授業目的※	本授業では、総合型地域スポーツクラブのクラブマネジャー・アシスタントマネジャーの役割や求められる能力を中心に、スポーツマネジメントに必要な知識と技能について概説する。		
到達目標	本授業は、日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャーに対応する科目であることから、「スポーツ経営・管理学」を発展させたスポーツマネジメントについて説明できるようになるとともに、総合型地域スポーツクラブを育成・運営するためのビジネスプラン（事業計画書）を顧客志向で作成できるようになる。		
授業内容	本授業は、総合型地域スポーツクラブのクラブマネジャー・アシスタントマネジャーの役割や求められる能力を中心に、「スポーツ経営・管理学」を発展させたスポーツマネジメントに必要な知識と技能について学ぶ。 また、総合型地域スポーツクラブを育成・運営するためのビジネスプラン（事業計画書）を作成する。 授業の後半は、講義だけでなくグループワークも行う。		
授業形態※	対面		
評価方法※	毎回の授業内小レポート（50%）及び定期試験に代わる授業外レポート（50%）とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	「はじめて学ぶスポーツマネジメント」中西純司編著、株式会社みらい		
注意事項			
授業シラバス	本授業は、スポーツマネジメント分野に興味を持つ学生を対象に「スポーツ経営・管理学」を発展させた内容であることから、第 1 回目授業で「スポーツ経営・管理学」の復習テストを実施し、一定の水準に到達していない学生の履修を制限する場合もある。 第 1 回 オリエンテーション シラバスをもとに、授業のねらい及び到達目標、学習内容、成績評価方法・基準について説明する。 事前学習：シラバスを熟読しておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第 2 回 クラブマネジャーの役割① クラブマネジャー・アシスタントマネジャーとは何か概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：クラブマネジャーとは何かについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第 3 回 クラブマネジャーの役割② クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの位置づけについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：クラブマネジャーの位置づけについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第 4 回 クラブマネジャーの役割③		

	クラブマネジャー・アシスタントマネジャーに求められる能力について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：クラブマネジャーに求められる能力について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第5回 クラブマネジャーに必要な能力① ロジカルシンキング（論理的思考法）について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：ロジカルシンキングについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第6回 クラブマネジャーに必要な能力② コミュニケーションについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：コミュニケーションスキルについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第7回 クラブマネジャーに必要な能力③ マーケティング・経営戦略について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：マーケティングについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第8回 クラブマネジャーに必要な能力④ 人・組織のマネジメント能力について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：人・組織のマネジメント能力について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第9回 クラブマネジャーに必要な能力⑤ 施設の管理と運営について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：施設の管理と運営について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第10回 クラブマネジャーに必要な能力⑥ ホスピタリティについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：ホスピタリティについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第11回 クラブマネジャーに必要な能力⑦ スポーツクラブの安全管理（リスクマネジメント）について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：リスクマネジメントについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第12回 クラブマネジャーに必要な能力⑧ 財務について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：財務について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第13回 総合型地域スポーツクラブの創設① ビジネスプラン（事業計画書）の作成と評価について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：ビジネスプランについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第14回 総合型地域スポーツクラブの創設② ビジネスプラン（事業計画書）を作成する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：ビジネスプランの評価について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 第15回 まとめ 事前学習：14回までのテキスト範囲及びノートを再読しておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめること。 ※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。
--	--

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ栄養学	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	木曜日 2 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-205 教室
学修分野			
授業目的※	スポーツ栄養学はスポーツをする全ての人を対象に「何を、いつ、どのくらい、どのように食べたらよいか」を学ぶ学問です。競技スポーツだけでなく、すべてのスポーツ時の栄養や食事方法について学修します。		
到達目標	基本的な栄養素の働きや目的、状況に応じた栄養管理、食事方法について説明できる力を身につけます。また、アスリート、指導者として自身の食事管理や目的に応じた食事選択ができることを最終目標とします。		
授業内容	授業は講義形式で行い、必要に応じてプリントを配布します。 前半は栄養素の働きや代謝の過程など栄養学の基礎知識について、後半は目的、状況別の栄養管理や食事方法等について説明します。また、個人ワークや演習を通して、学習を深めます。		
授業形態※	対面		
評価方法※	定期テスト 70%程度、平常点（提出物や授業態度等）30%程度で総合的に評価します。		
評価基準			
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス	【第 1 回】オリエンテーション アスリートの食事① 自分の食事を振り返り、基本の食事の形について学ぶ 事前学習：普段の食事について振り返りを行っておくこと。 事後学習：自身の食事と基本の形について比較し、振り返りを行うこと。 【第 2 回】アスリートの食事② アスリートの食事の形や食事の分類、食品群について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 3 回】アスリートの食事③ さまざまな食品の特徴について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 4 回】五大栄養素の役割① 炭水化物、脂質の体内での働き、代謝について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 5 回】五大栄養素の役割② たんぱく質の体内での働き、代謝について学ぶ		

	事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 6 回】五大栄養素の役割③ ビタミン、ミネラルの体内での働き、代謝について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 7 回】アスリートの栄養障害① アスリートに見られる骨障害（骨折、骨粗鬆症等）、スポーツ貧血とその予防について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 8 回】アスリートの栄養障害② 運動時の水分補給のタイミングと種類について学ぶ 熱中症の種類と仕組み、予防について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 9 回】栄養食事計画① スポーツ栄養マネジメントの流れと栄養教育について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 10 回】栄養食事計画② スポーツ選手の身体組成とエネルギー消費量について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 11 回】栄養食事計画③ 増量時・減量時の栄養管理について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 12 回】目的別の栄養管理① 種目別の食事・栄養管理について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 13 回】目的別の栄養管理② 女性アスリートにおける食事・栄養管理について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 14 回】目的別の栄養管理③ 試合期・特殊環境下の食事・栄養管理について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 【第 15 回】目的別の栄養管理④ サプリメントの種類と活用方法について学ぶ 事前学習：該当箇所の興味のある語句や内容を調べておくこと。 事後学習：授業について振り返りを行い、ノートにまとめておくこと。 ※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。
--	--

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ経営・管理学	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	木曜日 4 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-104 教室
学修分野			
授業目的※	本授業では、総合型地域スポーツクラブの育成・運営を中心に、スポーツ経営学の基本的な考え方や構造・事業について概説する。		
到達目標	本授業は、日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャーに対応する科目であることから、スポーツ経営学とは何か説明できるようになる。また総合型地域スポーツクラブを育成・運営する起業家精神とは何か説明できるようになる。		
授業内容	本授業は、総合型地域スポーツクラブの育成・運営を中心に、スポーツ経営学の基本的な考え方や構造・事業について学ぶ。 また、総合型地域スポーツクラブが育成される社会的・政策的な背景や国民の運動・スポーツ実践についても学ぶ。 これらの知識は、社会体育指導者のみならず、保健体育科教員、スポーツ行政等をを目指す学生にも重要である。 授業の後半は、講義だけでなくグループワークも行う。		
授業形態※	対面		
評価方法※	毎回の授業内レポートと manaba を活用した授業外学習（50%）及び定期試験に代わる授業外レポート（50%）とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	指定テキストは特になし。必要な教材は随時配布もしくは紹介する。		
注意事項			
授業シラバス	第1回 オリエンテーション シラバスをもとに、授業のねらい及び到達目標、学習内容、成績評価方法・基準について説明する。 事前学習：シラバスを熟読しておくこと 事後学習：授業で学んだ内容を必ず振り返ること 第2回 スポーツ経営学とは スポーツ経営学の概念と構造について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツ経営学の概念について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第3回 運動者と運動者行動について 運動・スポーツ実践の現状と運動者行動の基本類型について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：運動者と運動者行動について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第4回 スポーツサービス(事業)とは スポーツサービス(事業)である AS、PS、CS について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：スポーツサービス(事業)について調べておくこと		

	事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第5回 地域スポーツクラブの現状 地域スポーツクラブを取り巻く環境について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：地域スポーツクラブの現状について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第6回 わが国のスポーツ政策 スポーツ基本法とスポーツ基本計画について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：わが国のスポーツ政策について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第7回 総合型地域スポーツクラブとは 総合型クラブを取り巻く環境とクラブマネジメントの仕組みについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：総合型地域スポーツクラブについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第8回 総合型クラブの育成・運営① クラブ創設のステップについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：クラブ創設のステップについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第9回 総合型クラブの育成・運営② クラブの自主運営に必要な条件や経営資源について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：クラブの自主運営について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第10回 総合型クラブの育成・運営③ クラブの顧客とスタッフの定義について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：クラブの顧客とスタッフの定義について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第11回 総合型クラブの育成・運営④ NPO 法人格の取得手続きについて概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：NPO 法人格の取得手続きについて調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第12回 総合型クラブの育成・運営⑤ クラブの活動拠点（クラブハウス含む）・財源の確保について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：クラブの活動拠点の確保について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第13回 総合型クラブの育成・運営⑥ 事業計画書（ビジネスプラン）の作成と評価について概説する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：事業計画書（ビジネスプラン）について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第14回 総合型クラブの育成・運営⑦ 総合型クラブの事例を紹介する。グループワークとグループでの発表も行う。 事前学習：総合型クラブの事例について調べておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 第15回 まとめ 事前学習：14回までのテキスト範囲及びノートを再読しておくこと 事後学習：授業について振り返りを行いキーワードをノートにまとめておくこと。 ※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。
--	--

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ医学入門	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	金曜日 2 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-202 教室
学修分野			
授業目的※	スポーツ活動によって引き起こされる心身の応答と種々の障害を学修し、障害予防のために行なわれるメディカルチェックを学修する。また、スポーツ活動の仕方に注意が必要となる糖尿病について学ぶ。		
到達目標	医学的な根拠を持って適切な運動指導ができることを到達目標とする。		
授業内容	それぞれの回のトピックスに関わる身体の構造と機能を理解する。スポーツ活動が引き起こす外傷、内科的・外科的障害および精神的影響を学修し、それぞれの場合の対処の仕方を概説する。また、アスリートに起こる問題としてドーピングについても概説する。		
授業形態※	対面		
評価方法※	定期試験の成績 85%、小テストの受検状況 15%で評価する。		
評価基準			
テキスト	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ 日本スポーツ協会発行		
注意事項			
授業シラバス	【第1回】オリエンテーション：授業の進め方や受け方を説明する。スポーツと健康（Ⅰ－4－①）： ① スポーツ医学を学ぶにあたって、スポーツと健康の関わりを理解する。 ② WHOの健康の定義を理解する。 事前学習（予習）：テキストⅠ－4－①「スポーツと健康」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。 事後学習（復習）：受講後1日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6日以内に小テストを受検する。 【第2回】アスリートの健康管理と内科的メディカルチェック（Ⅲ－7－①）： ① チーム医療、健康管理体制のあり方について学ぶ。 ② アスリートの健康における自己管理について学ぶ。 ③ 内科的メディカルチェックの意義、問診の方法について学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅢ－7－①「アスリートの健康管理」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。 事後学習（復習）：受講後1日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6日以内に小テストを受検する。 【第3回】内科的メディカルチェックの実際（Ⅲ－7－①）： ① バイタルサインについて学ぶ。 ② 意識状態とその異常について学ぶ。 ③ 内科的メディカルチェックの血液検査、生理機能検査、画像検査とデータの活用について学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅢ－7－①「アスリートの健康管理」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。		

	事後学習（復習）：受講後 1 日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6 日以内に小テストを受検する。 【第 4 回】アスリートの内科的障害と対策《循環器》（Ⅰ－4－②、Ⅲ－7－②）： ① 内科的障害どのような障害があるか学ぶ。 ② 疾患を理解するための基本的な循環器の構造と機能を学ぶ。 ③ 突然死とその原因となる疾患について学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅠ－4－②「スポーツ活動中に多いケガや病気(内科)」とテキストⅢ－7－②「アスリートの内科的障害と対策」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。 事後学習（復習）：受講後 1 日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6 日以内に小テストを受検する。 【第 5 回】アスリートの内科的障害と対策《呼吸器》（Ⅲ－7－②）： ① 疾患を理解するための基本的な呼吸器の構造と機能を学ぶ。 ② 気管支喘息、過換気症候群について学ぶ。 ③ アナフィラキシー、自然気胸について学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅢ－7－②「アスリートの内科的障害と対策」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。 事後学習（復習）：受講後 1 日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6 日以内に小テストを受検する。 【第 6 回】アスリートの内科的障害と対策《貧血・オーバートレーニング》（Ⅰ－4－②、Ⅲ－7－②）： ① アスリートが起こしやすい貧血の種類、成因について学ぶ。 ② 貧血の予防、治療について学ぶ。 ③ オーバートレーニングについて成因、症状、予防、治療について学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅠ－4－②「スポーツ活動中に多いケガや病気(内科)」とテキストⅢ－7－②「アスリートの内科的障害と対策」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。 事後学習（復習）：受講後 1 日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6 日以内に小テストを受検する。 【第 7 回】アスリートの内科的障害と対策《その他の障害》（Ⅲ－7－②）： ① 運動によって起こる蛋白尿・血尿について学ぶ。 ② 糖尿病の病態について学ぶ。 ③ 糖尿病の分類について学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅢ－7－②「アスリートの内科的障害と対策」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。 事後学習（復習）：受講後 1 日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6 日以内に小テストを受検する。 【第 8 回】アスリートの外傷・障害と対策Ⅰ（Ⅲ－7－②）： ① スポーツによるケガ発生の頻度と傾向について学ぶ。 ② 骨折について学ぶ。 ③ 捻挫、肉離れについて学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅢ－7－②「アスリートの外傷・障害と対策」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。 事後学習（復習）：受講後 1 日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6 日以内に小テストを受検する。 【第 9 回】アスリートの外傷・障害と対策Ⅱ（Ⅰ－4－③）： ① 頭頸部に起こる外傷・障害について学ぶ。 ② 上肢・体幹部に起こる外傷・障害について学ぶ。 ③ 下肢に起こる外傷・障害について学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅠ－4－③「スポーツ活動中に多いケガや病気(内科・外科)」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。
--	---

	事後学習（復習）：受講後1日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6日以内に小テストを受検する。 【第10回】救急処置（Ⅰ－4－④,⑤）： ① 救急蘇生法(心肺蘇生)について学ぶ。 ② 救急蘇生法(AED)について学ぶ。 ③ スポーツ外傷に関わる応急手当（R I C E）について学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅠ－4－④,⑤「救急処置」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。 事後学習（復習）：受講後1日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6日以内に小テストを受検する。 【第11回】アスレティック・リハビリテーションとコンディショニング（Ⅲ－7－④⑤）： ① アスレティック・リハビリテーションの目的について学ぶ。 ② アスレティック・リハビリテーションの実施上の留意点、進め方について学ぶ。 ③ コンディショニングとして行われるストレッチング、アイシングの目的、効果、注意事項等について学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅢ－7－④⑤「アスレティック・リハビリテーションとトレーニング計画」と「コンディショニングの手法」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。 事後学習（復習）：受講後1日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6日以内に小テストを受検する。 【第12回】メンタルヘルスとスポーツ（Ⅲ－7－⑥）： ① スポーツがメンタルヘルスにもたらすプラスの効果について学ぶ。 ② スポーツがメンタルヘルスにもたらすマイナスの効果について学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅢ－7－⑥「スポーツによる精神障害と対策」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。 事後学習（復習）：受講後1日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6日以内に小テストを受検する。 【第13回】特殊環境とスポーツ（Ⅲ－7－⑦）： ① 暑熱環境と熱中症について学ぶ。 ② 低温対策と凍傷について学ぶ。 ③ 高山病と高地トレーニングについて学ぶ。 ④ 時差対策について学ぶ。 ⑤ 感染症対策について学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅢ－7－⑦「特殊環境下での対応」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。 事後学習（復習）：受講後1日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6日以内に小テストを受検する。 【第14回】ドーピング（Ⅲ－7－⑧）： ① ドーピングの歴史と意義、ドーピング防止機構（世界・日本）について学ぶ。 ② ドーピング検査と禁止物質について学ぶ。 ③ ドーピング防止のための指導者の役割について学ぶ。 事前学習（予習）：テキストⅢ－7－⑧「ドーピング防止」と、manaba2 に予めアップロードされている講義資料に目を通しておくこと。 事後学習（復習）：受講後1日以内にテキストの当該項目を読み、講義資料を見直す。6日以内に小テストを受検する。 【第15回】講義の補足・まとめ 事前学習（予習）：これまでの講義内容を十分に復習しておくこと。 事後学習（復習）：授業の不明点や疑問点を解決する。 ※授業内容は、受講者数や受講者の興味関心、理解度などに応じて多少変更することがあります。
--	--

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	社会福祉論	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度前学期	曜日・時限※	月曜日 2 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-201
学修分野			
授業目的※	誰もが社会福祉と無関係ではない。なぜなら、誰もが日々関わるさまざまな社会関係のなかで生じた「関係の不調」を社会福祉は対象とするからである。社会福祉分野で注目される考え方の基礎的な理解に込められた人間観・社会観を学習する。さらに受講生が自らの「コミュニティ政策学」の視点を育てるための一助とすることも合わせて目的とする。		
到達目標	①社会福祉の人間観・社会観を理解する。②自らも社会福祉と無関係ではないことを理解する。③「コミュニティと社会福祉」に関する自分なりの問題意識を育む。		
授業内容	(1) 社会福祉のしくみ (2) 障害の社会モデル (3) 伴走型支援 (4) 「当事者研究」 (5) 社会関連諸制度の概要（年金保険、介護保険、医療保険等）を理解する		
授業形態※	基本的に講義形式で行うが、その中にアクティブラーニングの手法を導入し、福祉福祉の諸課題についての学生の主体的参加や能動的学習を重視した授業を実施する。また、DVD やビデオ等の映像資料を参考に、現実の社会問題について学び、課題や解決策をレポートする。		
評価方法※	7 回程度の「小レポート」（事前・事後学習）の質により総合的に評価する。なお、出席に関して、(1)スマホ忘れ・充電切れや登録ミスによる欠席は欠席扱いのままのため注意すること。当日の教室内での直接の申出に限って相談可（翌週やメール等での相談は不可）		
評価基準	小レポート 100 点(20 点×3 回+ 10 点×4 回)		
テキスト	とくになし。参考資料は授業内で別途、紹介する		
注意事項	事前・事後学習をおこなうこと。参考文献を精力的に読んでみる。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	総合福祉学部 社会福祉学科
科目名※	福祉政策論	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度前学期	曜日・時限※	金曜日 1 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	7-201
学修分野			
授業目的※	社会福祉学の学問体系には、大きく区分して 2 つのアプローチがある。一つは制度・政策論的アプローチであり、もうひとつは実践論的アプローチである。 本講義は制度・政策論的アプローチにより、さまざまな社会福祉制度・政策上の課題について資料にもとづいて講義するとともに受講生と議論していきたい。そのことを通じて、受講生の社会福祉制度・政策に対する理解を深め、かつ視野を広げることを目的としている。		
到達目標	少子化や高齢化に起因するところの、今日のさまざまな社会福祉制度・政策上の諸課題について資料を精読することを通して探求します。そして、それらの要因・背景に関する理解を深めることを通じて受講生の「社会福祉学やソーシャルワーク」に係る視野を広げること、それによって日本社会に潜在化している将来的な社会福祉の制度・政策上の課題の確認と理解を目標とします。		
授業内容	本講義は、今日の社会福祉制度・政策における喫緊の諸課題を取り上げそれらに関する具体的な資料等を精読することを通して、問題の認識に努めることから始める。課題として取り上げるのは、少子化、高齢化が生み出す諸課題、さらにそれを引き起こしている要因や背景についても議論の対象とする。また、将来的な制度・政策上の課題についても取り上げていくために、家族変動、未婚率の動向なども題材にする。なお、社会福祉政策の展開は、その前提として一定程度の経済成長、さらに税金等が見込めることが前提となる。そこで、授業の題材としては、具体的直接的な社会福祉のテーマに限らず、それらに間接的に関連する政策課題等々も授業範囲に設定する。詳細は、授業のスタート時にアナウンスする。		
授業形態※	この授業は、基本的には講義形式を中心に実施します。授業を進める上で必要な資料・教材は、担当教員の方から配布します。あらかじめ配布した資料等により担当教員の講義をベースにしつつ、講義内容や資料等に関するグループワークやディスカッションを随時実施します。		
評価方法※	授業形態のところでも述べたように、学生参加型、双方向型の授業の実施を目指していますので、その全過程が評価の対象になります。複数回の授業ごとに小レポートを提出していただきます。また、期末には総仕上げのまとめのレポートを提出していただきます。これらを成績評価の対象とします。		
評価基準	小レポート：5 回×10 点＝50 点、期末レポート＝50 点 合計＝100 点		
テキスト	この授業科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料・教材等については、担当教員の方から配布します。		
注意事項	課されたレポートは必ず提出すること。成績評価の対象です。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	スポーツマネジメント	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後学期	曜日・時限※	月曜日 5 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	10-202
学修分野			
授業目的※	本授業の目的は、Jリーグクラブの事例を中心に、スポーツビジネスの仕組みを理解し、これからのスポーツの在り方、スポーツクラブと地域の関係について考察し、スポーツマネジメントに関する知識や考え方を習得することである。		
到達目標	①スポーツの本来的意義、スポーツの在り方について、自分自身の意見を持ち、論理的に他者に説明することができる。 ②スポーツマネジメントに関する基本的な知識を理解しており、論理的に、他者に説明することができる。		
授業内容	スポーツの生み出す価値は、楽しさ、健康、エンターテインメントの提供にとどまらず、様々な分野と結びつき、人々の生活を豊かにし、地域の価値を向上させる重要なツールの 1 つとして期待されるようになっている。本講義においては、Jリーグクラブの事例を中心に、スポーツを事業として展開する組織の活動を、組織構造や環境、消費者行動、マーケティング、地域連携といった様々な視点から解説し、学生と一緒に考えていくとともに、学生の関心、興味に応じて、Jクラブ、国際大会を経験してきた講師の知見を伝えていく。		
授業形態※	講義では、該当回の講義内容を 60 分程度、解説する。残りの 30 分程度で、授業内容について学生相互で振り返りを行う。本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。		
評価方法※	事前事後学習の成果、中間・最終レポートの成果で総合評価する。		
評価基準	事前事後学習を含む毎回の課題の成果：30 点 中間レポート：30 点 最終レポート：40 点 S:100～90 点、A：89～80 点、B：79～70 点、C：69～60 点、D：60 点未満		
テキスト	この科目では特定の教科書を指定しない。授業内で使用する資料等については、別途授業内で案内する。		
注意事項	●グループワークすることがある。 ●グループワークなどの際、座席を指定することがある。 ●講義内での使用した資料の第三者への開示・転送は固く禁ずる。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	ボランティア・市民活動論 B【コミュ他学部】	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後学期	曜日・時限※	月曜日 5 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	2-302
学修分野			
授業目的※	ボランティアに関する基本知識を身につけること、また、実践をとおしてボランティアについて体験的に理解することを目的とする。自らボランティアに従事するのみならず、地域社会の様々な課題を認識した上で公的機関・団体と共同してボランティア活動を組織し、地域社会に貢献できる調整力と実行力を身につける。		
到達目標	①ボランティアに関する基本的な知識を身につける。 ②ボランティアの意義と今日的課題を理解する。 ③ボランティアを実践する基礎力を養う。		
授業内容	ボランティアとは何だろうか。講義をとおしてその歴史、活動分野や種類、関連する制度について基本的な知識を身につけるとともに、実践をとおしてその意義と今日的課題を体験的に学ぶ。 なお、本科目は、ちば産学官連携プラットフォームの共同開発科目として、同プラットフォーム参加大学・短期大学と共同で展開される科目である。参加大学は、以下のとおりである。植草学園大学、神田外語大学、敬愛大学、敬愛短期大学、淑徳大学、千葉経済大学、千葉経済大学短期大学部、千葉明德短期大学、帝京平成大学、東京情報大学、放送大学。 各大学・短期大学の取り組みを相互に学ぶと共に、千葉市内外におけるボランティア活動に共同で取り組み、体験的に学ぶものである。		
授業形態※	講義、ボランティア実践の計画立案、実践および報告を組み合わせる授業を展開する。 ちば産学官連携プラットフォーム参加校がそれぞれの大学におけるボランティア・市民活動の実践について講義し、大学を横断してボランティア・市民活動の知見を共有する。なお、担当校は2024年度実績に基づいており、順序等を入れ替えることもある。		
評価方法※	事前事後課題の提出状況及び内容に関する評価、ボランティア実践報告で評価する。		
評価基準	事前事後課題の提出状況及び内容に対する評価 80 点 ボランティア実践報告（パワーポイントを用いたプレゼン）20 点		
テキスト	この科目では指定の教科書はありません。 授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	とくになし		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	総合福祉学部 社会福祉学科
科目名※	共生援助論	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後学期	曜日・時限※	火曜日 1 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	5-201
学修分野			
授業目的※	本講義は、社会福祉の専門分野における基本的な知識・技術を体系的に学ぶことを目的に、社会福祉学およびソーシャルワーク教育を構成している基本的かつ主要な知識・技術・態度の習得を行う。上記のことを具体的にするために、3 年次まで学んできた社会福祉に関わる学びの総仕上げを行い、体系的な学びを目指す。具体的には、本学社会福祉学科で対人援助を学んできたことの最終確認の科目となる。その目的の中心とすることは、単に国家資格取得のための学びではなく、個々の受講者が自律した援助者として、あるいは個人として卒業できていくように学ぶものである。基本的な知識の確認も行うが、それ以上に重視するのは、受講者の「人にかかわる力」である。したがって、人にかかわる各自の態度を問いつけることで、実践力を身につけられるような講義とする。		
到達目標	対人援助の学び、さらに本学で社会福祉学を学んだことの総決算として、受講者一人ひとりの「人にかかわる態度」の課題を各自が明確化できることを目標とする。それが大学の出口において学生に求められることであり、将来、実践の場や生活のなかで主体的に課題へ取り組めるようにする。		
授業内容	前記の目的を実現するために、まずは本学の建学の精神である「利他共生」について再確認の学びを行う。同様に、ソーシャルワークなどの対人援助の実践をどのように考え、行なったらいいのかを原点から問い直す。 さらに、援助関係の基盤となるお互いを大切にする関係を学ぶ。また、コミュニケーションにおいて基盤となる「聴く態度」から対人援助職として目指す「対話的關係」を理解する。続いて、生きる意味を問いかけることから相手の生や生活の課題をともに悩み、考えられるようにする。		
授業形態※	【対面授業】 基本的には講義形式で行い、主に教員が講義をするが、授業内レポートなどで受講者の理解を確認しながら行う。しかし、学生が受け身的に講義を聴くばかりではなく、学生同士がグループやペアで議論する場をもうけるなど、アクティブラーニングの手法を用いながら積極的に考える機会を提供し主体的な学びを促していく。また、オフィスアワーを活用することで、疑問点の解消を含めて主体的に参加する学生の意欲向上を図る 社会福祉士として、相談業務に従事した経験を活かし、相談援助の実務的な事例をふくめた講義を行っている。		
評価方法※	到達目標に達しているかを確認するために以下の方法で行う。 授業内に実施する 2 回のレポート試験により総合評価とする。 ＊授業内レポート試験においては、指定したテキスト等の持ち込みを認める。		
評価基準	1 回のレポート試験を各 50 点とし、2 回実施するため、合計 100 点満点で評価を行う。		
テキスト	ISBN : 9784762025426, 「臨床社会福祉学の展開」, 足立勲, 学文社, 2015 年紙の本で購入すること。		
注意事項	1) 各自、事前事後学習を進めておくことと指定したテキストを授業前に熟読しておくこと。 2) 試験規程に基づく。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	家族社会学	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後学期	曜日・時限※	火曜日 1 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	10-202
学修分野			
授業目的※	少子高齢化が進むなかで、現代日本の家族はさまざまな課題を抱えている。本講義では、身近な「家族」を切り口に、現代日本の家族のあり方や、家族をとりまく社会状況について理解を深めることを目的とする。		
到達目標	・家族社会学における基本的な概念や主要な理論を理解できる。 ・統計資料などを用いて、現代日本の家族の現状や変化を読み取り、説明できる。 ・多様な家族のあり方を理解し、家族が抱える課題や必要とされる支援について考えることができる。		
授業内容	家族社会学の基礎となる考え方や理論を、具体例を交えながら分かりやすく解説する。あわせて、未婚化や少子化、核家族化・小家族化、子ども虐待、高齢者介護などの身近なテーマを取り上げ、戦後の社会構造の変化と関連づけながら、現代の家族の特徴や直面している問題について考えていく。		
授業形態※	基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法（ペアワーク・グループワーク）の手法を活用する。		
評価方法※	事前事後学習課題および随時試験（授業内試験）の成績で判断する。授業を欠席し、随時試験（授業内試験）を受けられなかった者には個別に対応する。		
評価基準	事前学習・事後学習課題 20 点、随時試験（授業内試験） 80 点、合計 100 点		
テキスト	この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内で紹介します。		
注意事項	事前・事後学習を欠かさないこと。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	地域福祉論	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後学期	曜日・時限※	火曜日 5 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	2-302
学修分野			
授業目的※	・地域福祉が「コミュニティ政策」の課題のひとつであることを理解する ・医療や福祉のフィールドとして地域が政策的に注目されている理由を理解する ・地域福祉や地域包括ケアに関わる複数の専門職および公的機関と民間・地域住民のそれぞれの役割を理解する ・「地域」の多様な意味を批判的に理解する ・以上をとおして、受講生ひとり一人が自らの「コミュニティ政策」の視点を形成する		
到達目標	1. 地域福祉の目的、多様な担い手、公と私の役割を説明できる 2. 地域包括ケアという政策課題の背景、関連者制度の基礎知識を理解でき、相互に関係づけることができる 3. 地域福祉が「コミュニティ政策」の課題のひとつであることを説明できる 4. 授業で紹介した具体的な地域の取り組み事例のポイントを言語化できる 5. 課題解決のための地域資源に関する幅広い視点をもつことができる 以上 5 点それぞれについて、他者に向けた言語化（小レポート作成）ができる		
授業内容	主に 5 つの内容を学ぶ。 ・地域包括ケアをめぐる関連者制度の理解 ・地域福祉、地域包括ケアの目的や背景の理解 ・住民と専門職の連携（多職種連携含む）のありようの理解 ・現代の医療や福祉にまつわる諸課題（社会的排除、在宅等での看取り等）の理解 ・対人援助の臨時的視点 なお、事前事後学習の一部として、週末に開催される地域での活動への参加を推奨することがある		
授業形態※	基本的に講義形式で行うが、アクティブラーニングとして、必要に応じて意見を求める。DVD やビデオ等の映像資料を用いて現実の課題を理解し、そのうえで必要な政策や支援のあり方を考え小レポートの提出を求める。		
評価方法※	(ほぼ毎回の小レポート（100 点）により総合的に評価する。なお、出席に関して、(1)スマホ忘れ・充電切れや登録ミスによる欠席は欠席扱いのままのため注意すること。当日の教室内での直接の申出に限って相談可（翌週やメール等での相談は不可）		
評価基準	小レポート 100 点		
テキスト	特に指定しない。適宜、資料等を配布し、授業内で参考文献等を紹介する。		
注意事項	とくになし		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	総合福祉学部 教育福祉学科
科目名※	コーチング理論	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後学期	曜日・時限※	火曜日 5 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-501
学修分野			
授業目的※	コーチング/スポーツ指導をする上で必要となる知識および考え方を身につけ、対象者の体力レベルや状況に応じて適切な指導を実践出来るようにする。		
到達目標	①スポーツ・運動指導者の役割を理解する。 ②トレーニング理論、スポーツ生理学、心理学等に基づくコーチングのあり方を理解する。 ③自身が選択したスポーツ・競技種目についてのコーチング方法についてまとめることができる。		
授業内容	指導者の役割、スポーツ・運動指導の手法およびトレーニング理論を講義、実技、そして履修者自身のプレゼンテーションを通して学習する。		
授業形態※	講義形式が中心だが、授業毎のテーマに即した練習問題を適宜設け、各自や小グループで取り組みその後フィードバックを行う。また、アクティブラーニングの手法を取り入れ、コーチングのあり方について、ディスカッションや演習形式での学習活動を行う。最終回では、各自がコーチングについてプレゼンテーションを行い、学生間での討議や意見の交流を深める。なお、プレゼンテーションの発表時間等は履修生数によって、多少変更する可能性がある。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 詳細は以下の URL をご参照ください。 https://www.shukutoku.ac.jp/extra/pdf/chiba2026jitsumukyouuin.pdf （【千葉キャンパス】2026 年度 実務経験のある教員一覧）		
評価方法※	1)毎授業時のミニレポート、2)最終回のプレゼンテーションの 2 点から総合的に評価する。		
評価基準	1)毎授業時のミニレポート：60 点、2)最終回のプレゼンテーション：40 点		
テキスト	この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	科目の性質上、受講者が何らかの運動やスポーツの指導に今後、携わろうとしている、または志していることが望ましい。事前・事後学習を欠かさないこと		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科
科目名※	地域振興論	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後学期	曜日・時限※	水曜日 4 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-301
学修分野			
授業目的※	本講義では、人間の主要の生活空間を「地域」として捉えた時に生じる発展の可能性を認識することを目的とする。取り上げる事例としては「集客観光」施策を紹介し、地域住民の誇りであるシビックプライドの醸成面を見据えた企画立案及び実施手法を学ぶ。		
到達目標	① 地域における「シビックプライド」を醸成する振興策の提供価値を理解する ② 観光振興策の手法各種を体得し、スキルを磨くとともに、自らの見識として身に付ける ③ 課題の発見及び解決プロセスを経て提供価値を最大限に高める手法を養う		
授業内容	授業内容地域で求められている「経済効果」「継続性」を念頭に観光振興の具体策とその効果を紹介する。またより理解を深め、モチベーションを高めるために、地域振興に役立つ各種実践的スキルを個人およびグループ学習によって一から体得する。授業では、振興策において「提供価値」に自らの主体的な「介入価値」をどう盛り込めるかを意識して進めて行く。 講義、討論、サービラーニング等を複合的に用いる。 各回の講義の中で必要に応じて、アクティブラーニングの手法を活用する。質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設ける。		
授業形態※	・民間からの専門職採用として千葉市観光プロモーション課課長を務め、同市の観光振興政策（インバウンド戦略立上げを含む）を数多く経験している。また、観光振興コンサルティング、情報発信経験も豊富で、観光情報誌の編集長から観光協会の専門員、行政の観光課課長、魅力発掘コンサルティングなど、長年にわたり、様々なポジションで、地域の観光振興を実現してきた経験を持つ。		
評価方法※	授業への参加姿勢（60 点） 事前事後の学習・レポート（40 点） ■ 授業への参加姿勢について：以下 4 点において総合的に判断する ① 講師に近い前列のほうの席に座っており、しっかり授業に集中しているか？ ② アクティブラーニング（全 7 回程度）の際に講師は巡回するが、その時に見られた取組姿勢 ③ 質問を投げかけた時の対応（積極的な発言、まともな答えなど） ④ 都度投げかけられる講師の指示に従っているか？（持参を指示したものなど忘れないように） ■ 事前事後の学習・レポートについて：以下 3 点において総合的に判断する ① 提出しているか？ ② 提出の形は指示通り（文字数限度、フォーマット利用など）になっているか？ ③ 引用や一般論ではなくて、そこに自分の見方、意見などが見られるか？		
評価基準	授業参加の姿勢（授業内での発言、各課題への対応状況など授業への取組み状況等）60 点、 レポート（事前事後学習）40 点 24 点以上～59 点：不可、 60 点～69 点：C（合格）、 70 点～79 点：B（合格） 80～89 点：A（合格）、 90～100 点：S（合格）		
テキスト	（ISBN 番号：9784496055416） 『まちの魅力を引き出す編集力』（著者：桜井篤 発行元：(株)同友館 2021 年） 紙の資料本となります。		

注意事項	事前学習・事後学習を欠かさないこと。 ■ 毎回必ずノートをとること。 このノートは講義の度にとることで、全授業終了の際には、自分の貴重な学習記録となり、社会に出た後にも使えるものとなるため、メモ用紙ではなく保存性のあるノート形式をおすすめする。 本講義をやむを得ない理由で欠席・遅刻・早退する場合は、前もって講師に相談すること。事後相談は原則として受け付けない。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	淑徳大学	学部・学科名※	総合福祉学部 社会心理学科
科目名※	社会心理学 B	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後学期	曜日・時限※	水曜日 6 時限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-201
学修分野			
授業目的※	社会心理学の定義、研究方法、社会心理学研究によって得られた主要な知見を、履修者が修得できるようにすること。		
到達目標	・社会心理学の定義、研究の方法について理解する。 ・授業で紹介した社会心理学の基礎的研究を理解し、自分の身の回りの出来事に応用して考えられるようにする。		
授業内容	社会心理学の定義、研究の方法について概説し、社会心理学の主要な研究領域(社会的認知、社会的影響、社会的相互作用、集団内部の心理過程、マスコミュニケーションの影響など)における重要な知見について解説する。		
授業形態※	講義を中心に授業を進めるが、一部、アクティブラーニングの手法を用いた双方向の授業を行う。 アクティブラーニングの形式をとる授業回には、教員との質疑応答、履修者同士のグループワークを通じて、テーマについての理解を深める。 学習内容についてのレポート作成を適宜求め、その後の授業内でフィードバックを行う。		
評価方法※	筆答試験、講義過程で課されるレポートについて評価する。やむを得ない理由(公共交通機関の遅れや運休、法定伝染病等)で筆答試験を欠席した場合は、別途レポート試験を受けることができるので、事由を証明する資料(遅延証明書、診断書等)を提出して申し出ること。		
評価基準	授業内で行われる筆答試験を 60 点、事後課題レポートを 40 点として評価する。特記されるべき事項があれば、必要に応じて加点・あるいは減点することもある。		
テキスト	ISBN : 9784623048120, 「よくわかる社会心理学」(やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ), 山田一成: 北村英哉, ミネルヴァ書房, 2007 年		
注意事項	受け身的に「講義を聞く」のではなく、自分自身の生活に社会心理学的な知見を応用したらどのように考えられるか、という視点で能動的に考えつつ授業に参加してほしい。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明徳短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	音楽表現演習Ⅰ（ギター）	単位数※	1
開講年度学期※	2026年度前期	曜日・時限※	火曜2限
キャンパス※	千葉明徳短期大学	教室※	33
学修分野			
授業目的※	保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	ギターについての基礎的な知識や技術を学び、こどもの歌の弾き歌いや簡単な独奏曲を演奏することができる。		
授業内容	保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびピアノやギターなどの伴奏楽器を用いた演奏の力量を高めることを目的として、少人数によるグループ授業を行う。「こどものうた」を知り、演奏することを通して、音楽を感じる心と豊かにする表現力を養う。グループ授業による歌唱や演奏技術の習得、授業内での実技試験、音楽理論の筆記試験を実施する。		
授業形態※	演習		
評価方法※	・課題曲の達成度・実技試験 — 40%（実技試験を辞退した場合は、単位不可となります。） ・授業の取り組み — 40% ・音楽理論の筆記試験 — 20%		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	第1回 楽器に関する基礎知識、フォーム 第2回 開放弦による右手フォーム、左手ポジション 第3回 五線譜、ギターコードダイヤグラムの読み方 第4回 スケール、単音の練習曲 第5回 和音押弦の練習、左右フォーム 第6回 和音の練習曲 第7回 アルペジオ音型① 第8回 アルペジオ音型② 第9回 独奏曲の運指法、声部理解、断弦法 第10回 独奏曲によるアーティキュレーション 第11回 初級独奏曲① 第12回 初級独奏曲② 第13回 音楽基礎知識（楽典）試験、実技試験準備 第14回 実技試験、まとめ 第15回 学内コンサートの鑑賞		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明徳短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	音楽表現演習Ⅱ（ギター）	単位数※	1
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	月曜 3 限
キャンパス※	千葉明徳短期大学	教室※	33
学修分野			
授業目的※	保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	・ギターを弾きながら、10 曲以上の「こどものうた」を歌う表現技術が身につく。また、独奏曲の演奏を通して、それぞれの楽器の特性を生かした演奏法が身につく。		
授業内容	保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびギターを用いた弾き歌いの力量を高めることを目的として、少人数によるグループ授業を行う。こどもの歌の弾きうたいを通して豊かな感性や音楽的表現力の向上を目指す。授業では歌唱、授業内での実技発表、実技試験を実施する。		
授業形態※	演習		
評価方法※	・授業内の取り組み — 40% ・課題曲の達成度・弾き歌いの実技試験 — 40%（実技試験を辞退した場合は単位不可となります） ・音楽理論の筆記試験 — 20%		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	第 1 回 夏休みの課題 第 2 回 メジャーコードによる弾き歌い 1 第 3 回 メジャーコードによる弾き歌い 2 第 4 回 メジャーコードによる弾き歌い 3 第 5 回 音楽理論の基礎とコードネーム 第 6 回 伴奏パターン 1 第 7 回 伴奏パターン 2 第 8 回 伴奏パターン 3 第 9 回 独奏曲 第 10 回 マイナーコードによる弾き歌い 1 第 11 回 マイナーコードによる弾き歌い 2 第 12 回 音楽理論の筆記試験 解説 第 13 回 学内コンサートへの参加と鑑賞 第 14 回 実技試験 リハーサル 第 15 回 実技試験・まとめ・2 年次への課題		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明德短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	保育原論	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	水曜 3 限
キャンパス※	千葉明德短期大学	教室※	22AB
学修分野			
授業目的※	保育士資格必修保育の本質・目的に関する科目		
到達目標	・保育の意義と目的について理解し、説明することができる。 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本について理解し、説明することができる。 ・保育の内容と方法の基本について理解し、説明することができる。 ・保育の思想と歴史的変遷について理解し、説明することができる。 ・保育の現状と課題について考察し、意見を表明する。		
授業内容	保育所保育指針等における保育の基本について学び、保育の意義や目的を理解する。また、保育の内容と方法、法令や制度の基本、歴史的変遷や思想について学んだ上で、保育の現状と課題について考察する。		
授業形態※	講義		
評価方法※	・授業内コメントシート 20% ・授業内課題 30% ・期末レポート 50%		
評価基準			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育補保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館その他、資料を適宜配布する。		
注意事項			
授業シラバス	第1回 「保育」とは何か：「保育」のイメージ 第2回 あらためて「保育」とは何か 第3回 保育の基盤としての子ども観 第4回 子ども理解から出発する保育 第5回 保育内容・方法の原理：保育の基本 第6回 保育内容・方法の原理：保育の一場面から 第7回 子どもが育つ環境の理解 第8回 保育実践から学ぶ①（第1～7回までのまとめ） 第9回 保育の計画と実践の原理 第10回 多様な子どもと共に育つ保育：多様性が求められる時代の保育 第11回 多様な子どもと共に育つ保育：保育の一場面から 第12回 保育の歴史に学ぶ 第13回 現代の子育てと子育て支援 第14回 保育実践から学ぶ②（第9～13回までのまとめ） 第15回 保育の現状と課題		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明徳短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	あそび実践演習（言葉）	単位数※	1
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	水曜 2 限
キャンパス※	千葉明徳短期大学	教室※	32
学修分野			
授業目的※	保育士資格選択保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	（１）言葉を使った保育実践の意義を理解し、説明できる。 （２）言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解し、実践できる。 （３）言葉に関わる児童文化財の意義を理解し、周辺領域である音楽や造形、身体による表現を含めた実践的な技能を身につける。		
授業内容	幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的な知識を学び、「言葉」を使った保育実践の意義について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践を身につける。		
授業形態※	演習		
評価方法※	・授業への参加度（グループ活動、発表、模擬保育等） — 60% ・小レポート（テーマごとの授業での学びのふりかえり） — 20% ・最終レポート（授業での学びのふりかえりと今後の展開） — 20%		
評価基準			
テキスト	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説		
注意事項			
授業シラバス	第１回：児童文化財の紹介、パネルシアターの製作（１） 第２回：パネルシアターの製作（２） 第３回：パネルシアターの製作（３）と発表 第４回：わらべうたの実践（１） 様々なわらべうたを学ぶ 第５回：わらべうたの実践（２） わらべうた音階の音楽アンサンブル 第６回：言葉を豊かにする遊び（１） 第７回：言葉を豊かにする遊び（２） 第８回：日本語による表現を考える		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明徳短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	教育原論	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	木曜 1 限
キャンパス※	千葉明徳短期大学	教室※	232AB
学修分野			
授業目的※	幼稚園教諭免許状必修教育の基礎的理解に関する科目保育士資格必修保育の本質・目的に関する科目		
到達目標	・さまざまな教育という働きについて理解し、説明できる。 ・教育に関する思想や法的・制度的仕組みについて理解し、説明できる。 ・身近にある様々な教育の問題に興味を持ち自分なりの見解を持ち、説明できる。		
授業内容	教育というと学校での教育をイメージしやすいと思いますが、教育＝学校ではありません。学校は「教育」のある部分を担ってはいますが、私たちは学校だけで成長しているわけではありません。この授業ではまず、学校以外での教育を考えます。そして、教育についての基礎的な理論・思想・制度等を学びつつ、今日の学校というシステムを見つめ直し、人が一人前の人間へと育っていくということの本質を考えていきます。それは、幼児教育や保育の考え方の理解へと繋がっていくと思います。		
授業形態※	講義		
評価方法※	・小レポート － 20% ・小テスト － 30% ・期末レポート － 50%		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	第 1 回 オリエンテーション 教育とは何か 第 2 回 なぜ教育が必要か 第 3 回 日々の生活の営みにある教育① 家庭・地域がもっていた教育力 第 4 回 日々の生活の営みにある教育② 子どもの遊び集団がもっていた教育的機能 第 5 回 人が育つ環境としての現代社会の課題（家庭・地域・社会） 第 6 回 近代公教育制度の成立と今日の学校の理念 第 7 回 今日の教育制度・保育制度とその課題 第 8 回 教育改革の動向と諸外国の教育事情 第 9 回 学校と地域の連携 第 10 回 近代教育思想の歴史 第 11 回 子ども観と教育思想 第 12 回 幼稚園教育要領・保育所保育指針の考え方と方法 第 13 回 生涯学習社会と教育 第 14 回 安全教育と危機管理 第 15 回 現代教育の諸問題／総まとめ		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明徳短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	あそび実践演習（音楽）	単位数※	1
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	火曜・1 限
キャンパス※	千葉明徳短期大学	教室※	231
学修分野			
授業目的※	保育士資格選択保育の内容・方法に関する科目		
到達目標	①保育における音環境について考察し、豊かな「音環境」について説明できる。 ②いろいろな楽器に触れ、それらの基礎的な知識、簡単な技術が身につく。 ③いろいろな楽器や素材から、「音あそび」への展開を考えることができる。		
授業内容	・実習などを振り返りながら、それぞれが知っている保育の「音環境」について話し合い、子どもにとってどんな影響があるのか？豊かな「音環境」とは？を考えていく。いろいろな楽器の特性や音楽づくりの基礎的な知識を知り、自ら音遊びを経験することで、保育における音楽的活動の展開の仕方を学ぶ。		
授業形態※	演習		
評価方法※	・授業での取り組み（実技、発言、発表） 70 % ・小レポート 30 %		
評価基準			
テキスト	適宜資料を配布する		
注意事項			
授業シラバス	第1回 オリエンテーション：保育における音環境について考える 第2回 いろいろな楽器を知る 第3回 楽器遊び① 第4回 楽器遊び② 第5回 手作り楽器① 第6回 手作り楽器② 第7回 合奏① 第8回 合奏②		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明徳短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	社会福祉	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	木曜 2 限
キャンパス※	千葉明徳短期大学	教室※	221
学修分野			
授業目的※	社会福祉主事任用資格選択必修 保育士資格必修 保育の本質・目的に関する科目		
到達目標	1. 社会福祉の意義・理念及び歴史的変遷などを説明できる。 2. 社会福祉の制度、実施体制等を理解して説明できる。 3. 社会福祉における相談援助の基本姿勢と利用者の権利擁護に関わる仕組みを理解して説明できる。 4. 少子高齢化に関わる社会福祉の動向と課題等を理解して実際の保育業務に活用できる。		
授業内容	本授業は、保育者の基礎知識として社会福祉の意義・原理、日本の福祉制度の変遷を振り返り、現行の制度と課題等を理解する。 また、都市化近代化、地縁血縁関係の脆弱化による家族機能・地域の変化のため、福祉のあり方はより重要性を増しており、公的扶助（生活保護）、障害福祉、子ども家庭福祉、高齢者福祉などの概要と課題などを考える。 なお、授業の進捗状況などにより、若干、授業計画は前後することもあり得る。		
授業形態※	講義		
評価方法※	・授業態度、参加意欲（課題提出期限厳守） — 20% ・期末試験 — 60% ・課題 — 20%		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	第1回 社会福祉の基本理念と概念 第2回 社会福祉と少子高齢化を巡る問題 第3回 日本の社会福祉発達史 第4回 社会保障制度と社会保険 第5回 障害児（者）の自立と福祉Ⅰ 障害者スポーツ大会 第6回 障害児（者）の自立と福祉Ⅱ 共生社会の実現と施策 第7回 社会福祉の制度Ⅰ 社会福祉法制—制度と法体系— 第8回 社会福祉の制度Ⅱ 社会福祉行政と実施機関 第9回 社会福祉施設と専門職 第10回 社会福祉における相談援助—意義・機能・方法と技術— 第11回 生活保護 第12回 社会福祉と子ども家庭支援 第13回 権利擁護と苦情解決、情報提供、第三者評価 第14回 期末テスト及び授業全体の振り返り 第15回 期末テストの解説及び、地域福祉の意義・課題		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明徳短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	社会的養護 I	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	水曜 1 限
キャンパス※	千葉明徳短期大学	教室※	222
学修分野			
授業目的※	保育士資格必修保育の本質・目的に関する科目		
到達目標	1.社会的養護の理念と概念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 2.児童の権利、児童養護の理念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 3.施設養護における自立支援等の具体的な支援について理解し、保育士としての実践力を身につける。 4.社会的養護の抱える今後の課題について理解し、保育士としての考察力、対応力を身につける。		
授業内容	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。 具体的な内容としては、社会的養護の意義、制度や実施体系及び児童の権利擁護について理解する。また、関係法制度や最新の統計データを参考にしつつ、児童福祉施設の今日的動向と各サービスの特徴を理解する。 授業の形式は、講義、演習、ディスカッション等で実施をする。		
授業形態※	講義		
評価方法※	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への出席 総合点の 4 5 % 2 授業毎の感想レポート 4 5 % 3 授業への積極的参加度 日常の受講態度 1 0 %		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	第 1 回：オリエンテーション 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷①社会的養護の理念と概念 第 2 回：現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷②社会的養護の歴史的変遷 第 3 回：社会的養護と児童家庭福祉①児童家庭福祉と社会的養護の関係性 第 4 回：社会的養護と児童家庭福祉②児童の権利擁護と社会的養護 第 5 回：社会的養護の制度と実施体系①社会的養護の制度と法体系 第 6 回：社会的養護の制度と実施体系②社会的養護の仕組みと実施体制 第 7 回：社会的養護の制度と実施体系③家庭養護と施設養護 第 8 回：社会的養護の制度と実施体系④社会的養護の専門職 第 9 回：施設養護の実践①施設養護の基本原則 施設養護の実践/養護系施設 第 10 回：施設養護の実践② 施設養護の実践/非行系施設・障害系施設 第 11 回：施設養護の実践③ 施設養護とソーシャルワーク 施設等の運営管理 記録の作成の留意点と自己評価の視点 第 12 回：社会的養護の課題と展望① 生活単位の小規模化とケア体制 第 13 回：社会的養護の課題と展望② 社会的養護の担い手のケアの必要性 第 14 回：社会的養護の課題と展望③ 社会的養護の課題 第 15 回：保育士として社会的養護にどのように関わりたいのかを考える		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明徳短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	フィールドワーク（人間と文化）	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度集中	曜日・時限※	不定期
キャンパス※	千葉明徳短期大学	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	保育士資格選択教養科目		
到達目標	・人間が創り出すダンスの特性や文化的背景を理解し、述べることができる。 ・現代におけるダンスの意義を自分の言葉で語るできるようになる。		
授業内容	ダンスは生命に内在する根源的な活動とも言われ、時代や地域を問わず世界中にさまざまなダンスがあります。このコースでは、世界の多様なダンスを取り上げ、その歴史や文化を学びます。特に、日本の盆踊りと西洋の古典舞踊であるバレエ、そして時代や国の境界を超えた現代の舞踊であるコンテンポラリーダンスに焦点を当て、実際に劇場で鑑賞します。 学内での事前学習として、世界のダンスを映像を通して鑑賞し、さまざまな国のダンスと文化の関係を学びます。①事前学習：ダンスの歴史・文化的背景と概要について学ぶ ②鑑賞：実際に劇場等で鑑賞する ③事後学習：事前学習から鑑賞までを含めたレポートを作成することを通して理解を深めます。		
授業形態※	演習		
評価方法※	・事前学習レポート：30% ・フィールドワークでの取り組み（活動への積極的な取り組みや発言内容）：30% ・事後学習のレポート：40%		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	・世界の様々なダンスとその背景にある文化 ・日本の踊り① 事前学習 ・日本の踊り② 参加・鑑賞 ・日本の踊り③ 事後学習 ・バレエ① 事前学習 ・バレエ② 鑑賞 ・バレエ③ 事後学習 ・コンテンポラリーダンス① 事前学習 ・コンテンポラリーダンス② 鑑賞 ・コンテンポラリーダンス③ 事後学習 ・まとめ		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明徳短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	フィールドワーク（生活と社会） 「サンセットウォーク」	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度集中	曜日・時限※	不定期
キャンパス※	千葉明徳短期大学	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	保育士資格選択教養科目		
到達目標	・学校から自身の設定したゴールまで完歩する。 ・自身と向き合い、他者と協力する姿勢を身に付ける。 ・臨機応変に行動する力を身に付ける。		
授業内容	車や電車等といった移動手段としての交通機関の発達、私たちの社会や生活のあり方、また人の感性や健康、人間関係等、多岐にわたる変化をもたらしています。その一つに、歩く機会の減少があります。 本授業では、長距離を歩くことで、人が本来備えている歩く力を実感すると共に、普段とは異なる移動中の音や光の感じ方、景色の見え方、時間の過ごし方、他者との距離の取り方等を体験します。具体的には、朝に学校を出発し、木更津港で夕日を眺めます。総距離は約3.5kmを予定していますが、ゴールは自身で設定します。また、参加者全員で一緒に歩くため、参加者の体調や道路事情等によってはルート等を変更する場合があります。		
授業形態※	演習		
評価方法※	・事前学習への参加 — 20% ・活動への参加 — 50% ・レポートの作成および報告会への参加 — 30%		
評価基準			
テキスト			
注意事項	・各自、適度の距離を歩くことに慣れておくこと。（30分～60分位のウォーキングを心掛ける） ・一日を通して歩くため、普段から（特に直前の）健康管理をしておくこと。		
授業シラバス	・5月：第1回オリエンテーション ・10月：第2回オリエンテーション、歩行行程確認、地図の作成 ・～11月：各自で、自宅周辺などを歩く ・11月上旬：サンセットウォーク実施 ・実施後、レポート作成および報告会の準備		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉明徳短期大学	学部・学科名※	保育創造学科
科目名※	フィールドワーク（自然と環境） 「キャンプインストラクターになろう」	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度集中	曜日・時限※	不定期
キャンパス※	千葉明徳短期大学	教室※	未定
学修分野			
授業目的※	保育士資格選択教養科目		
到達目標	・キャンプの意義や安全について理解できる。 ・宿泊活動やキャンプの指導に必要な知識や技術を身に付け、プログラムの指導ができる。 ・道具の扱い方やプログラムへの理解を深め、臨機応変に行動する力を身に付ける。		
授業内容	幼児期から身近な自然と親しむことには多様な意義があり、保育現場においても宿泊や野外活動に伴う実践に携わることがある。理論と実技を通して宿泊活動やキャンプの指導に必要な知識や技術を体系的に学び、自然の中で過ごす豊かさを伝えられるようになることを目指す。この授業を履修することでキャンプインストラクターの資格取得に必要な課程を修めることができる。 キャンプインストラクターは、キャンパー個人やグループに対して、キャンプのプログラム等の指導を行う役割を担うことができる指導者として認められる資格である。 キャンプの意義やキャンプの安全などの知識を学ぶとともに、実際にキャンプのアクティビティを体験しながら、プログラムの指導についても学ぶ。		
授業形態※	演習		
評価方法※	・事前学習への参加 — 20% ・活動への参加 — 50% ・レポートの作成および報告会への参加 — 30%		
評価基準			
テキスト	キャンプ指導者入門 第5版		
注意事項	・当日の集合時間、解散時間は、打ち合わせで検討し、決定します。 ・テキスト代5000円、施設（千葉市少年自然の家）利用料800円等を「目的別研修費」より支出します。 ・希望者は、「日本キャンプ協会 キャンプインストラクター」の資格を取得できます。登録・事務手数料、協会入会金などで15,300円が別途必要となります。		
授業シラバス	・5月：第1回オリエンテーション ・9月（1泊2日） - 理論編：キャンプの特性、対象、指導、安全 - 実技編： 1. キャンプの安全 ・ファーストエイドの実際 ・フィールド調査（現地踏査） ・危険予知とその対処		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	コンピュータグラフィックス基礎	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	月曜・1 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	オンライン
学修分野			
授業目的※	可視化技術やメディア産業などで使われるコンピュータグラフィックス技法の基本的な考え方および、生成手法と表現方法について講義を行う。また、2DCG および 3DCG の概要を解説し、2DCG および 3DCG の基本的な開発技術を学習する。CG の作成は、2DCG は GIMP、3DCG は POV-Ray で行う。		
到達目標	メディア分野の応用について理解する能力と関連分野の基礎知識を学ぶ。 また、2DCG および 3DCG の概要を理解し、基本的な 2DCG および 3DCG の作成技術を習得し、高度かつ専門的な I C T の知識及び技術を身につける。		
授業内容	01 (ガイダンス) 2DCG と 3DCG の例と違い、授業の進め方、他 02 (2DCG) 2DCG の概要、GIMP の基本操作、画面構成、タイムライン 03 (2DCG) タイムライン、キーフレーム、アニメーションの実行 04 (2DCG) アニメーションの設計 (基礎) 05 (2DCG) アニメーションの設計 (実践) 06 (2DCG) 2D 作品制作 07 (2DCG) 2D 作品発表・評価 08 (2DCG) 3DCG の概要、POV-Ray の基本操作、シーンファイルの構成、座標系 09 (3DCG) 基本図形、彩色 10 (3DCG) 座標変換、マッピング 11 (3DCG) 図形演算、作品制作 12 (3DCG) 3D 作品制作 13 (3DCG) 3D 作品発表・評価 14 (2DCG 総括) 2DCG の実用例と教育およびビジネス利用 (オンデマンド資料) 15 (3DCG 総括) 3DCG の実用例と教育およびビジネス利用 (オンデマンド資料)		
授業形態※	オンライン (Zoom) で実施します。 Zoom の URL については本学シラバスをご確認ください。		
評価方法※	2DCG 課題, 3DCG 課題		
評価基準	2DCG 課題 50%, 3DCG 課題 50%		
テキスト	松下孝太郎, 山本光, 柳川和徳, 鈴木一史, 星和磨, 羽入敏樹 共著 “POV-Ray で学ぶはじめての 3DCG 制作”, 講談社, 2017 年, ISBN: 978-4-06-153827-6 (2,400 円 + 税)		
注意事項			
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の方の「ゲストの方はこちら」から入り、開講年度学期 (2026 前期)、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎」で検索		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	システム設計論 a	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	月曜・2 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 1 階 120
学修分野			
授業目的※	インターネット時代の情報システムの設計・構築・管理法について理解を深め、Web ベース情報システム（Web アプリケーション）を実現する設計・構築・管理法を習得する。まず、情報システムの設計思想の変遷を概説し、情報システムの重要性やシステム開発モデルを理解する。次に、インフラ設計やアプリケーション設計などの設計の流れやシステムの分析設計法について学ぶ。更に、身に付けた専門知識を社会で活用する技術力や、問題を発見し、論理的に整理する能力も身に付ける。		
到達目標	Web ベース情報システム（Web アプリケーション）の設計・構築・管理法に関する標準化・基礎知識と最新技術動向を理解し、ユーザ要求分析からアプリケーション設計までの流れと情報処理技術を取得すると共に、実際の具体例に応用できる能力を養う。		
授業内容	01. ガイダンス 02. 情報システム概論 03. 情報システムの処理形態と変遷（オンデマンド） 04. ハードウェア進歩と情報システムの設計思想 05. クライアントサーバシステム 06. Web 3 階層型クライアントサーバシステム 07. システム設計・構築 08. テスト計画・設計・プロジェクト管理 09. インフラ設計（オンデマンド） 10. システム分析設計技法(1) 11. システム分析設計技法(2) 12. アプリケーション設計・構築 13. ユーザインタフェース設計・Web アプリケーション設計 14. 全体まとめ 15. 期末試験、解説		
授業形態※	・テキストを使用して、講義形式で行う。講義の理解状況を確認するため、毎回演習を実施する。		
評価方法※	課題，平常試験		
評価基準	課題（受講した回の内容に関する演習を実施し、理解度を確認する。）40% 平常試験（到達目標のユーザ要求分析からアプリケーション設計までのシステム設計に関する理解度を評価するための試験を実施する。）60%		
テキスト	「システム設計論」布広永示 他 コロナ社(2017 年改訂版発行)		
注意事項	テキスト以外に関連資料などを自発的に学習すること。		
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下「ゲストの方はこちら」から入り、開講年度学期（2026 前期）、授業科目「システム設計論 a」で検索		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科	
科目名※	ゲーム制作基礎		単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	火曜・1 限	
キャンパス※	東京情報大学	教室※	オンライン	
学修分野				
授業目的※	コンピュータ・ゲームの制作にはプログラミング技術の修得が必要であるが、ゲーム制作に特化した開発ツールを利用することによって、プログラミング技術を修得していない者でもゲームの内部処理を学び、自分のアイデアを表現することができる。 本授業は、まずゲーム制作を体験してみることで、企画立案、デザイン設計、システム設計、さらに物理シミュレーションや AI 的制御の活用等に触れ、受講生のその先の学習・研究の方向性を見極める一つの助けとなることを目的とする。			
到達目標	・過去の代表的なゲームによって表現された、「競争」「戦略」「解決」のモデル化技術を具体例から学ぶ。 ・ゲーム制作における乱数と変数の利用、データや物理シミュレーションの活用から数学・物理学的アプローチを理解し身につける。 ・自ら構想したゲームを実際に制作することによって、情報表現技術の基礎を習得する。			
授業内容	1.ガイダンス ★授業の目的、内容の説明 ★ゲーム制作演習の概要 ★ツールの基本操作 2.ゲーム制作のプロセス ★ゲームの構成要素 ★イベントとアクション 3.代表的なゲームの分析 ★レトロゲームの歴史 ★シューティングゲーム ★プラットフォームゲーム 4.ゲーム制作① ★プレイヤー・キャラクターの制御 ★コンピューター・キャラクターの制御 ★条件判定キャラクターの制御 5. 数値の計測と制御 ★得点の仕組みと制御 ★スコア、ライフ、ヒットポイント等の制御 ★数値の表示法 6. 空間の設計と制御 ★RPG の構成要素 ★画面レイアウトの設計 ★マップ、アイテム、障害物 7. 時間の制御 ★実時間の計測とフィードバック ★制限時間とルール 8. ゲーム制作② ★スコア、時間、HP、自機数などの表示制御 ★タイトル、背景、UI のデザイン ★レイヤーの理解と活用 9. 物理シミュレーション ★重力のシミュレーション ★衝突、摩擦、慣性のシミュレーション 10. ゲーム AI の基礎 ★乱数制御による移動と攻撃 ★手加減の表現 11. ゲーム制作③ ★ゲームの企画 ★システム設計 12. ゲーム制作④ ★ゲーム・グラフィックの制作 ★実装とデバッグ 13. ゲーム制作⑤ ★作業の進行と統合 14. ゲーム制作⑥（オンデマンド） ★作業の進行と統合			

授業形態※	15. まとめ（オンデマンド） ★課題作品の講評 ★授業のまとめ 講義＋演習形式で行う。WebClass を活用し、スライド、参考資料は逐次配信する。 ゲーム制作アプリケーションは主に「ClickTeam Fusion2.5 free edition」を使用する。
評価方法※	課題, レポート
評価基準	課題（4 回の基礎課題、1 回の総合課題を課す。基礎課題では学習効果の測定、総合課題では総合的にこの授業の学習の到達度を判定する。）80% レポート（講義内容に関連するテーマで調査と分析を行い、自分の考察を加えたレポートを作成。詳細は講義内で通知する。）20%
テキスト	指定しない。毎回の授業の資料は WebClass に掲示する。
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の方の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2026 前期）、授業科目「ゲーム制作基礎」で検索

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	地理情報システム a	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	木曜・2 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 3 階 322
学修分野			
授業目的※	地理情報システムは、あらゆる地理空間情報を地図上に表示しながら、その属性をデータベースとして管理できるシステムである。地形・地質・気温・生物の分布や、土地利用・道路・鉄道・人口の分布などの、様々な環境データを解析し、その結果を公開することもできる。講義では、業界標準ソフトウェアの ArcGIS を用いて、その概念と技術を習得する。		
到達目標	地理情報システムの基礎概念を理解する 地理情報システムのデータ構造を理解する 地理情報システムの操作技術を習得する 地理情報システムを用いて新たな地図を作成できる 地理空間情報についての基礎知識を身に付ける これらの目標をふまえて、自然や社会に関する幅広い教養と、衛星画像などのビッグデータを扱ううえで必要な知識、高い情報技術を身につけることで、情報社会に対応できるようになる		
授業内容	1. ガイダンス・イントロダクション・地理情報システムの設置と管理 2. ArcGIS の基本操作：データの閲覧と追加・主題図の作成 3. ArcGIS の基本操作：属性テーブルにおける情報の検索（データの種類の構造） 4. 空間検索 5. 空間検索と属性テーブルの編集 6. ジオプロセッシング：ディゾルブ・グループ 7. ジオプロセッシング：マージ・ユニオン・インターセクト 8. 地図投影法・地図投影演習 9. 属性テーブルの編集：リレート結合 10. ジオコーディング：住所データでの演習（アドレスマッチング） 11. ジオコーディング：ラスターデータでの演習 12. データの利用と公開 13. データの利用と公開：ポータルサイト（オンデマンド） 14. データの利用と公開：官公庁のサイト（オンデマンド） 15. まとめ・試験		
授業形態※	地理空間情報に関する知識習得のための講義と、技術習得のための演習をセットで行う。毎回、課題を提出する。講義資料と、講義内容の理解度を測る課題を WebClass に掲載する。		
評価方法※	課題、平常試験		
評価基準	課題 20%（講義内容についての理解度を評価する） 平常試験 80%（到達目標の冒頭 5 項目の習熟度を試験から判断し、評価する。）		
テキスト	なし。講義時間中に適宜、紹介する。		
注意事項	USB メモリーを必ず持参すること。		
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の方の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2026 前期）、授業科目「地理情報システム a」で検索		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	ソフトウェア工学 a	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	木曜・1 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 3 階 301
学修分野			
授業目的※	ソフトウェア工学の基本的な考え方と知識を体系的に学び、「安心・安全」なソフトウェアを設計・作成・保守する力を強化することを目的とする。ソフトウェア開発プロセス、ソフトウェアライフサイクル、プロセスの標準化、要求分析からテスト工程・保守まで一貫した流れを学ぶ。		
到達目標	・ソフトウェア開発におけるソフトウェア工学の役割を理解する ・ソフトウェアの性質、開発の課題を理解する ・ソフトウェア開発プロセス・ライフサイクル・モデルを理解する ・基本的なソフトウェア開発のモデルとしてウォーターフォール型開発について理解する		
授業内容	1. ガイダンス 2. ソフトウェア工学の目的と発展史（オンデマンド） 3. ソフトウェアの開発方式 4. 要求分析と要求仕様書 5. 外部関係と外部仕様書 6. 内部関係と内部仕様書 7. 製造と試験 8. 要求分析の技法 9. 設計の技法 10. 製造の技法 11. システムの安全性（オンデマンド） 12. オブジェクト指向設計 1 13. オブジェクト指向設計 2 14. 総合演習 15. 総まとめ		
授業形態※	講義形式で実施するが、必要に応じて演習課題を課す。		
評価方法※	課題、レポート、平常試験		
評価基準	課題（講義中に必要に応じて課す課題） 20% レポート 10% 平常試験（筆記および実技形式による試験を実施する。） 70%		
テキスト	テキストはありません。資料は適宜公開します。		
注意事項			
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の方の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2026 前期）、授業科目「ソフトウェア工学 a」で検索		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	社会学概論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	月曜・2 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 4 階 401
学修分野			
授業目的※	本講義は社会学の入門として、社会学の基礎知識の習得を第一の目標とする。前半は、社会学の代表的な学説の基礎理解をめざし、そして、そこから現代社会を理解するための基礎づくりを目標とする。特に代表的な学説は、公務員試験他、社会学を受験科目としているような語彙試験の基礎準備となる水準で講義する。後半は、具体的な社会問題をとりあげた学説を紹介する。		
到達目標	現代社会理解のための基礎知識の構築		
授業内容	1.イントロダクション 2.社会学の萌芽（コント・スベンサー） 3.初期社会学の学説1（デュルケム） 4.初期社会学の学説2（ウェバー） 5.初期社会学の学説3（ジンメル・テンニース） 6.社会的人間発達（クーリー・ミード） 7.前半の小括（オンデマンド） 8.中間試験と解説 9.シカゴ学派1（トマス・パーク） 10.シカゴ学派2（バージェス・ワース） 11.構造機能主義（パーソンズ） 12.構造機能主義（マートン） 13.現代社会論 14.後半の小括（オンデマンド） 15.試験と解説		
授業形態※	講義形式で行う		
評価方法※	平常試験		
評価基準	平常試験で全体を通した講義内容の理解度を確認する 中間試験 40%、期末試験 60%		
テキスト	使用しない		
注意事項	他者の学が権利を侵害したり、学が環境を乱したりする者には厳しい態度で接する。私語や不真面目な受講態度のないことを望む。		
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の方の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2026 前期）、授業科目「社会学概論」で検索		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	経営学概論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	月曜・3 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 2 階 201
学修分野			
授業目的※	経営学の基本的な理論フレームワークについて講義する。経営学の関心は、企業活動にまつわるあらゆるトピックに及び非常に多岐にわたるが、本講義では、経営学の中核的な構成分野である経営戦略論と経営組織論における基本的な用語や考え方に重点を置き、具体的な事例を交えながら解説を加えていく。また、情報社会における経営のあり方と、その理解に必要な着眼点や分析力も併せて説明する。		
到達目標	・経営学における基本的な用語や概念を理解し、情報社会における企業経営にまつわるさまざまな事象を読み解く素養を身につけることができる。 ・企業経営に関する分析方法などの総合的な理解に基づいて、それを幅広い場面で活用しようとする姿勢を身に付ける。 ・情報社会の変化に対応するために、自律的に学ぶ姿勢を身に付ける。また、そのために常に高い意欲を持ち、自主的・総合的に学習する姿勢を身に付ける。 ・企業を理解するための情報収集方法や分析的方法に基づいて、さまざまな企業の状況について調べることができる。		
授業内容	1 授業ガイダンス：学習のための情報源 2 経営学の内容（1）：企業経営・経営学の全体像 3 経営学の内容（2）：株式会社、雇用制度 4 経営戦略論：成長戦略（1）：多角化 5 経営戦略論：成長戦略（2）：国際化 6 経営戦略論：競争戦略（1）：コストリーダーシップ、差別化 7 経営戦略論：競争戦略（2）：集中化 8 経営組織論：組織構造（1）：職能別組織、事業部別組織 9 経営組織論：組織構造（2）：マトリックス組織、その他の組織構造 10 経営組織論：リーダーシップ 11 経営組織論：組織文化 12 経営組織論：モチベーション 13 情報社会における現代の企業経営（1）：情報技術の役割（オンデマンド） 14 情報社会における現代の企業経営（2）：情報技術と戦略（オンデマンド） 15 総理解：これまでの授業内容のまとめと、理解度評価のための試験		
授業形態※	講義形式を主体とし、テーマに沿った事例に基づくディスカッションを毎回行う。毎回、授業の理解度を測定するための確認テストを行う。		
評価方法※	課題、レポート、平常試験		
評価基準	課題 10%（簡潔な提出物を求めることがある。） レポート 50%（企業に関するレポートを 2 回行う。それぞれの評価の割合は 25%。） 平常試験 40%（授業最終回に試験を行う。）		
テキスト	「1 からの経営学（第 3 版）」碩学社 978-4502375217 本体 2,400 円		
注意事項			
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の方の「ゲストの方はこちら」から入り、開講年度学期（2026 前期）、授業科目「経営学概論」で検索		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	心理学概論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	水曜・3 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 2 階 201
学修分野			
授業目的※	人の心について知ることは、社会の中でより良く生きていくために重要な要素である。本講義では心理学の様々な領域について、それぞれどのような内容を対象としているかについて説明する。心について幅広い知識を得ることで、生活の様々な側面に心理学的な知見が生きていることを知り、心理学的な見方を持つための基礎を身につける。		
到達目標	心理学に関連する様々な領域で取り扱っている内容の基礎を知り、人の心について発展的な考えや興味を持つことができる。心理学に関する情報を適切に収集、分析及び活用することができる。		
授業内容	1.心理学とは何か 心理学の成り立ちや、さまざまな学問領域の中における位置づけについて理解する。 2.脳と心理学 脳機能と心の関係について学ぶ 3.感覚・知覚 感覚や知覚の意味と仕組みについて学ぶ 4.記憶 記憶の仕組みについて学ぶ 5.学習 学習に関する心理学について学ぶ 6.思考・問題解決 思考や問題解決に関する心の働きについて学ぶ 7.感情 感情の仕組みについて学ぶ 8.動機づけ 動機づけの仕組みについて学ぶ 9.性格 性格の心理的構造や測定法について学ぶ 10.発達 人が成長していく中で心の機能の変化について学ぶ 11.ストレスと健康 心と身体の関係について学ぶ 12.臨床心理学 心の働きの異常や心理療法について学ぶ 13.社会心理学 人と人との関わりに関する心理学について学ぶ 14.まとめ 1 (オンデマンド) 15.まとめ 2 (オンデマンド)		
授業形態※	講義形式		
評価方法※	課題、小テスト、定期試験		
評価基準	課題 20% (WebClass 上の課題の提出状況) 小テスト 20% (授業内で行う小テスト) 定期試験 60% (定期試験の得点に応じて評価)		
テキスト	WebClass で資料を配布します。		
注意事項	1.初回の講義で授業のルール等を説明するので必ず出席してください。 2.毎回の講義内容について復習しましょう。小テストで学習内容を確認する場合があります。 3.質問は、講義中、講義後に応じますので、積極的に質問してください。		
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の方の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期 (2026 前期)、授業科目「心理学概論」で検索		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	情報ネットワーク概論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	金曜・3 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	1 号館 1 階 101
学修分野			
授業目的※	本講義では、ネットワークの基礎知識、利用者として知っているべき技術的内容やセキュリティ上の知識を、幅広く学ぶ。また、ネットワークやセキュリティの設定や確認の実習を通して実用的な知識を学ぶ。本講義の内容は、多くの情報処理系の資格試験（IT パスポート、基本情報技術者試験など）の必要知識の一部を成すものである。		
到達目標	・インターネットを中心とするネットワークの基本的な仕組みを理解する。 ・ネットワークを使う上でのセキュリティの基本的な仕組みを理解する。 ・ネットワークやセキュリティの実習を通して、実用的な知識を得る。		
授業内容	1 ネットワークの概要 ・LAN, WANについて学ぶ 2 ネットワーク方式とLANの基本構成 ・回線交換とパケット交換、LANの基本について学ぶ 3 LANの構成とイーサネット ・トポロジー、CSMA/CDについて学ぶ 4 無線LAN ・無線LANの規格とセキュリティについて学ぶ 5 通信プロトコル ・OSI参照モデル、TCP/IPについて学ぶ 6 IPアドレス（1） ・IPv4について学ぶ 7 IPアドレス（2） ・サブネットについて学ぶ 8 インターネット ・ISPとインターネットへの接続形態について学ぶ 9 WWW ・URL、DNS、Webアプリケーションについて学ぶ 10 電子メール ・メールのしくみとメールアドレスについて学ぶ 11 情報セキュリティ ・リスク対策、ISMSについて学ぶ 12 情報セキュリティ対策（1） ・コンピュータウイルス、ネットワークのセキュリティについて学ぶ 13 情報セキュリティ対策（2） ・暗号方式、デジタル署名について学ぶ 14 情報セキュリティ対策（3） ・認証、アクセス管理について学ぶ 15 平常試験と総まとめ ・平常試験（第1回～第14回）と総まとめを行う		
授業形態※	毎回の授業では、配布資料とテキストを使用して解説しながら、小テストを解形式で行う。		
評価方法※	小テスト、平常試験		

評価基準	小テスト 20%（理解度チェックのため毎回小テストを行う。） 平常試験 80%（理解度・到達度を評価するために、平常試験を行う。）
テキスト	「情報ネットワーク概論」 コロナ社 978-4-339-02484-5 「令和 08 年キタミ式イラスト IT 塾 IT パスポート」技術評論社 978-4297-15299-4
注意事項	必ず 2 つのテキストを持参すること。
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の方の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2026 前期）、授業科目「情報ネットワーク概論」で検索

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	東京情報大学	学部・学科名※	総合情報学部 総合情報学科
科目名※	視覚デザイン論	単位数※	2 単位
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	金曜・3 限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	オンライン
学修分野			
授業目的※	・情報を視覚に訴える形で表し伝える"視覚デザイン"の変遷と理論を学ぶ。 ・現代社会における情報メディアの視覚情報伝達技術を理解し、演習により修得する。		
到達目標	・視覚デザインの理論に基づくコミュニケーションの効果を理解しメッセージを読み解くことができる。 ・レポートやプレゼンテーション、WEB デザイン等に視覚デザインの理論と表現を活かした表現を行うことができる。 ・視覚デザインに関する知的財産権と関連法について学び、情報の表現者としての自覚と高い倫理観を身につける		
授業内容	01.デザインの歴史 1、ガイダンス、デザインの歴史 1 02.デザインの歴史 2、古代文明とデザイン、Inkscape の準備 03.デザインの歴史 3、産業革命とデザイン、Inkscape 入門 1 04.デザインの歴史 4、アーツアンドクラフツとアールヌーボー 05.デザインの歴史 5、印刷・広告とデザイン、デジタルデザイン演習 1 06.デザインの歴史 6、アールヌーボー、デジタルデザイン演習 2 07.デザインの歴史 7、ロシア・アバンギャルドとダダイズム 08.デザインの歴史 8、アールデコとアメリカン・スタイル 09.デザインの歴史 9、ドイツ・バウハウスとスイス・スタイル 10.デザインの歴史 10、コンピュータ革命とユニバーサルデザイン 11.日本デザインの歴史 1、伝統文様と文化、デジタルデザイン演習 3 12.日本デザインの歴史 2、日本デザインの研究、デジタルデザイン演習 4 13.日本デザインの歴史 3、現代デザインの研究 14.デザインの歴史まとめ、WEB デザイン・最終課題の説明（オンデマンド） 15.現代日本のデザイン 授業のまとめ（オンデマンド）		
授業形態※	・スライドや映像資料を用いた講義をおこなう。 ・視覚デザイン制作を行うアプリケーションソフトを演習により習得する。 ・体系的なデザイン学習に基づいたデザイン制作をおこなう。		
評価方法※	課題、レポート、小テスト		
評価基準	課題 60%（①デジタル画像処理、②グラフィック・デザイン制作、③WEB サイトの企画・デザイン制作） レポート 30%（視覚デザイン分野のテーマを設定し、資料に基づいた調査・考察を行う。） 小テスト 10%（WebClass で授業内容に関する重要項目復習テストを複数回行う。）		
テキスト	指定しない。毎回の授業の資料は WebClass に掲示する。		
注意事項			
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/ ※東京情報大学ロゴの下の ゲストの方はこちら から入り、開講年度学期（2026 前期）、授業科目「視覚デザイン論」で検索		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部・経済学科
科目名※	社会保障論 I	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 前期	曜日・時限※	月曜 3 時限
キャンパス※		教室※	2-201
学修分野			
授業目的※	あの「コロナ禍」の3年間とはいったい何であったであろうか？ コロナ後の現在において大切なものは何であろうか？ コロナによって私たちは健康や命の大切さを強く思い知らされた。おカネよりも人を重視する考え方を紹介して、そこから現代で求められる社会保障のあり方を考えていく。なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【思考力、判断力、表現力等】に資する科目である。		
到達目標	①初級の経済学及び経営学を基礎とする学際的専門知識を、人間中心の経済という各論へと応用することができる、②それによりコロナ後の現在において行政や企業が必要とする知識や思考力を獲得できる、③課題となるレポート作成により論理的な構成や記述をすることができる。		
授業内容	第1回 福祉国家におけるトレードオフとトレードオン 第2回 少子化が進む経済学的理由①：機会費用 第3回 少子化が進む経済学的理由②：シンペーター理論から学ぶ 第4回 コロナ不況に対する給付金の景気刺激効果：乗数効果を学ぶ 第5回 福祉国家における次善解とは？ 第6回 医薬品と関税・自由貿易 第7回 保育における待機児童問題：経済学的処方箋 第8回 市場の失敗と社会保険の必要性 第9回 福祉国家における豊かさの根源としての生産性 第10回 社会保障と社会・経済との動態的変化 第11回 健康転換モデルとケア構造の変化 第12回 福祉国家と「母性原理」「父性原理」 第13回 福祉国家と貨幣供給：インフレを考える 第14回 コロナと日本のマクロ経済との関係 第15回 行政とのコラボ授業：里親制度を学ぶ		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	LMSを使った最終試験 40%と課題 60%から評価する。なお、採点結果やコメントはLMSを通じて返却する。		
評価基準			
テキスト	指定なし。		
注意事項	世界的な経済学の標準的テキストである『マンキュー入門経済学』に書かれた経済学の十大原理（特に市場の失敗）や、マクロ経済学における総需要・総供給モデルを復習しておくこと。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部・経済学科
科目名※	社会保障論Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 後期	曜日・時限※	月曜 3 時限
キャンパス※		教室※	2-201
学修分野			
授業目的※	厚生労働省のホームページを見ると、「高校生が知っておくべき将来の話「100 歳まで生きる」が当たり前の時代にと書かれている。皆さんが元気に（＝なるべく病気をしないように、たとえ病気をしても病気が治って）100 歳まで生きるためには、やはり医療が大切である。この授業では、20 年後・30 年後・50 年後に求められる医療のあり方を考えていく。なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【思考力、判断力、表現力等】に資する科目である。		
到達目標	医療、健康、命、病院経営などを、経済学からも経営学からも理解できるようになる。		
授業内容	第1回 公的年金と公的医療のトレードオン関係 第2回 市場の失敗と公的医療の経済学的必要性 第3回 行動経済学入門：なぜ日本は社会保障改革が遅いのか？ 第4回 医療における患者の行動：行動経済学から考える 第5回 人間が弱いゆえの患者の非合理的選択 第6回 医療と臓器移植 第7回 医療とガン患者への説得：フレーミング効果 第8回 社会的共通資本としての医療① 第9回 社会的共通資本としての医療②：宇沢弘文の論文を読む 第10回 医療の質（＝診療実績）による競争 第11回 医療における質と価格のトレードオン関係 第12回 「良質な医療は安価である」とは？ 第13回 マイケル・ポーターによる医療戦略論：まとめ 第14回 ドラッカーの考えた病院経営 第15回 所得格差と健康格差：社会疫学の視点から		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	LMSを使った最終試験 40%と課題 60%から評価する。なお、採点結果やコメントはLMSを通じて返却する。		
評価基準			
テキスト	指定なし。		
注意事項	前期の社会保障論Ⅰの履修が望ましい。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部・経済学科
科目名※	経済データ分析Ⅰ	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 前期	曜日・時限※	火曜 4 時限
キャンパス※		教室※	308
学修分野			
授業目的※	本講義では Excel を用いてデータ分析の手法を学ぶと共に、経済データの入手方法を学ぶ。Ⅰではまずは Excel の基本操作から始め、データ分析の手法を統計学の基礎から実際に自力で習得することを目指す。講義は教員による講義と Excel の操作方法の実演 + 受講者による実習の組み合わせで進める。 なお本講義では統計学、計量経済学の理論、計算機言語などは扱わないので、それらに関心がある受講者は該当する諸科目も履修することを推奨する。 なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【(知識・技能)(思考力、判断力、表現力等)】に資する科目です。		
到達目標	・Excel の操作に習熟し、データ分析に必要な操作を不自由なく行える ・記述統計やその可視化の手法の特徴を踏まえた上で、Excel を用いて基本統計量を導出し、適切な可視化の手法を選択して実行できる ・仮説検定の基礎概念を踏まえた上で Excel を用いて仮説検定が実施できた上で、その結果を正しく解釈できる ・Excel で回帰分析により 2 つの観測値間の関係を分析することができる		
授業内容	第 01 回 開講ガイダンスと Excel の基本設定 第 02 回 平均値と中央値 第 03 回 分散と標準偏差 第 04 回 ヒストグラムと分布の形状の把握 第 05 回 棒グラフとグループ同士の比較 第 06 回 散布図と 2 つの変数の関係の可視化 第 07 回 相関係数と 2 つの変数の関係の数値化 第 08 回 データ分析の目的と基本的なプロセス 第 09 回 データ分析とビジネスへの活用 第 10 回 仮説検定の基礎 第 11 回 確率分布と中心極限定理 第 12 回 t 値と p 値と t 検定 第 13 回 A/B テストとカイ二乗検定 第 14 回 単回帰分析：経済データでの応用 第 15 回 まとめと経済データ分析Ⅱへの展望 ※ なお上記スケジュールについては進捗状況により変更される場合がある。		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	各回での実習課題の評価を合計 100 点換算し、最終成績とする。 各回の実習課題のフィードバックは次回の授業時間の最初に行う。		
評価基準			
テキスト	『統計学の基礎から学ぶ Excel データ分析の全知識 改訂 2 版』三好大悟 (著) インプレス 2025 年		
注意事項	この講義は Excel の使用を前提としており、各自で Excel がインストールされたパソコンを持ち込む必要がある。パソコンを持参していない学生はその回の受講・課題提出が困難となるので注意すること。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部・経済学科
科目名※	経済データ分析Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 後期	曜日・時限※	火曜 4 時限
キャンパス※		教室※	308
学修分野			
授業目的※	本講義では Excel を用いてデータ分析の手法を学ぶと共に、経済データの入手方法を学ぶ。Ⅱでは経済学で用いられる統計的なデータ分析の手法である回帰分析に関して理論的な内容を理解し、自力で分析できることを目指す。また経済データの入手先として e-Stat, World Economic Outlook, Maddison Project などを紹介し適切な経済データを選択して入手できるためことを目指す。 なお本講義では統計学、計量経済学の理論、計算機言語などは扱わないので、それらに関心がある受講者は該当する諸科目も履修することを推奨する。 なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【(知識・技能)(思考力、判断力、表現力等)】に資する科目です。		
到達目標	・Excel の操作に習熟し、データ分析に必要な操作を不自由なく行える ・Excel を用いて記述統計から回帰分析までの統計手法を適切に実行できる ・家計消費・国内総生産・賃金貯蓄・物価変動・為替レート・経済成長・環境指標などのデータの扱い方を学び、金利計算ができる ・e-Stat, World Economic Outlook, Maddison Project を利用して経済データを自力で入手できる ・講義内で扱った内容に関して最新の統計データを入手して自力で分析が行える		
授業内容	第 01 回 開講ガイダンスと Excel の基本設定 第 02 回 家計消費の特徴を知る 1 第 03 回 家計消費の特徴を知る 2 第 04 回 国内総生産の分布を見る 第 05 回 賃金・貯蓄データを読む 第 06 回 金利計算の基本と現在価値と将来価値 第 07 回 価格変動を測定する。日本銀行時系列統計データ検索サイトの利用方法 第 08 回 外国為替レート変化の影響をとらえる 第 09 回 経済成長の要因を分解する 第 10 回 経済と環境指標の関係を測定する 第 11 回 e-Stat の利用方法 第 12 回 World Economic Outlook の利用方法 第 13 回 Maddison Project の利用方法 第 14 回 最終プレゼンの中間フィードバック 第 15 回 最終プレゼン ※ なお上記スケジュールについては進捗状況により変更される場合がある。		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	各回での実習課題の評価を合計 100 点換算し、最終成績とする。 各回の実習課題のフィードバックは次の授業時間の最初に行う。		
評価基準			
テキスト	『経済系のための情報リテラシー---統計データで学ぶ---』櫻本健（編著）実教出版 2025 年 『経済系のための統計データ分析』櫻本健（編著）実教出版 2025 年		
注意事項	この講義は Excel の使用を前提としており、各自で Excel がインストールされたパソコンを持ち込む必要がある。パソコンを持参していない学生はその回の受講・課題提出が困難となるので注意すること。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部・経済学科
科目名※	労働経済学Ⅰ	単位数※	2
開講年度学期※	2026年度 前期	曜日・時限※	水曜3時限
キャンパス※		教室※	408
学修分野			
授業目的※	時給の高いアルバイトと時給の低いアルバイトがあるのは、なぜでしょうか。大学生の就職内定率は、なぜ景気に影響を受けるのでしょうか。 労働市場について学ぶことは、経済分析にとって重要であるだけでなく、就職を控えた学生の皆さんがこれから直面する環境を知るという意味でも重要となるでしょう。 この講義では、労働経済学の基本的な理論を習得し、日本の労働市場の現状や労働市場が直面している変化を理解できるようになることを目的とします。 なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。		
到達目標	数学的モデルを用いて、家計の労働供給や企業の労働需要に関する意思決定や、労働市場均衡について理解できることを目標とします。		
授業内容	第1回 ① 数学の知識（一次関数、微分など）を確認するためのテストの実施 ② 労働経済学Ⅰを学ぶ意義・講義内容の紹介 第2回 労働供給（1）制約条件、選好 第3回 労働供給（2）制約条件下の効用最大化問題 第4回 労働供給（3）比較静学分析 第5回 労働供給（4）静学的労働供給モデルの応用 第6回 家計内生産モデル 第7回 家計内生産モデルの応用 第8回 労働需要（1）生産技術 第9回 労働需要（2）利潤最大化問題 第10回 労働需要（3）短期の労働需要 第11回 労働需要（4）長期の労働需要 第12回 労働需要（5）静学的労働需要モデルの応用 第13回 労働市場均衡モデル 第14回 労働市場均衡モデルの応用（1）給与税の効果 第15回 労働市場均衡モデルの応用（2）移民受け入れの効果		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	課題 20%、期末試験 80% の加重平均による成績評価とします。 課題については、授業内で解説をおこないます。		
評価基準			
テキスト	指定なし		
注意事項	(1) 上記の授業内容と計画にある授業回ごとの指示に従って予習・復習を行ってください。 (2) 課題は必ず余裕をもって取り組み、時間を少しあけて再度見直す作業を必ず行ってください。 (3) 授業の冒頭において、前回の授業の復習や予習の程度を確認するために、受講生に発言を求めます。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部・経済学科
科目名※	労働経済学Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 後期	曜日・時限※	水曜 3 時限
キャンパス※		教室※	408
学修分野			
授業目的※	時給の高いアルバイトと時給の低いアルバイトがあるのは、なぜでしょうか。大学生の就職内定率は、なぜ景気に影響を受けるのでしょうか。 労働市場の状況について学ぶことは、経済分析にとって重要であるだけでなく、就職を控えた学生の皆さんがこれから直面する環境を知るという意味でも重要となるでしょう。 この講義では、労働市場において賃金水準と雇用水準がどのように決まっているのかを学び、労働市場を深く理解できるようになることを目的とします。 なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）】に資する科目です。		
到達目標	数学的モデルを用いて、賃金決定に関する理論や賃金格差の現状などについて理解できることを目標とします。		
授業内容	第 1 回 ① 数学の知識を確認するためのテストの実施 ② 労働経済学Ⅱを学ぶ意義・講義内容の紹介 第 2 回 補償賃金格差 (1) 単純な補償賃金格差モデル 第 3 回 補償賃金格差 (2) ヘドニックモデル 第 4 回 補償賃金格差 (3) ヘドニックモデルの応用 第 5 回 大学進学の意味決定モデル (1) 教育の便益と費用、現在価値 第 6 回 大学進学の意味決定モデル (2) 教育と労働所得 第 7 回 教育投資モデル 第 8 回 教育の限界収益率の推定 第 9 回 シグナリングモデル (1) 一括均衡 第 10 回 シグナリングモデル (2) 分離均衡 第 11 回 教育終了後の人的資本投資 (1) 訓練の基礎モデル 第 12 回 教育終了後の人的資本投資 (2) 一般的訓練モデル 第 13 回 賃金プロフィール (1) 自己選抜モデル 第 14 回 賃金プロフィール (2) サボタージュ防止策としての後払い賃金 第 15 回 賃金プロフィール (3) 後払い賃金の特徴と応用		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	課題 20%、期末試験 80% の加重平均による成績評価とします。 課題については、授業内で解説をおこないます。		
評価基準			
テキスト	指定なし		
注意事項	(1) 上記の授業内容と計画にある授業回ごとの指示に従って予習・復習を行ってください。 (2) 課題は必ず余裕をもって取り組み、時間を少しあけて再度見直す作業を必ず行ってください。 (3) 授業の冒頭において、前回の授業の復習や予習の程度を確認するために、受講生に発言を求めます。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部・経営学科
科目名※	現代企業論 I	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 前期	曜日・時限※	水曜 4 時限
キャンパス※		教室※	307
学修分野			
授業目的※	現代企業を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。環境の変化に適応できない場合、その企業の存続は脅かされることになるでしょう。本講義では、企業経営における基礎的な内容を押さえて、コーポレート・ガバナンス、デジタルプラットフォーム、企業の社会的責任、コンプライアンス経営など、現代企業が対応しなければならない今日的課題について学修していきます。本講義の狙いは、現代企業が直面する諸問題に関して体系的な知識を獲得し、それらの問題を解決する力を養うことです。本講義では、ケーススタディを積極的に活用しながら、現代企業について様々な観点から理解を深めていきます。 なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【(知識 技能)(思考力、判断力、表現力等)】に資する科目です。		
到達目標	本講義の到達目標は、以下の 4 点です。 1. 株式会社の構造やコーポレート・ガバナンスなど、現代企業の仕組みについて説明できる。 2. デジタルプラットフォームを用いた経営戦略について説明できる。 3. コンプライアンス経営について説明できる。 4. 現代企業が抱える諸問題について自分の意見を論じることができる。		
授業内容	第 1 回 ガイダンス：現代企業論 I を学ぶ意義について 第 2 回 株式会社の構造 第 3 回 コーポレート・ガバナンス制度の変遷 第 4 回 コーポレート・ガバナンス体制の構築 第 5 回 企業グループの形成と変容 第 6 回 サービスマーケティング①：サービス商品の特徴 第 7 回 サービスマーケティング②：サービス組織のマネジメントと戦略 第 8 回 デジタル時代への対応（&中間試験） 第 9 回 デジタルプラットフォームの構築①：デジタルプラットフォームの特徴 第 10 回 デジタルプラットフォームの構築②：デジタルプラットフォームの戦略 第 11 回 企業の社会的責任とは何か 第 12 回 企業にコンプライアンス体制を構築させる仕掛け①：行政管理手法の転換 第 13 回 企業にコンプライアンス体制を構築させる仕掛け②：内部告発の有効性 第 14 回 個人データをめぐる企業の倫理的課題 第 15 回 経営哲学の意義		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	成績は、リアクションペーパー（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）によって評価します。リアクションペーパーや中間試験に対しては、毎講義の冒頭でフィードバックを行います。		
評価基準			
テキスト	指定なし		
注意事項	・本講義は、基本的に講義形式で行いますが、理解を促すため、学生からの意見や発言を適宜求めます。 ・本講義では、必要に応じて、グループディスカッションを実施します。 ・本講義は、座席を指定して実施します。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部・経営学科
科目名※	現代企業論Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 後期	曜日・時限※	水曜 4 時限
キャンパス※		教室※	307
学修分野			
授業目的※	現代企業のビジネスは、国内市場に留まることなく、グローバルに展開されています。本講義では、主に多国籍企業のビジネスに着目し、その経営手法について学修していきます。さらに、現代企業の活動がグローバルに広がり、その影響力が拡大する中、企業が意図せずとも、社会的な課題を助長しているということも起き得ます。そのため、本講義では、SDGs、環境問題、人権問題など、国際社会が直面している諸問題への現代企業の対応について学修していきます。本講義の狙いは、現代企業が直面するグローバルな諸問題に関して体系的な知識を獲得し、それらの問題を解決する力を養うことです。本講義では、ケーススタディを積極的に活用しながら、現代企業について様々な観点から理解を深めていきます。 なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【(知識、技能)(思考力、判断力、表現力等)】に資する科目です。		
到達目標	本講義の到達目標は、以下の4点です。 1. 多国籍企業に関する諸概念を説明できる。 2. 社会・環境に関する問題への企業の影響について説明できる。 3. 持続可能性に配慮した経営戦略について説明できる。 4. 現代企業が抱えるグローバルな諸問題について自分の意見を論じることができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス：現代企業論Ⅱを学ぶ意義について 第2回 多国籍企業の定義と参入形態 第3回 多国籍企業の組織デザイン 第4回 グローバル・マーケティング戦略 第5回 多国籍企業の人的資源管理 第6回 サプライチェーンマネジメント 第7回 グローバル化と企業の非倫理的行動：グローバル社会における贈収賄問題 第8回 グローバル社会が抱える課題とチャレンジとしてのSDGs（&中間試験） 第9回 環境経営①：企業を巡る環境問題の歴史 第10回 環境経営②：気候変動問題への対応 第11回 ビジネスと人権との関係性 第12回 サプライチェーンにおける人権問題 第13回 CSV 経営とは何か 第14回 ESG 情報開示の重要性 第15回 経営者のインテグリティ：組織改革における経営者の役割		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	成績は、リアクションペーパー（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）によって評価します。リアクションペーパーや中間試験に対しては、毎講義の冒頭でフィードバックを行います。		
評価基準			
テキスト	指定なし		
注意事項	・前期の「現代企業論Ⅰ」を受講していることが望ましいです。 ・本講義は、基本的に講義形式で行いますが、理解を促すため、学生からの意見や発言を適宜求めます。 ・本講義では、必要に応じて、グループディスカッションを実施します。 ・本講義は、座席を指定して実施します。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部・経営学科
科目名※	財務分析Ⅰ	単位数※	2
開講年度学期※	2026年度 前期	曜日・時限※	金曜2時限
キャンパス※		教室※	209
学修分野			
授業目的※	財務諸表は企業情報の宝庫といわれています。本講義では、企業が公表する財務諸表について、利害関係者の立場に立ち、さまざまな側面から分析、評価する手法を学びます。授業では、適宜ディスカッションを取り入れるとともに、実際の企業についてエクセルを用いた分析の演習を行います。また、投資意思決定有用性の概念と財務情報を利用した株式価値評価モデルについても解説します。 この科目は、卒業認定・学位授与方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力）】に資する科目です。 教員は、国内・海外の金融機関、監査法人アドバイザー部門、メガバンクにて勤務経験があります。その実務経験を基に、財務分析における主な分析手法や評価について、講義を行います。		
到達目標	本講義の到達目標は以下の3点です。 1. 財務分析の主な手法とその背景にある基礎的な理論について説明できる。 2. 投資意思決定有用性の概念と財務情報を利用した株式価値評価モデルについて説明できる。 3. 実際の企業について、エクセル等を用いて財務分析を行うことができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、財務諸表の役割 第2回 利益計算と資産評価 第3回 貸借対照表の見方 第4回 損益計算書の見方 第5回 キャッシュ・フロー計算書の見方、会計方針の注記 第6回 国際財務報告基準（IFRS） 第7回 演習（財務諸表の入手と比較） 第8回 中間試験、財務分析の最新動向 第9回 分析の視点と手法 第10回 収益性の分析 第11回 効率性の分析 第12回 演習（財務諸表の分析：収益性、効率性） 第13回 安全性の分析 第14回 不確実性の分析 第15回 演習（財務諸表の分析：安全性、不確実性）		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	授業内でのディスカッション、演習30%、中間試験30%、期末レポート40%の加重平均による評価とする。		
評価基準			
テキスト	指定なし。授業内でレジュメを配布する。		
注意事項	初級簿記、アカウンティング概論を履修していることが望ましい。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部・経営学科
科目名※	財務分析Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 後期	曜日・時限※	金曜 2 時限
キャンパス※		教室※	209
学修分野			
授業目的※	財務諸表は企業情報の宝庫といわれています。本講義では、企業が公表する財務諸表について、利害関係者の立場に立ち、さまざまな側面から分析、評価する手法を学びます。授業では、適宜ディスカッションを取り入れるとともに、実際の企業についてエクセルを用いた分析の演習を行います。また、投資意思決定有用性の概念と財務情報を利用した株式価値評価モデルについても解説します。 この科目は、卒業認定・学位授与方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力）】に資する科目です。 教員は、国内・海外の金融機関、監査法人アドバイザー部門、メガバンクにて勤務経験があります。その実務経験を基に、財務分析における主な分析手法や評価について、講義を行います。		
到達目標	本講義の到達目標は以下の 3 点です。 1. 財務分析の主な手法とその背景にある基礎的な理論について説明できる。 2. 投資意思決定有用性の概念と財務情報を利用した株式価値評価モデルについて説明できる。 3. 実際の企業について、エクセル等を用いて財務分析を行うことができる。		
授業内容	第 1 回 ガイダンス、前期の復習 第 2 回 生産性の分析①（付加価値） 第 3 回 生産性の分析②（労働生産性） 第 4 回 演習（財務諸表の分析：生産性） 第 5 回 成長性の分析①（割引配当モデル） 第 6 回 成長性の分析②（過去の成長の分析） 第 7 回 演習（財務諸表の分析：成長性） 第 8 回 中間試験、財務分析の最新動向 第 9 回 投資意思決定有用性①（資本資産評価モデル） 第 10 回 投資意思決定有用性②（効率的市場仮説） 第 11 回 株式価値評価モデル①（割引キャッシュフロー・モデル） 第 12 回 株式価値評価モデル②（残余利益モデル） 第 13 回 株式価値評価モデル③（資本コスト） 第 14 回 演習（財務諸表の分析：割引キャッシュフロー・モデル） 第 15 回 演習（財務諸表の分析：株式価値の算定）		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	授業内でのディスカッション、演習 30%、中間試験 30%、期末レポート 40%の加重平均による評価とする。		
評価基準			
テキスト	指定なし。授業内でレジュメを配布する。		
注意事項	初級簿記、アカウンティング概論を履修していることが望ましい。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部・経営学科
科目名※	経営戦略論Ⅰ	単位数※	2
開講年度学期※	2026年度 前期	曜日・時限※	金曜3時限
キャンパス※		教室※	407
学修分野			
授業目的※	経営戦略とは、企業が限られた経営資源をどのように配分し、競争相手に打ち勝ちながら存続し続けるかを考える「勝ち筋」を描くことである。この考え方は、私たち自身のキャリアや人生の選択にも応用可能な身近な視点である。たとえば、どの活動に時間や労力を配分するかという判断は、戦略の基本的な考え方と共通している。同様に、企業もそれぞれ独自の戦略を展開し、生き残りを図っている。 本授業の前半では、SWOT分析、3C分析、PEST分析、ポーターの競争戦略論など、外部環境分析の基本的なフレームワークを学ぶ。さらに、バーニーの資源ベース理論（RBV）やVRIO分析などの内部環境分析を取り上げ、企業を「外」と「内」の両面から捉える視点を養う。後半では、バリューチェーン分析、市場地位別戦略、ブルーオーシャン戦略、動的ケイパビリティ、CSRやデジタル化といった現代的な戦略課題を扱い、理論を応用して考察する力を身につける。 本授業では講義に加え、ディスカッションやグループワークなどのアクティブラーニングを取り入れ、理論を用いて企業事例を分析・説明できる力の育成を目指す。 なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識、技能）（思考力、判断力、表現力等）（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）】に資する科目である。		
到達目標	この授業を通じて、次のことができるようになることを目指す。 ・経営戦略論の主要な基礎理論の内容を整理し、自分の言葉で説明できる。 ・学んだ理論を用いて、実際の企業事例を分析・解説できる。 ・外部環境と内部資源という二つの視点から、企業の戦略を多角的に考察できる。 ・アクティブラーニングを通じて他者と意見を交換し、自身の考えを深めることができる。		
授業内容	第01回 インタロダクション：経営戦略論とは何か、学ぶ目的 第02回 経営戦略論の発展：歴史と意義 第03回 経営戦略と現状分析：SWOT分析 第04回 経営戦略と外部環境分析①：3C分析・業界構造 第05回 経営戦略と外部環境分析②：ポーターの基本戦略 第06回 経営戦略と外部環境分析③：PEST分析 第07回 中間まとめ：現状分析・外部環境分析の整理 第08回 経営戦略と事業ドメイン：MVVとの関連 第09回 経営戦略と内部環境分析①：資源ベース理論（RBV） 第10回 経営戦略と内部環境分析②：VRIO分析・7Sフレームワーク 第11回 経営戦略の応用①：バリューチェーン分析と動的ケイパビリティ 第12回 経営戦略の応用②：市場地位別戦略とブルーオーシャン戦略 第13回 経営戦略の応用③：環境変化と戦略（デジタル化・CSR等） 第14回 総合復習：外部環境分析と内部環境分析 第15回 まとめ：学びのふりかえり		
授業形態※	対面授業		
評価方法※	・課題・小テスト・グループワーク等の成果および授業中の発言内容：60% ・期末レポート：40% 課題や小テストについては、授業内で全体に対するフィードバックを行う。		
評価基準			
テキスト	指定なし（配布資料使用）		

注意事項	・積極的に授業に参加し、主体的に学ぶ姿勢を持つこと。 ・新聞やニュースを日常的に確認し、授業内容と社会の動きとを結びつけて考えること。 ・学び合いの場を大切にし、互いを尊重して授業に取り組むこと。 ・遅刻や私語は控え、集中できる学習環境づくりに協力すること。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学	学部・学科名※	経済学部・経営学科
科目名※	経営戦略論Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 後期	曜日・時限※	金曜 3 時限
キャンパス※		教室※	407
学修分野			
授業目的※	経営戦略とは、企業が限られた経営資源をどのように配分し、競争相手に打ち勝ちながら存続し続けるかを考える「勝ち筋」を描くことである。この考え方は、私たち自身のキャリアや人生の選択にも応用可能な身近な視点である。たとえば、どの活動に時間や労力を配分するかという判断は、戦略の基本的な考え方と共通している。同様に、企業もそれぞれ独自の戦略を展開し、生き残りを図っている。 本授業では、経営戦略論Ⅰで扱った外部環境分析（SWOT 分析、3C 分析、PEST 分析、ポーターの競争戦略論）および内部環境分析（資源ベース理論、VRIO 分析）を前提に、より応用的な理論や実践的なテーマを学ぶ。 具体的には、垂直統合、多角化戦略、戦略的提携、M&A、オープンイノベーション、ブルーオーシャン戦略、ダイナミック・ケイパビリティ、グローバル戦略などを取り上げる。また、中小企業や新興企業の事例に加え、リーダーシップや多様性・公平性・包摂性（DEI）の視点から戦略実行を考察するなど、現代的な経営課題についても扱う。 本授業では講義に加え、ディスカッションやグループワークなどのアクティブラーニングを取り入れ、理論を単に理解するだけでなく、自ら活用できるようになることを目指す。最終的には、理論を用いて企業事例を多角的に分析し、応用的な経営戦略に対する理解を深める。 なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【（知識・技能）（思考力、判断力、表現力等）（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）】に資する科目である。		
到達目標	この授業を通じて、次のことができるようになることを目指す。 ・垂直統合や多角化など、応用的な経営戦略論の内容を理解し、自分の言葉で説明できる。 ・それらの理論を用いて、企業の成長戦略や事業再編、新興企業や中小企業の事例を分析・考察できる。 ・戦略の立案にとどまらず、戦略の実行・評価を多角的に考察できる。 ・授業内での議論や演習を通じて、応用的な理論を現実の事例と結びつけ、自分の考えを深めることができる。		
授業内容	第01回 イン트로ダクション：経営戦略論Ⅱの学び方と進め方 第02回 経営戦略と成長戦略①：垂直統合 第03回 経営戦略と成長戦略②：多角化戦略 第04回 経営戦略と成長戦略③：戦略的提携 第05回 経営戦略と成長戦略④：M&A 第06回 経営戦略とイノベーション：オープンイノベーション 第07回 中間まとめ：成長戦略とイノベーションの整理 第08回 経営戦略と撤退・再構築：事業再編とブルーオーシャン戦略 第09回 新興企業の経営戦略 第10回 経営戦略と内部資源：ダイナミック・ケイパビリティ 第11回 中小企業とネットワーク戦略 第12回 グローバル戦略とデジタル化 第13回 経営戦略の実行と浸透：リーダーシップの役割 第14回 経営戦略の評価と改善：多様性・公平性・包摂性（DEI） 第15回 まとめ：学びのふりかえり		
授業形態※	対面授業		

評価方法※	・課題・小テスト・グループワーク等の成果および授業中の発言内容：60% ・期末レポート：40% 課題や小テストについては、授業内で全体に対するフィードバックを行う。
評価基準	
テキスト	指定なし（配布資料使用）
注意事項	・積極的に授業に参加し、主体的に学ぶ姿勢を持つこと。 ・新聞やニュースを日常的に確認し、授業内容と社会の動きとを結びつけて考えること。 ・学び合いの場を大切に、互いを尊重して授業に取り組むこと。 ・遅刻や私語は控え、集中できる学習環境づくりに協力すること。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	情報と社会	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	月曜日 3時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	401
学修分野			
授業目的※	高度情報化社会といわれる現代において、情報という言葉はとても身近である一方で、その理解については人によって様々に異なっている面もあります。本講では、日常的に当たり前のように扱っている情報について、歴史的な背景も含め、社会との関係を軸に改めて考えてみます。情報の持っている様々な特性が人々の生活にどのような影響を与えているか、何を理解し、何に注意すべきかなど、公共図書館での実務経験をもとに、情報と社会の関係について多面的な把握を試みます。DIKW（データ・情報・知識・叡智）モデルやリテラシーなどのキーワードを軸に、短大で教育を受ける者として知っておくべき情報に関するマナー・身のこなしなどについても触れます。これらを通じて、情報が溢れる現代社会において、より豊かな生き方へのヒントを見つけ、成熟した社会人としての自覚を得る一助となればと考えています。 毎回の授業で、配布資料等に関する出題についての意見・回答や、質問等の記入・提出を求めます（リアクションペーパー）。 なお、講義は公共図書館での実務経験を活かした内容となります。 卒業認定・学位授与の方針中の教科に関する科目（ベースアップステージ）に位置づけられています。（修学目標中の主として知識、技術・技能の育成に取り組んでいます。）		
到達目標	①情報が人の行動に及ぼす影響について具体例を示すことができる ②自分なりの情報との付き合い方を見定めることができる ③必要な情報について、的確に探し、評価し、活用することができる		
授業内容	第1回 ガイダンス：データ・情報・知識・叡智及び図書館 第2回 情報と媒体（メディア：媒体の歴史、種類、特徴等） 第3回 情報と市民社会（社会を構成する個人にとっての判断材料としての情報を軸に） 第4回 情報と報道（判断材料としての情報を提供するジャーナリズムの役割を中心に） 第5回 情報と統制（言論統制・検閲・焚書・流言飛語・フェイクニュース・ポストトゥルース等） 第6回 情報の生産と知識の蓄積（学術・科学の根拠史と研究不正を軸に） 第7回 情報と情報処理機器（情報環境の若者への影響を中心に） 第8回 情報とリテラシー（言語・コンピュータ・メディア：それぞれのリテラシーについて） 第9回 情報と図書館：地域における情報拠点としての図書館の役割 第10回 学生として情報のまとめ方（レポート作成を例に） 第11回 日常生活と情報（消費者情報・健康医療情報・法情報・ビジネス情報等） 第12回 災害と情報：緊急時の情報ニーズを中心に 第13回 情報と法（著作権法・個人情報保護法等を中心に） 第14回 情報を軸にした文化の伝播と受容（K-POPを例に） 第15回 まとめ：社会の中の個人としての情報との付き合い方 主にパワーポイントのスライドを用いた講義形式で行いますが、適宜、受講者の発言・意見発表を交えたり、視聴覚教材を利用したりすることもあります。毎回レジュメを配布します。参考資料を追加する場合もあります。		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	修了レポート（70%）、授業への積極的参加（出席・発言・意見記入：30%）をカッコ内の比率で総合的に評価します。授業では、毎回簡単な意見記入の時間を設け、提出することを求めます。		

評価基準	提出された意見記入の代表的なものを次回の授業時に取り上げ、コメントを付すことで、授業内容の理解を深めます。レポート作成については、基本的注意点等を授業の中で説明します。提出された修了レポートについては、採点時に気づいたポイント等をまとめ、最終回の授業時に解説します。
テキスト	特になし。講義レジュメを毎回配布します。関連する新聞・雑誌記事や論文・レポート類を配布する回もあります。
注意事項	
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	観光ビジネス I	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	火曜日 1 限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	408/301
学修分野			
授業目的※	観光は、旅行業、宿泊業をはじめとして運輸業、飲食業など様々な産業と関連して地域の雇用創出に役立っています。千葉県には全国トップの観光施設である東京ディズニーリゾートや国内外から多くの人が集う幕張メッセなどがあります。 観光による地域活性化に取り組んでいる事例を見ながら、観光の現状を学びます。オーバーツーリズムなど新たな課題も含めてインバウンド戦略なども考えます。 地域資源を活かした観光振興や地域の魅力発信など、観光行政に長く携わった担当教員の実務経験をもとに、自治体や地域団体など多様な主体の取組事例を紹介し、観光ビジネスへの理解を深めます。 観光関連事業者や自治体職員などによるゲストスピーチも予定しています。 卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置付けられています。（学修目標中の主として知識、技術・技能の育成に取り組んでいきます。）		
到達目標	①国や県が観光振興に取り組む意義や主な施策の概要を理解し、説明できる。 ②オーバーツーリズムなどの課題面も含め、観光と地域の関係を理解し、自分なりに説明できる。 ③ゲストスピーチ等を通して、様々な観光関連業務を具体的にイメージできるようになり、進路決定につなげることができる。		
授業内容	以下の内容で進める予定です。 第1回 イン트로ダクション 第2回 千葉県の観光の現状 第3回 日本の観光振興状況 第4回 グリーンブルーツーリズム 第5回 産業インフラの効果（1） 第6回 産業インフラの効果（2） 第7回 観光資源（1） 第8回 観光資源（2） 第9回 国際観光（インバウンドの効果と課題）（1） 第10回 国際観光（インバウンドの効果と課題）（2） 第11回 地域の活性化事例（1） 第12回 地域の活性化事例（2） 第13回 観光ビジネスで働くこと 第14回 ホスピタリティマインド 第15回 まとめ		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	テスト（40％）、レポート（40％）、授業への取組みの能動性（20％）を総合的に評価します。		
評価基準	授業中に実施した小テストはその都度採点して返却するので、振り返りに利用してください。 提出したレポートは授業で説明し返却しますので、振り返りの参考にしてください。		
テキスト	指定なし。授業時に資料を配付します。		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	自然科学への招待A	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	月曜日 5 限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	401
学修分野			
授業目的※	「物質・原子・原子核・素粒子・・・（ミクロの世界）」 自然の世界は、大きさのスケールでいえば極微の素粒子から極大の宇宙まで広がり、時間のスケールでいえば宇宙の誕生からその死まで続いています。自然科学は、これら自然に存在するものすべてを対象とし、それらの構造や仕組み、変化の仕方を調べ、できるだけ簡単な法則でしかも統一的に理解しようとする学問です。 広い意味の自然科学は、数学や理科（物理・化学・地学・生物など）に相当しますが、ここでは特に理科（物理・化学・地学）に関わる内容を扱います。“理科”というと難しいというイメージを抱くかもしれませんが、授業では難しい数式や計算は使いません。スライドや動画を使って、できるだけわかりやすく概念を伝えるような説明を行うつもりです。 「自然科学への招待 A」では、光や音、原子や原子核、放射線、素粒子といった「小さな（ミクロ）世界」に目を向けます。また毎月の星座や天文現象なども紹介します。 卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられます。（学修目標中の主として知識、理解、思考力の育成に取り組んでいきます。）		
到達目標	① 社会人として知っておくべき理科の知識と教養を身につけることができる。 ② 身近なものごと・現象の理学的理解ができる。 ③ 公務員試験「自然科学」分野の準備ができる。		
授業内容	以下の内容で進める予定です。 （履修者の状況により適宜変更する可能性もあります。） 第1回 自然界のスケール 第2回 数値の表し方 第3回 単位 第4回 光と色 第5回 虹と青空 第6回 電磁波 第7回 音 第8回 運動・力・重力 第9回 物質と分子・原子 第10回 固体・液体・気体 第11回 元素の周期表 第12回 原子の構造 第13回 原子核 第14回 核分裂と核融合、放射線 第15回 素粒子		
授業形態※	講義を中心として、PCによるスライド・資料提示を行います。		
評価方法※	授業への取り組みの能動性（30%）、期末試験（70%）により総合的に評価する予定です。		
評価基準	毎授業時に記入してもらう質問票をもとに、次回の授業時に追加説明を行います。授業であいまいだった点の確証に役立ててください。		
テキスト	指定なし。 毎授業時に資料プリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学明※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	こども学科
科目名※	健康科学概論 (βh)		単位数※ 2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	木曜日 4 限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	204
学修分野			
授業目的※	より望ましいライフスタイルを獲得するための知識を学びます。 特に、青年期というライフステージに必要な健康に関する知識を学んで行きます。 卒業認定・学位授与の方針中の基礎科目に位置づけられる。(学修目標中の主として知識、理解、思考力の育成に取り組んでいく。)		
到達目標	・健康とは何か? どのような状態をさすのかを理解する。 ・食事、運動(含む外傷、予防)、睡眠等に関する正しい知識を獲得する。 ・健康なライフスタイルを獲得するための様々な知識を獲得する。		
授業内容	第1回 オリエンテーション、健康とは/ W.H.O.の世界保健憲章(前文)に見る「健康」 第2回 「体育」の定義/「知育」「徳育」「体育」と三育主義。 第3回 「体力」の定義/防衛体力と行動体力、体力の構成要素 第4回 様々な指数(1)/ BMIによって何が評価できるのか。指数を算定・評価します 第5回 様々な指数(2)/ カップ指数、ローレル指数、プリクマン指数によって何が評価できるのか。指数・評価を算定します 第6回 水分貯留量/生活やスポーツ時に必要な水分量を算定します 第7回 身体の構造と機能(1)/ 骨、関節、筋肉の構造と機能について学びます 第8回 身体の構造と機能(2)/ 神経系の働き、乳幼児期における神経系の発達について学びます。呼吸器の働きについて学びます 第9回 運動(スポーツ) 外傷(1)/ 運動(スポーツ)時の外傷における救急処置について学びます 第10回 運動(スポーツ) 外傷(2)/ 運動(スポーツ)時の外傷における救急処置について学びます 第11回 感染症/感染症の種類、感染経路、感染症予防の手段について学びます 第12回 健康な生活/薬物、アルコール、たばこと健康について学びます 第13回 ストレスと健康/ストレスの身体への反応、運動とストレスの関係について学びます 第14回 小テスト/これまで学んだ内容を小テストで確認します 第15回 まとめ/授業のまとめと振り返りを行います ※この科目は「教養科目」のため、皆さんの興味関心の高い分野についても柔軟に取り入れたいと考えています。そのため初回のオリエンテーションでアンケートを取り、一部内容を変更する可能性があります。		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	小テスト(50%)、提出物・課題(30%)、授業への取り組み(20%) ※提出された提出物・課題・小テストは、授業内で返却します。なお、コメントカードなどで頂いた質問は、次回の授業冒頭で紹介、返答いたします。		
評価基準			
テキスト	指定なし		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学明※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	こども学科
科目名※	健康科学概論 (ah)	単位数※	2
開講年度学期※	前期	曜日・時限※	木曜日 3 限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	204
学修分野			
授業目的※	より望ましいライフスタイルを獲得するための知識を学びます。 特に、青年期というライフステージに必要な健康に関する知識を学んで行きます。 卒業認定・学位授与の方針中の基礎科目に位置づけられる。(学修目標中の主として知識、理解、思考力の育成に取り組んでいく。)		
到達目標	・健康とは何か? どのような状態をさすのかを理解する。 ・食事、運動 (含む外傷、予防)、睡眠等に関する正しい知識を獲得する。 ・健康なライフスタイルを獲得するための様々な知識を獲得する。		
授業内容	第1回 オリエンテーション、健康とは/ W.H.O.の世界保健憲章 (前文) に見る「健康」 第2回 「体育」の定義/「知育」「徳育」「体育」と三育主義。 第3回 「体力」の定義/防衛体力と行動体力、体力の構成要素 第4回 様々な指数 (1)/ BMI によって何が評価できるのか。指数を算定・評価します 第5回 様々な指数 (2)/ カップ指数、ローレル指数、プリנקマン指数によって何が評価できるのか。指数・評価を算定します 第6回 水分貯留量/生活やスポーツ時に必要な水分量を算定します 第7回 身体の構造と機能(1)/ 骨、関節、筋肉の構造と機能について学びます 第8回 身体の構造と機能(2)/ 神経系の働き、乳幼児期における神経系の発達について学びます。呼吸器の働きについて学びます 第9回 運動 (スポーツ) 外傷(1)/ 運動 (スポーツ) 時の外傷における救急処置について学びます 第10回 運動 (スポーツ) 外傷(2)/ 運動 (スポーツ) 時の外傷における救急処置について学びます 第11回 感染症/感染症の種類、感染経路、感染症予防の手段について学びます 第12回 健康な生活/薬物、アルコール、たばこと健康について学びます 第13回 ストレスと健康/ストレスの身体への反応、運動とストレスの関係について学びます 第14回 小テスト/これまで学んだ内容を小テストで確認します 第15回 まとめ/授業のまとめと振り返りを行います ※この科目は「教養科目」のため、皆さんの興味関心の高い分野についても柔軟に取り入れたいと考えています。そのため初回のオリエンテーションでアンケートを取り、一部内容を変更する可能性があります。		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	小テスト (50%)、提出物・課題 (30%)、授業への取り組み (20%) ※提出された提出物・課題・小テストは、授業内で返却します。なお、コメントカードなどで頂いた質問は、次回の授業冒頭で紹介、返答いたします。		
評価基準			
テキスト	指定なし		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	映画で学ぶ英語表現	単位数※	1
開講年度学期※	後期	曜日・時限※	月曜日 2 限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	402
学修分野			
授業目的※	映画を通じて日常的な英語の表現を習得し、リスニング能力の向上を目指します。英語の母国語話者が用いる「英語」と今まで学校で学んできた知識との接点を確認していきます。 卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられています。（学修目標中の主として知識、理解、思考力、人間性、技術・技能、判断力の育成に取り組んでいきます。）		
到達目標	①映画を理解するために必要な語句・構文に慣れることができる。 ②リスニングを通じて英語の音声に慣れることができる。		
授業内容	第1回 授業の進め方についてガイダンス 第2回 SOUND OF MUSIC その1 第3回 SOUND OF MUSIC その2 第4回 SOUND OF MUSIC その3 第5回 SOUND OF MUSIC その4 第6回 ROMAN HOLIDAYS その1 第7回 ROMAN HOLIDAYS その2 第8回 ROMAN HOLIDAYS その3 第9回 ROMAN HOLIDAYS その4 第10回 TITANIC その1 第11回 TITANIC その2 第12回 TITANIC その3 第13回 TITANIC その4 第14回 発音とイントネーション 第15回 まとめ		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	筆記テスト(50%)、授業への積極的な取り組み(50%)を考慮して評価します。 なお、筆記テストの結果はコメントと共に返却します。		
評価基準			
テキスト	指定なし 授業中に映画のスク립トを配布します。なお、教材として鑑賞する映画のタイトルは「サウンドオブミュージック」（20世紀フォックス、1965年）、「ローマの休日」（パラマウント映画、1953年）、および「タイタニック」（20世紀フォックス、パラマウント映画、1997年）などを予定しています。		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	ホスピタリティサービス	単位数※	2
開講年度学期※	後期	曜日・時限※	火曜日 1 限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	204
学修分野			
授業目的※	サービス産業が拡大する中で、顧客満足度により企業業績を上げることができるホスピタリティビジネスの重要性が高まっています。ホスピタリティの基本スキルを磨き、ホスピタリティマインドを高めることを学びます。 インバウンド効果を高める日本の「おもてなし」の推進をいろいろな関係者が取組んでいます。「サービス」と「ホスピタリティ」の違いはどこにあるのか考えましょう。 観光振興や国際会議誘致などの担当教員の実務経験を活かして、ホスピタリティマネジメントの事例を紹介しますので、その効果についての理解が深まります。 サービス産業従事者（ホテル関係者など）からのホスピタリティマインド実践についての講義を聞くことも予定しています。 卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置付けられます。（学修目標中の主として知識、技術・技能の育成に取り組んでいく。）		
到達目標	①ホスピタリティが何かを理解することができる。 ②基本マナーを習得することができる。 ③ホスピタリティマインドを高めることができる。 ④サービス接客検定 2 級の取得を目指し、受験することができる。（2 月受験）		
授業内容	以下の内容で進める予定です。必要に応じて実習を行います。 第 1 回 インタロダクション 第 2 回 なぜ、ホスピタリティなのか 第 3 回 ホスピタリティ・マネジメント（1） 第 4 回 ホスピタリティ・マネジメント（2） 第 5 回 ホスピタリティマインド（1）（ゲストスピーカー） 第 6 回 ホスピタリティ実践の基本 第 7 回 基本マナー（1） 第 8 回 基本マナー（2） 第 9 回 ホスピタリティマインド（2）（ゲストスピーカー） 第 10 回 気配り（1） 第 11 回 気配り（2） 第 12 回 心配り 第 13 回 ケーススタディ（1） 第 14 回 ケーススタディ（2） 第 15 回 まとめ * ゲストスピーカーによる講義は日程変更になることがあります。		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	レポート（40%）、テスト（40%）、授業への能動性（20%）を総合的に評価します。 提出したレポートについては授業で説明し返却しますので、振り返りの参考にしてください。		

評価基準	授業で学んだことを日常で実践する。 毎朝、鏡に向かって笑顔で挨拶することを習慣化しましょう。 （予習） 次回の予告に基づきホスピタリティの実践事例を考える。 （復習） 配布した資料などを理解し、レポートや課題を提出する。 毎回、予習・復習を各 120 分以上してください。ホスピタリティマインドを高めましょう。
テキスト	授業時に資料などを配布します。
注意事項	
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	観光ビジネスⅡ	単位数※	2
開講年度学期※	後期	曜日・時限※	火曜日 1 限
キャンパス※		教室※	408/301
学修分野			
授業目的※	観光ビジネスⅠで学んだ知識と理解を踏まえて、地域の魅力を活かした日帰り旅行企画をグループで作成します。 また、観光関連事業に携わる人材として必要な「コミュニケーション能力」「おもてなしの心」などを学びます。これらの能力等を身につけることは、観光以外の分野においても基本となる社会性や人間性を高めることにつながります。 担当教員は、地域資源を活用した観光振興や魅力発信など観光行政に長く携わり、観光関連事業者等との人脈も有することから、これらの実務経験等をもとに観光ビジネスを多角的な視点から学んでいきます。 訪日外国人客からも高い評価を得ている老舗料亭の女将による「おもてなし英会話」など、観光ビジネスに従事しているゲストスピーカーの講義も行う予定です。 卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置付けられています。（学修目標中の主として知識、技術・技能の育成に取り組んでいます。）		
到達目標	①地域の魅力や観光による地域活性化への効果を理解した上で、具体的な旅行企画の案を作成できる。 ②基礎的な「おもてなし英会話」を身につけ、外国人観光客に対しても積極的にコミュニケーションをとることができる。また、誰に対しても「おもてなしの心」を意識した振る舞いができる。 ③地域の文化資源に関する知識を深め、その魅力を自分なりに説明できる。		
授業内容	以下の内容で進める予定です。 第1回 観光振興と地域活性化（1） 第2回 観光振興と地域活性化（2） 第3回 観光振興と地域活性化（3） 第4回 日帰り旅行企画（1） 第5回 日帰り旅行企画（2） 第6回 日帰り旅行企画（3） 第7回 おもてなし英会話（1） 第8回 おもてなし英会話（2） 第9回 おもてなし英会話（3） 第10回 おもてなし英会話（4） 第11回 おもてなし英会話（5） 第12回 文化と観光（1） 第13回 文化と観光（2） 第14回 文化と観光（3） 第15回 まとめ ※ゲストスピーカーによる講義は日程変更になる可能性があります。		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	レポート（40％）、実習（30％）、授業への取り組みの能動性（30％）を総合的に評価します。		
評価基準	授業中に実施した小テストは、その都度採点して返却するので、振り返りに利用してください。 提出したレポートについては授業で説明しますので、振り返りの参考にしてください。		

テキスト	指定なし。必要に応じて資料等を配付します。
注意事項	
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	こども学科
科目名※	文学	単位数※	2
開講年度学期※	後期	曜日・時限※	木曜日 2 限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	303
学修分野			
授業目的※	本科目では「浦島太郎」や「一寸法師」といった昔話としてもなじみ深い 2 作品を取り上げる。これらについて、室町期に成立した「御伽草子」版で読み進めていく。 作品の講読を行う中で、それぞれの作品の特徴や背景にある事柄等についても様々な側面から検討していく。さらに、現代において流布している絵本や昔話等の児童書についても取り上げ、「御伽草子」版との比較作業を通じ、それぞれの特徴を検討していく作業も行う。 また、保育者や教員をはじめ社会人・職業人として必要となる他者の立場から物事を考える姿勢を身につけるために、自己の物事のとらえ方が自己中心的なものになりがちであるということへの気づきも作品読解の過程において促したい。 本科目は、卒業認定・学位授与の方針中の一般教養科目に位置づけられている。（学修目標中の主として知識、理解、思考力の育成に取り組んでいく。）		
到達目標	①御伽草子について理解し、説明することができる。 ②時代背景、作者、構造、形式、内容、享受等の各点から作品の概要や周辺事項について理解し、説明することができる。 ③多様な視点から物事をとらえ、考察し、それを表現することができる。		
授業内容	第 1 回 オリエンテーション、イントロダクション 第 2 回 御伽草子概説 第 3 回 昔話や話型について 第 4 回 「浦島太郎」を読む① 第 5 回 「浦島太郎」を読む② 第 6 回 「浦島太郎」を読む③ 第 7 回 「浦島太郎」を読む④ 第 8 回 「浦島太郎」を読む⑤ 第 9 回 現代の「浦島太郎」作品との比較 第 10 回 「一寸法師」を読む① 第 11 回 「一寸法師」を読む② 第 12 回 「一寸法師」を読む③ 第 13 回 「一寸法師」を読む④ 第 14 回 現代の「一寸法師」作品との比較 第 15 回 総括		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	授業内レポート（45%）と期末レポート（50%）を主たる評価材料とする。加えて、自主的な課題提出（自由レポート等／5%）も認める。		
評価基準	それぞれの成績算出基準（前掲の到達目標を参照のこと）に対する配点は以下のとおり。 ■授業内レポート（45 点）：到達目標①②③にかかわる内容 ■期末レポート（50 点）：到達目標①②③にかかわる内容 ■自主課題（5 点）：到達目標①②③にかかわる内容 授業内レポートについては、記載された意見や質問等の紹介・回答を翌授業回の冒頭で実施し、フィードバックを行う。 また、期末レポートについては最終回の授業にて取り上げて解説し、フィードバックを行う。		

テキスト	指定なし。授業時に配付するプリントを用いる。
注意事項	各回で配付するプリントについてはファイリングするなどして管理すること。また、後の授業回でも振り返って使用する場合がありますので、毎回持参すること。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	ビジネスライフ学科
科目名※	自然科学への招待B	単位数※	2
開講年度学期※	後期	曜日・時限※	月曜日 5 限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	
学修分野			
授業目的※	「地球・太陽系・星・銀河・宇宙・・・（マクロの世界）」 前期の「自然科学への招待 A」に引き続き、理科（物理・化学・地学）的な眼で自然界を見ます。「自然科学への招待 B」では、地球・月・太陽系・星・銀河・宇宙といった「大きな（マクロ）世界」に目を向けていきます。スライドや動画を使って、できるだけわかりやすく概念を伝えるような説明を行うつもりです。また毎月の星座や天文現象なども紹介します。 マクロな世界について理解するには、ミクロな世界の知識が必要です。この科目を履修するために「自然科学への招待 A」の履修を前提とはしませんが、できれば履修しておくことでより理解が深まるでしょう。 卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられます。（学修目標中の主として知識、理解、思考力の育成に取り組んでいきます。）		
到達目標	① 社会人として知っておくべき理科の知識と教養を身につけることができる。 ② 身近なものと現象の理科的理解ができる。 ③ 公務員試験「自然科学」分野の準備ができる。		
授業内容	以下の内容で進める予定です。（履修者の状況により適宜変更する可能性もあります。） 第1回 自然界のスケール 第2回 いろいろな星 第3回 太陽系の動き 第4回 星座 第5回 地球の形成運動 第6回 地球の内部 第7回 プレートテクトニクス 第8回 月 第9回 太陽系（1） 第10回 太陽系（2） 第11回 太陽系（3） 第12回 太陽 第13回 銀河系 第14回 星の一生と元素の生成 第15回 宇宙の大規模構造と歴史 講義を中心として、PCによるスライド・資料提示を行います。		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	授業への取り組みの能動性（30%）、期末試験（70%）により総合的に評価する予定です。		
評価基準	毎授業時に記入してもらう質問票をもとに、次回の授業時に追加説明を行います。授業であいまいだった点の確認に役立ててください。		
テキスト	指定なし。毎授業時に資料プリントを配布します。		
注意事項	必須ではないが、事前に「自然科学への招待 A」を履修しておく、より望ましい。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名※	こども学科
科目名※	歴史への旅		単位数※ 2
開講年度学期※	後期	曜日・時限※	木曜日 2 限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	201
学修分野			
授業目的※	歴史とは先を生きた人たちの痕跡です。それぞれの時代の人々は、どう生きてどう考えて、なにを生み出してきたのでしょうか。歴史のなかには、為政者の試行錯誤があり、権力者の欲望や嫉妬があり、民衆の苦難や生活や知恵があり、諸外国との関係があります。制度や法律、優れた知恵や技、時代ごとの美意識や表現、時代を動かす大きな流れもあります。私たちはそこから学び、いまに活かすことができます。本講は「暗記する歴史の授業」ではなく「歴史を手がかりに考える授業」を目指します。原始から近代まで、日本の歴史を大きく概観し、各時代の特徴をおさえながら、教育や子どもを含むいくつかの出来事・人・テーマをていねいに掘り下げて、ともに考えていきます。 卒業認定・学位授与の方針中の一般教養科目に位置づけられる。（学修目標中の主として知識、理解、思考力の育成に取り組んでいく。）		
到達目標	歴史の面白さや大切さを知る。異なる時空間に生きた人々に出会い、理解し、考えるための方法を学ぶ。基礎的な知識を身につけて歴史から学び、歴史的に考えるための基盤を作る。歴史をいまに活かす視点、自分なりに考えていくための問いを育む。		
授業内容	第1回 インTRODakション ― 旅の始まり 第2回 人類の誕生と移動 ― 日本人はどこから来たのか 第3回 原始を生きた人々 ― 縄文・弥生時代から考える 第4回 言葉と共に生きる ― 文字の伝来・言霊思想・万葉仮名 第5回 国をつくる① ― リーダー・資源・大陸文化の受容 第6回 国をつくる② ― 仏教・中央集権・律令体制 第7回 不安な平安貴族たち ― 遷都・仏教・もののけ 第8回 庶民を支えた鎌倉新仏教 ― 武士と戦乱の時代 第9回 戦国の世 ― 新しい秩序とリーダー 第10回 戦国の美意識と服装の歴史 ― なぜ人は服装にこだわるのか 第11回 江戸の国づくり人づくり① ― 徳川家康と近世封建体制 第12回 江戸の国づくり人づくり② ― 参勤交代と判じ絵 第13回 近代国家をつくる ― 明治期の教育制度・翻訳・標準語 第14回 戦争・メディア・悪 ― 2度の世界大戦と「私」 第15回 旅の終わり、旅の始まり ― 史に埋もれ歴に生きた人々の横顔		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	平常点（受講態度、授業への積極的参加度、リアクションペーパーなど） 50%、期末レポート50%を標準として、総合的に判断します。リアクションペーパーは次回授業においてフィードバックを行います。		
評価基準			
テキスト	指定なし		
注意事項	参加人数にもよりますが、ワークやディスカッションの時間なども設けて、それぞれが考える時間を大事にしながらか授業を進める予定です。おおいに考え、問いをもち、意見を述べ、歴史を学ぶことを積極的に楽しんでください。また、授業内で配布された資料は本授業専用のファイルを用意して管理することが望ましいです。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/default.asp?cdga=1		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、情報学部
科目名※	数学 I	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	月曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	線形代数に登場する様々な概念を理解し計算できるようになる。		
到達目標	連立 1 次方程式、平面の直線などを「行列」と「ベクトル」で表して計算できるようになる。		
授業内容	連立一次方程式の復習、連立一次方程式と行列・ベクトル、連立一次方程式と行列式、連立一次方程式とクラメルの公式と逆行列、平面のベクトル、方向ベクトルと直線の式、内積と平行四辺形の面積、法線ベクトルと直線の式、点と直線の距離、平面のベクトルの一次変換、固有値と固有ベクトル、対角化、二次形式		
授業形態※	授業は前半に講義し、後半に演習を行う。演習は moodle で実施する。 双方向型演習		
評価方法※	演習 50%（小テスト 3%×10 回，演習 6.7%×3 回） 試験 50%（中間試験 25%，期末試験 25%） 中間試験と期末試験を未受験の場合は評価対象としない。		
評価基準	秀（S）：得点が 90%以上 優（A）：得点が 80%以上 90%未満 良（B）：得点が 70%以上 80%未満 可（C）：得点が 60%以上 70%未満 不可：得点が 60%未満		
テキスト	テキストは授業内で指示します。 （数学 I・II，統計学 I・II のテキストは共通）		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、情報学部
科目名※	数学Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	月曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	経済学を習得するために必要な「関数」と「微分」の知識を身につける。		
到達目標	「関数」の定義と「微分」の意味を人に説明できるようになり、さらに、それらを経済学へ応用できるようになる。		
授業内容	べき乗、逆数、ルート／微分、接線の方程式、最適化／2 変数関数の微分、接平面の方程式、最適化／不定積分、定積分／対数関数、指数関数／三角関数、三角関数の微分／微分と積分の公式		
授業形態※	小テストは moodle で、演習は筆記で実施する。 双方向型演習		
評価方法※	演習 5 0 %（小テスト 1 %× 1 0 回，演習 1 0 %× 4 回） 確認試験 5 0 %試験を未受験の場合は評価対象としない。		
評価基準	秀（S）：得点が 90%以上 優（A）：得点が 80%以上 90%未満 良（B）：得点が 70%以上 80%未満 可（C）：得点が 60%以上 70%未満 不可：得点が 60%未満		
テキスト	テキストは授業内で指示します。 （数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱのテキストは共通）		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、情報学部
科目名※	統計学 I	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	水曜・3 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	データの要約の実用性の高い知識を効率よく学習する。		
到達目標	記述統計の様々なアイデアを人に説明できるようになる。		
授業内容	データの種類、データの代表値／データのバラツキ、変動係数、標準化／度数分布表とヒストグラム、ローレンツ曲線／共分散と相関係数／見せかけの相関と偏相関係数／回帰分析／リスク比とオッズ比／順列、組み合わせ、集合、ベン図、条件付き確率／微分積分と確率の計算		
授業形態※	小テストは Moodle、演習は筆記で実施する。		
評価方法※	演習 5 0 %（小テスト 1 %× 1 0 回、演習 1 0 %× 4 回） 確認試験 5 0 % 確認試験を未受験の場合は評価対象としない。		
評価基準	秀（S）：得点が 90%以上 優（A）：得点が 80%以上 90%未満 良（B）：得点が 70%以上 80%未満 可（C）：得点が 60%以上 70%未満 不可：得点が 60%未満		
テキスト	テキストは授業内で指示します。 （数学 I・II、統計学 I・II のテキストは共通）		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、情報学部
科目名※	統計学Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度後期	曜日・時限※	水曜・3 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	推測統計に必要な確率の基本、推定、検定を理解する。		
到達目標	点推定と区間推定ができる、検定ができる。		
授業内容	区間推定の考え方と平均の区間推定／分散と比率の区間推定／検定の考え方と平均の検定／分散の検定、比率の検定／対応のある t 検定、対応のない t 検定／比率の差の検定、分散の比の検定／適合度検定、独立性の検定／無相関の検定、回帰係数の検定、一元配置分散分析／確率論を使った区間推定と仮説検定の理論		
授業形態※	小テストは Moodle、演習は筆記で実施する。 双方向型演習		
評価方法※	演習 50 %（小テスト 1 %× 10 回、演習 10 %× 4 回） 確認試験 50 % 試験を未受験の場合は評価対象としない。		
評価基準	秀（S）：得点が 90%以上 優（A）：得点が 80%以上 90%未満 良（B）：得点が 70%以上 80%未満 可（C）：得点が 60%以上 70%未満 不可：得点が 60%未満		
テキスト	テキストは授業内で指示します。 （数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱのテキストは共通）		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、教育・情報学部
科目名※	憲法	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	金曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくこと。		
到達目標	憲法の原理や考え方を正しく理解し説明できること。		
授業内容	憲法の内容、日本国憲法の成立過程、憲法の制定・改正および変遷、憲法改正と限界、憲法の基本原理、国民権主義、基本的人権、平和主義、統治機構・地方自治 毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。 授業内容に応じてデベートやディスカッションを行い、それぞれのテーマを学生一人一人がフィードバックし授業への参加意欲を高めます。		
授業形態※			
評価方法※	平常点（授業内に適示おこなうアクションペーパーや任意課題レポート）20%、確認試験 80%で評価します。		
評価基準	秀（S）：授業のねらいを越えて憲法的思考を深めるレベルに達している。 優（A）：授業のねらいがほぼ達成できており、憲法的思考もできるレベルにある。 良（B）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成し、概要を正しく 説明できる。 可（C）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成している。 不可：授業のねらい・内容が達成されておらず概要を説明できない。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版(ISBN978-4-8429-1722-1)		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、教育・情報学部
科目名※	法学	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	金曜・3 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論、用語の学習を通して法律学（法学）への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方（legal mind）を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします（CP2.3・DP2.3）。		
到達目標	今日、とくとく流れる国際社会のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習である「法学」を理解し日々の生活にいかせること。		
授業内容	法の概念、法と法則、法と道徳、法の構造、法の目的、法源論、成文法、不文法、法の分類、法の適用と解釈、法の実質的効力、法の形式的効力、権利と義務		
授業形態※	毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。		
評価方法※	平常点（授業内に適宜おこなうアクションペーパーや任意課題レポート）20%、確認試験 80%で評価します。		
評価基準	秀（S）：授業のねらい・内容を正しく理解しリーガル・マインドができるようになり、社会生活において適用できるようになる。 優（A）：授業のねらいがほぼ達成できており、法的思考もできるレベルにある。 良（B）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成し、概要を正しく 説明できる。 可（C）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成している。 不可：授業のねらい・内容が達成されておらず概要を説明できない。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説 』八千代出版 (ISBN978-4-8429-1722-1) （参考文献）『六法』（岩波）（三省堂）（有斐閣）などを持参するとよいでしょう。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、教育、情報学部
科目名※	歴史学	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	月曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	「国際的な視野で多様な共生社会の課題に取り組む能力」を身につけるため、「歴史とは何か」「歴史を学ぶ意義」を問いながら、今後新しく展開される近現代史の論点を知る。		
到達目標	歴史の連続性や歴史の同時代性の視点から現在の日本、及び国際関係を理解し、課題を発見し、自分自身の言葉で説明できること。		
授業内容	歴史を学ぶ意義を考える／世界の現状をどのように認識するか（歴史的視点から）／歴史の連続性／歴史の転換点		
授業形態※	第 1 回目はオンデマンド、2 回目からは対面で行います。 テーマごとのグループディスカッション、映像資料に関するリアクションペーパーの作成、関心のある歴史事象に関するプレゼンテーション。ただし、プレゼンテーションは、履修の人数によっては行わない場合があります。		
評価方法※	①授業への取り組み・リアクションペーパー・プレゼンテーション（40%） ②学期末確認テスト、必要に応じてのレポート提出（60%）		
評価基準	秀（S）：得点が 90%以上 優（A）：得点が 80%以上 90%未満 良（B）：得点が 70%以上 80%未満 可（C）：得点が 60%以上 70%未満 不可：得点が 60%未満		
テキスト	教科書は指定しません。授業用に作成した講義ノート及び資料を配布し、教科書の代わりとします。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済・国際・教育・情報学部
科目名※	法学	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	金曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論、用語の学習を通して法律学（法学）への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方（legal mind）を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします（CP2.3・DP2.3）。		
到達目標	今日、とくとく流れる国際社会のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習である「法学」を理解し日々の生活にいかせること。		
授業内容	法の概念、法と法則、法と道徳、法の構造、法の目的、法源論、成文法、不文法、法の分類、法の適用と解釈、法の実質的効力、法の形式的効力、権利と義務		
授業形態※	毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。		
評価方法※	平常点（授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート）20%、確認試験 80%で評価します。		
評価基準	秀（S）：授業のねらい・内容を正しく理解しリーガル・マインドができるようになり、社会生活において適用できるようになる。 優（A）：授業のねらいがほぼ達成できており、法的思考もできるレベルにある。 良（B）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成し、概要を正しく 説明できる。 可（C）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成している。 不可：授業のねらい・内容が達成されておらず概要を説明できない。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版 (ISBN978-4-8429-1722-1) （参考文献）『六法』（岩波）（三省堂）（有斐閣）などを持参するとよいでしょう。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、教育・情報学部
科目名※	憲法	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度後期	曜日・時限※	金曜・3 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくこと。		
到達目標	憲法の原理や考え方を正しく理解し説明できること。		
授業内容	憲法の内容、日本国憲法の成立過程、憲法の制定・改正および変遷、憲法改正と限界、憲法の基本原理、国民主権主義、基本的人権、平和主義、統治機構・地方自治 毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。 授業内容に応じてデユベートやディスカッションを行い、それぞれのテーマを学生一人一人がフィードバックし授業への参加意欲を高めます。		
授業形態※			
評価方法※	平常点（授業内に適示おこなうアクションペーパーや任意課題レポート）20%、確認試験 80%で評価します。		
評価基準	秀（S）：授業のねらいを越えて憲法的思考を深めるレベルに達している。 優（A）：授業のねらいがほぼ達成できており、憲法的思考もできるレベルにある。 良（B）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成し、概要を正しく 説明できる。 可（C）：授業のねらい・内容が到達目標に 達成している。 不可：授業のねらい・内容が達成されておらず概要を説明できない。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版(ISBN978-4-8429-1722-1)		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、教育・情報学部
科目名※	日本語コミュニケーション論	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	金曜・1 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	授業のテーマ：日本語社会におけるコミュニケーションに特徴的に見られる現象を取り上げ、言語と社会の関わりを理解する。ことばに関わる文化的・社会的背景について理解を深める。		
到達目標	到達目標：受講者自身が世界のさまざまな言語とその文化的・社会的背景を理解し、自分が使用する日本語を客観的に観察できるようになる(DP・CP2.3)。		
授業内容	日本語社会における言語行動／日本語のコミュニケーション		
授業形態※	日常生活における身近なことばの行動をヒントに、言語行動や言語と社会を理解するさまざまな観点があることを知り、基本的概念を学ぶ。ワークシートや資料を活用し、「知っていること」「習ったこと」を活かしながら、段階的に積み上げて理解する。副専攻日本語教員養成課程必修科目であり、受講の前提として日本語教育やコミュニケーションに関心を持つこと。教科書とワークシートを使用し、「知っていること」「習ったこと」を活かしながら、段階的に積み上げて理解する。毎回、講義後には小テストで確認を行い、学んだ内容を確実に身につける。		
評価方法※	授業への取り組み（発言と、受講態度 10%、提出物 20%、小テスト 30%）で 60%、課題 40%の割合で評価する。		
評価基準	秀（S）：得点が 90%以上 優（A）：得点が 80%以上 90%未満 良（B）：得点が 70%以上 80%未満 可（C）：得点が 60%以上 70%未満 不可：得点が 60%未満		
テキスト	毎週、ワークシート形式の授業資料を KCN 経由、または紙面で配布する。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済、国際、情報学部
科目名※	言語学	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度前期	曜日・時限※	金曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	言語学の基本的概念を理解し、言語学の研究領域における見方や考え方について理解を深める。		
到達目標	到達目標：人間が持つ言語というものの普遍的な性質や特徴を知ること、母語と外国語、さらに道の言語の間にも共通性が見いだせるようになる。 言語学は、高校までの学校教育で学ぶ国語とは大きく異なる。人間がもつ言語というものの普遍的な性質や特徴を知ること、自分の母語とこれまでに学んだ外国語、さらに未知の言語の間にも共通性があることに気づき、新たな関心を持ったり理解が深まったりすることにつながる。言語学の下位領域における方法に触れることによって、ものごとのとらえ方（観察、分析、分類、考察など）についても学ぶ。授業で扱う事象は日本語を中心とし、世界の中の一言語としての日本語、国語としての日本語という見方でとらえることをめざす。		
授業内容	言語学の概要／歴史言語学・比較言語学／言語の特徴／音韻論／形態論／統語論／語彙論・意味論／語用論／文字論／応用言語学 対面での実施を基本とするが、状況によってオンデマンド授業を併用する場合もあり得る。ことばやコミュニケーションに関心があることを前提とする。授業では、色々な事例をもとに、皆さん自身が観察したり、考えたりする時間が多くある。また、その結果を発言したり、他の例を出してもらったりすることもある。このような授業の進め方に協力できることが履修条件となる。毎回、授業の後に小テストを実施するので、忘れずに受けること。		
授業形態※			
評価方法※	授業態度（発言やコミュニケーション、提出物など）30%、小テスト 40%、確認テスト 30%によって評価する。		
評価基準	秀（S）：得点が 90%以上 優（A）：得点が 80%以上 90%未満 良（B）：得点が 70%以上 80%未満 可（C）：得点が 60%以上 70%未満 不可：得点が 60%未満		
テキスト	毎回、授業資料を KCN 経由または紙面で配布する。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛大学	学部・学科名※	経済・国際・教育・情報学部
科目名※	地域ボランティア活動	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度前期	曜日・時限※	水曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	ボランティア活動や社会貢献についての基礎的知識・原理原則並びに地域ボランティア活動の種類・活動方法を学び、一人ひとりの学生が、自己にあった地域ボランティア活動を見つけだし、社会人・企業人としての心構えを学ぶ事を目的とする。(DP、CP)		
到達目標	ボランティア活動の基礎知識を講義により習得します。		
授業内容	ボランティアとは、ボランティア活動の理念、ボランティア活動の歴史、ボランティア活動の法と制度、ボランティア関係機関、ボランティア活動の担い手、地域社会とボランティア活動、社会福祉施設とボランティア活動、スポーツボランティア、災害支援とボランティア活動、企業の地域貢献とボランティア、国際ボランティア活動、ボランティアコーディネート、ボランティア活動の新しい形、これからのボランティア活動		
授業形態※	授業は、「対面授業」と「オンライン授業(オンデマンド型)」を併用して行います。 スケジュールについては、ウイルス等の感染状況をみながら、クラスプロファイルを通じて学生に知らせます。毎回、各講義ごとの理解度・到達度を確認するために KCN（学生ポータルサイト）を使つての小テスト・課題を実施し、KCN を通じて評価フィードバックを行います。 振り返りシート Refiection Sheet		
評価方法※	各講義での小テスト・課題で 50%、期末試験 50%で評価。		
評価基準	秀（S）：授業のねらいを越えて、積極的なボランティア活動への参加が認められ、その成果を課題提出で十分に伝えられている。 優（A）：授業のねらいどおり、ボランティア活動への参加が認められ、その成果を課題提出で十分に伝えられている。 良（B）：授業のねらいどおり、ボランティア活動の概要を正しく説明できる。 可（C）：ボランティア活動の概要を概ね説明できる。 不可：ボランティア活動の概要を説明できない。		
テキスト	『初めて学ぶ地域ボランティア活動』（KT 福祉研究所出版部） ISBN978-4-9910261-3-3 （参考文献）小倉常明著『ボランティア論 第二版』（KT 福祉研究所出版部） ISBN978-4-9910261-7-1		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	生涯スポーツ実習	単位数※	2
開講年度学期※	2025 年度 前期	曜日・時限※	火曜・4 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	保育者として必要とされるスポーツ・運動に関する理論や子どもの遊びについて学び、理解する。また、運動・スポーツ・遊びの実践を通して運動技能の向上や健康の保持・増進を図る中で、生涯スポーツとしての運動・スポーツとして様々な人との関わりを深めることができるようになることを目指す。そのことで、協働的な課題解決の能力を高めていくことを期待する。		
到達目標	保育者として主体的に成長していく力を身につけること。		
授業内容	集団ゲーム(鬼遊び・伝承遊び、ボール遊び)、ボール運動の特性の理解(ドッジボール)、パラスポーツ(シッティングバレー)、バレーボール、バドミントン、カルタゲーム(36 の動き・ものまね)、課題解決型集団ゲーム(パラバルーン)、表現運動(リズムダンス)		
授業形態※	実技を中心とし、グループでの課題解決学習をおこなう。個人の実技試験などをもとに、集団形成を行い、スポーツ活動を通しての役割の認識を深める。集団での活動内容を記録し、結果への反映を評価しながら、活動課題へとフィードバックしていく。		
評価方法※	受講時の課題達成 50%、個人実技課題 30%、グループ課題 20%		
評価基準	AA 自身の身体能力、技能を活用し、集団での運動・スポーツ活動に積極的に関わることができるとともに、運動が苦手な人へのサポートができる。 A 自身の身体能力、技能を活用し、集団での運動・スポーツ活動に挑戦することができる B 集団での運動・スポーツ活動に挑戦することができる C 運動・スポーツ活動に挑戦することができる D 運動・スポーツ活動に積極的に参加することができない		
テキスト	なし		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	乳児保育Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 後期	曜日・時限※	金曜・3 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野			
授業目的※	乳児保育Ⅱでは、乳児保育Ⅰの学びを踏まえ、乳児保育の実践についての理解をより深める。		
到達目標	3 歳未満児の発達の特徴を踏まえた総合的な子どもの理解とともに、人間形成の上で大切な乳幼児期の育ちに関わる保育者として、子どもに寄り添い、ともに成長しようとする使命感をもって以下について学ぶ。 ① 3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ② 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ③ 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。		
授業内容	・（6 か月未満の子ども）の発達と保育内容・保育の留意点、【演習】具体的な保育内容・養護（抱っこ・着替え・おむつ交換・授乳）、 ・（6 か月以上 1 歳未満の子ども）の身体と心、言葉の発達と保育内容・保育の留意点、生活・遊びの発達と安全への配慮、 ・（1 歳以上 2 歳未満の子ども）および（2 歳から 3 歳の子ども）の身体と心、言葉の発達と保育内容・保育の留意点、生活・遊びの発達と安全への配慮、 ・乳児保育における長期指導計画と短期指導計画、観察・記録及び自己評価、子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境、【演習】手作り玩具の発表、乳児保育における集団での生活への配慮、環境の変化や移行に対する配慮		
授業形態※	講義形式が中心となるが、保育の実践を学ぶために演習、ロールプレイングやプレゼンテーションを取り入れる。また、理解を深めるためビデオ視聴を取り入れ、振り返りシートにおいて学びの確認を行なう。		
評価方法※	定期試験（50％） 課題レポート＋振り返りシート＋演習（50％）		
評価基準	AA：講義内容を十分に理解し、演習においてその成果が発揮され、レポート作成においては課題をより深く考察し、授業での学びが生かされている。 A：講義内容を理解し、演習においてその成果が発揮され、レポート作成においては授業での学びが理解され、生かされている。 B：講義内容を理解し、授業での学びをもとに演習への参加とレポートが作成されている。 C：講義内容が概ね理解され、課題に沿った演習への参加とレポートが作成されている。 D（不可）：講義内容が殆ど理解されておらず、課題に沿った演習への参加とレポート作成ができていない。		
テキスト	乳児保育演習ブック 第 2 版 松本峰雄監修 ミネルヴァ書房		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	子どもと造形	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 後期	曜日・時限※	月曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	乳幼児期の子どもの育ちや保育の「要領」「指針」、実践等に基づきながら、本授業では造形表現の作品製作（実技）を行う。		
到達目標	幼児教育・保育における造形表現に関する基本的な知識や技術（技能）、配慮事項等を体験的に理解し、遊びを通した保育の実践力を身につけることを目標とする。		
授業内容	新聞紙で遊ぶ、スクリブル／クレヨン遊び、スクリブル／絵具遊び・ぬたくり、粘土遊び、オーナメント、のり付け遊び・コラージュ、製作・工作／手作りおもちゃ、紙版画、人物画／描画、ポップアップカードの製作、絵本とお話の絵・壁面構成、図鑑の活用と造形表現の探究		
授業形態※	保育実践や保育の「要領」「指針」、子どもの発達段階に基づきながら、作品製作（実技）を中心に授業を行う。		
評価方法※	本授業では「作品製作（実技）の過程」等を重視して総合的に評価する。		
評価基準	「提出物（作品、レポート類、等）」 100% を基本とする。		
テキスト	原則として授業等で説明後、「教材・画材」を受講者が別途購入する。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	保育内容演習（健康）	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 後期	曜日・時限※	月曜・4 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園法に示されている幼児期の終わりまでに育みたい 10 の姿に向かい、幼児期に育みたい資質、能力をふまえ、領域「健康」のねらい、内容を理解し、その具体的実践方法を講義で学ぶだけでなく、学生が主体的に考え、体験しながら学び、身につけることを目指す。		
到達目標	領域「健康」は「遊び」と「生活」を通して総合的に実践することを理解し、情報機器の利用を含む保育者の具体的援助方法を身につけること、現代の幼児を取り巻く健康と安全に結びつく生活や社会の問題を知り、解決の一助となる保育者の援助の方法を知り身につけること、社会に貢献でき得る問題解決能力やコミュニケーション能力が身につく、向上できるようになること、そして全授業を通して乳幼児が心身共に「健康」と「安全」な生活を送るために保育者が重要な役割を果たすことを認識し、保育者としての使命感をもつようになること、である。		
授業内容	乳幼児期の健康な生活について／乳幼児期の運動 遊びと運動／乳幼児期の安全／乳幼児期の生活と食／保護者との健康情報共有／保護者向け健康冊子の作成／健康情報の保護者への伝え方		
授業形態※	講義		
評価方法※	テスト 50%、課題 50%		
評価基準	A A 講義内容を十分理解し、ロールプレイング、ディスカッション、プレゼンテーション、双方向型演習を通して保育の中で遊びや生活を通して保育内容「健康」を実践しようとする意欲と姿勢がみられる。保護者への情報発信の意味、方法を十分に理解し実践できる力が十分身についている。 A 講義内容を十分理解し、ロールプレイング、ディスカッション、プレゼンテーション、双方向型演習を通して保育の中で遊びや生活を通して保育内容「健康」を実践しようとする意欲と姿勢がみられる。保護者への情報発信の意味、方法を理解し実践できる力がついていく。 B ロールプレイング、ディスカッション、プレゼンテーション、双方向型演習を通して講義内容をおおむね理解し、保育の中で遊びや生活を通して保育内容「健康」を実践しようとする意欲がみられる。保護者への情報発信の意味、方法をおおむね理解し実践できる力がおおむねついていく。 C ロールプレイング、ディスカッション、プレゼンテーション、双方向型演習を通して講義内容をある程度理解している。 D ロールプレイング、ディスカッション、プレゼンテーション、双方向型演習を積極的に行わず講義内容を理解していない。保育の中で遊びや生活を通して保育内容「健康」を実践しようとする姿勢や意欲がみられない。		
テキスト	『演習 保育内容「健康」』河邊貴子編著 建帛社		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	育ちと学びの心理学	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 前期	曜日・時限※	火曜・1 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	乳幼児の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性をふまえた主体的な学びの基礎となる考え方を理解する。		
到達目標	「子どもを育むことの価値を理解し、人間形成の基礎を培うことの責任を実感したうえで、子ども一人一人を敬愛し、常に向上しようとする意識を身につける」ことを到達目標とする。		
授業内容	子どもの発達を理解することの意義／子どもの発達と環境／発達理論と子ども観・保育観／社会的情動的発達①エリクソンの発達段階説、②愛着の発達、③自己主張・自己抑制／身体的機能と運動機能の発達／認知の発達①ピアジェによる思考の発達段階説、②記憶の発達／言語の発達／乳幼児期の学びに関わる理論①レスポナント条件づけ、②オペラント条件づけ／乳幼児期の主体的な学びの過程と特性、乳幼児期の主体的な学びを支える保育／子どもの知的・社会的発達と絵本との関わり		
授業形態※	基本的には講義形式が中心となるが、ロールプレイングやディスカッション、振り返りシートの記入を取り入れる。積極的な参加を望む。		
評価方法※	毎回の講義内容についての小レポート・振り返りシート 60%＋定期試験 40%＝100%		
評価基準	AA：ディスカッションに積極的に参加し、課題解決に貢献している。小レポートや振り返りシートに、講義内容と自らの体験 を深く関連させて意見を述べている。 A：ディスカッションに積極的に参加し、課題解決に貢献しようとしている。小レポートや振り返りシートに、講義内容と 自らの体験を踏まえて意見を述べている。 B：ディスカッションに参加し、小レポートや振り返りシートに講義内容についての意見を述べている。 C：ディスカッションにあまり参加せず、小レポートや振り返りシートに講義内容のみが書かれている。 D：ディスカッションに参加せず、小レポートや振り返りシートの記述がほとんどない。		
テキスト	使用しない。適宜資料を配付する。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	子どもと言葉	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 前期	曜日・時限※	火曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」に示されたねらいや内容を理解する。子どもの言葉の発達について学び、主体的、対話的で深い学びが実現する具体的な保育を構想する方法を身につけ、子どもの言葉の発達に関わっていくという「使命感」を培う。		
到達目標	1 子どもの言葉の発達段階における特徴や連続性など（言葉に関する知識）を捉え理解を深める。 2 主体的に遊びに取り組む中で言葉が育つ過程を理解し、言葉の育ちを促す教材を作成したり、実践したりして（保育技術）を身につける。 3 事前に調べたことをグループでディスカッションする、自分たちの考えをプレゼンテーションするなどを通して様々な考えを知り学び合う。 4 言葉に関わる協働的な学習を通して、（問題解決力や人と関わる基礎となるコミュニケーションスキル）を高める。		
授業内容	前半は講義を主として乳幼児の言葉の発達を理解して各年齢に合わせて保育を考えられるようにする。後半は言葉の発達を促す教材を考えて作成したり、グループで協力して創作したものを発表したりして実習や保育に活かせるようにする。発表したものを評価し合うことで、子どもの発達を考えた教材の工夫や指導方法を導き出して理解を深めさせる。		
授業形態※	講義形式（対面）		
評価方法※	振り返り 50%、課題などの提出物 50%		
評価基準	A A 講義内容を十分に理解して意欲的に教材研究や発表に取り組んでおり、課題を深く理解して考察し、授業での学びが活かされている。 A 講義内容を理解し、教材研究や発表に意欲的に取り組んでいる。 B 講義内容を理解し、教材研究や発表に取り組んでいる。 C 講義内容を概ね理解し、教材研究や発表に参加している。 D 講義内容の理解が不足しており、教材研究や発表への取り組みができない。		
テキスト	保育内容「言葉」と指導法 萌文書林		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	保育者論	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 後期	曜日・時限※	木曜・1 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	専門職としての保育者の役割や倫理、制度にもとづく職務内容について理解し、保育・教育の専門家として身につけるべき知識・技能を修得すると共に、人間性や感性を育むことをねらいとする。またチーム保育、組織としての連携・協働について学び、保育者の専門性に対する理解を深める。		
到達目標	・ 保育者の役割と倫理について理解する。 ・ 保育者の制度的な位置づけを理解する。 ・ 保育者の専門性について考察し、理解する。 ・ 保育者の連携・協働について理解する。 ・ 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。		
授業内容	保育者の役割／保育者の倫理／保育者の資格と責務／保育者の資質・能力／養護および教育の一体的展開／家庭との連携と保護者に対する支援／計画に基づく保育の実践と省察・評価／保育の質の向上／保育における職員間の連携・協働／専門職間及び専門機関との連携・協働／地域社会との連携・協働／関係機関等との連携／資質向上に関する組織的取り組み／保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義／保育におけるリーダーシップ		
授業形態※	講義		
評価方法※	毎回のワークシートやミニツッパーパー(60%)、授業への取り組み（グループワーク、話し合い、ロールプレイ等への参加・貢献）(20%)、まとめのレポート（20%）		
評価基準	A A 授業内容を深く理解し、授業でのグループ活動に積極的に参加し、保育者としての知識を十分に獲得し、保育者としての考え方、態度、姿勢が育まれ、この授業の到達目標を達成している。 A 授業内容を理解し、授業でのグループ活動に参加し、保育者としての知識を十分に獲得しており、保育者としての考え方、態度、姿勢が育まれ、この授業の到達目標を概ね達成している。 B 授業内容を理解し、授業でのグループ活動に参加し、保育者としての知識を獲得しており、保育者としての考え方、態度、姿勢が概ね育まれ、この授業の到達目標をある程度達成している。 C 授業でのグループ活動に参加し、授業内容について概ね理解できているが、この授業の到達目標に達していない内容もある。 D 講義や授業でのグループ活動に参加する意欲に乏しく、講義内容について、十分に理解できて折らず、この授業の目標に到達していない。		
テキスト	矢藤誠慈郎ら編『保育者論』中央法規		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	教育原理	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 後期	曜日・時限※	金曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	幼児教育や保育のあり方について考察する上での基礎となる教育の本質、教育目的、教育思想など教育の理念について学習し、幼児教育や保育の現場に立つにあたって必要となる幼児教育施設への理解、教育観、子どもの発達観について講義を行い、基礎的な幼児教育の習得をめざす。教育に関連したテーマを取り上げ多様な側面からアプローチする。幼児教育（保育）に関する理解を深め、「遊び」がとって学びであることを踏まえて、本学の子どもを育むことの価値を理解し、保育者としての自覚と使命感を備え、生涯学び続ける教育者・保育者の育成をめざす。		
到達目標	幼児教育のあり方の基礎となる内容－教育の本質、幼児教育の目的、幼児期の発達、教育思想など、また今日の幼児教育のあり方についてより具体的に理解できるために、幼児教育の内容や方法を理解する。		
授業内容	教育の本質的意味／教育の概念／子どもにとって遺伝と環境のもつ意味／教育の目的／教育の意義／子ども観の変遷／教育・教育思想の歴史／子どもを育む地域・家庭・学校との関係／子どもを理解するには／乳幼児期の子どもの発達／子どもが求める教育者・保育者とは		
授業形態※	対面形式		
評価方法※	講義形式と事例検討が中心となるので、主体的・意欲的な受講態度を求める。またともに学びあうことが可能になるような、主体的な学びとなるようにしたい。		
評価基準	毎授業課すレポート、提出物（80％）、授業態度（20％）をそれぞれ得点化し、総合的に判断する。		
テキスト	高野良子・武内清編著『教育の基礎と展開』（学文社）		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	子ども家庭支援の心理学	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 前期	曜日・時限※	金曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	保育者にとって、子どもへの支援のみならず保護者に対する支援は必要不可欠である。この科目は、発達段階と家族システム、親としての養育スタイルや多様な子育て環境を学び、子どもを育むことの価値を理解し、人間形成の基礎を培うことの責任を実感したうえで、子ども一人一人を敬愛し、常に向上しようとする保育者としての使命感身につけられるようにする。		
到達目標	1.生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題について理解する。 2.家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその過程を包括的に捉える視点を習得する。 3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4.子どもの精神保健とその課題について理解する。		
授業内容	乳幼児の発達／学童期の発達／青年期の発達／成人期・老年期の発達／家族・家庭の意義と機能／親子関係・家族関係の理解／子育ての経験と親としての育ち／子育てを取り巻く社会状況／ライフコースと仕事・子育て／多様な家庭とその理解／特別な配慮を要する家庭／子どもの生活・生育環境とその影響／子どもの心の健康に関わる問題		
授業形態※	保育士資格を希望する者は必修である。講義形式である。 テキストやプリントにより基礎的な知識を身につけたうえで、学生が自身の経験や身近な出来事に振り返り、ディスカッション、ロールプレイング等を行っていく。概ね各回のワークシートなどが試験内容になる。		
評価方法※	試験・発表(40%)、ワークシートや課題提出(60%)		
評価基準	A A ディスカッションに積極的に参加し、問題解決に貢献している。振り返りシートに自らの体験を踏まえた意見、学びを今後の生活に生かしていこうという姿勢がみられる。 A ディスカッションに積極的に参加し、問題解決に貢献している。振り返りシートに自らの体験を踏まえ、意見を述べている。 B ディスカッションに参加し、振り返りシートに講義内容についての意見を述べている。 C ディスカッションにあまり参加せず、振り返りシートに講義内容のみが書かれている。 D ディスカッションに参加せず、振り返りシートの記述がほとんどない。		
テキスト	『子ども家庭支援の心理学 演習ブック』松本峰雄監修 ミネルヴァ書房		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	特別支援教育	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 前期	曜日・時限※	木曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	保育者（保育士、幼稚園教諭、保育教諭）として、特に障害児保育の理念や歴史的な変遷、様々な障害特性、心身の発達等に応じた援助や配慮、障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法、関係機関との連携・協働等を理解する。		
到達目標	1.障害児保育の理念や歴史的な変遷について学び、障害のある子どもの保育について理解する。2.様々な障害特性について理解し、個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について学ぶ。3.障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について学ぶ。4.障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。5.障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する		
授業内容	障害児保育・特別支援教育について学び、障害を捉える二つの障害モデルについて／保育者に求められる「障害観」について／障害児保育の歩み／肢体不自由児・重度心身障害の子どもを理解と援助／医療的ケアが必要な子どもを理解と援助／聴覚障害の子どもを理解と援助／知的障害の子どもを理解と援助／保育現場で良く出会う先天性疾患である「ダウン症」についてその特性と対応方法／支援が必要な子どもや人々の絵本の役割／自閉スペクトラム症の特性と対応／ADHD の特性／障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働／障害を持つ子どもの就学先、障害を持つ子どもの個別支援計画／小学校・特別支援学校など、障害を持つ子どもの就学先について／障害を持つ子どもの個別支援計画		
授業形態※	講義形式を中心とするが、ワークシートを使用し、自身の学びの確認ができるようにする。また、DVD を活用した授業や疑似体験も盛り込み、可能な限り「障害をもつこと」を学生がイメージできるような授業展開を実施する。授業内の学びの確認テストを実施する。ワークシートは次の授業回に返却する。		
評価方法※	ワークシート（40％）、授業内テスト（40％）、グループワークへの参加等および授業への取り組み（20％）。		
評価基準	A A 講義内容を深く理解し、ワークシートへの記入内容が適切であり、自分自身の考えを明確にもち実践に活かそうという姿勢が記述内容から確認できる A 講義内容を理解し、適切にワークシートの記入ができており、更に自身の考えを述べることができる B 講義内容を理解し、適切にワークシートの記入ができています C 講義内容について概ね理解している D 講義内容について理解が適切でない		
テキスト	毎回の授業時に配布する資料を使用して授業を行うため、テキストは特に使用しない。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	社会的養護 I	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 前期	曜日・時限※	木曜・3 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	わが国における社会的養護の理念と方向性を把握し、現在実施されている社会的養護の意義を理解する。		
到達目標	社会的養護の実践は、児童福祉における現実問題の解決という課題を担っている。まずは、その社会的養護が児童の権利の保障をめざしてどのように展開されているのかを理解する。くわえて、児童福祉のいかなる制度と実施体系のもとに実践が行われているのかを把握する。また、児童の自立支援が養護の中軸にあることを学習し、本学 DP3「コミュニケーション力、課題解決力」に鑑み、よりよい社会の実現を目指す専門職者としての保育士の実践について理解を深めていく。		
授業内容	社会的養護の理念と概念／社会的養護の歴史的変遷／子どもの人権擁護と社会的養護／社会的養護の基本原則／社会的養護における保育士等の倫理と責務／社会的養護の制度と法体系／社会的養護の仕組みと実施体系／社会的養護の対象／家庭養護と施設養護／社会的養護に関わる専門職／社会的養護に関する社会的状況／施設等の運営管理／被措置児童等の虐待防止／社会的養護と地域福祉		
授業形態※	講義		
評価方法※	試験 60%、授業への積極的な参加姿勢 10%、レポート・課題提出 30%		
評価基準	A A 試験での素点が 90 点以上ならびに授業への参加において事前学習や事後学習に基づく発言、質問をする姿勢が見られ、レポート・課題において内容の理解と保育者の職務として自身との関連を強く意識しているのが見られる A 授業の内容を把握し、理解している。レポート課題が全て所定通りに提出されている。 B 授業の内容を、おおむね把握し、理解している。レポート・課題は提出されているものの、内容の点で不足が見られる。 C 授業の内容を、おおよそ把握しているが、理解の点で不足が見られる。レポート・課題は提出されているものの、内容の点でかなりの不足が見られる。 D（不可） 授業の内容について把握できておらず、理解の点でも不十分さが顕著である。レポート・課題の提出の不足がある		
テキスト	和田上貴昭、他編『はじめて学ぶ 子どもの養護』建帛社 福祉小六法編集委員会編『福祉小六法』みらい		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	敬愛短期大学	学部・学科名※	現代子ども学科
科目名※	児童文化Ⅱ	単位数※	2
開講年度学期※	2026 年度 前期	曜日・時限※	火曜・2 限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日指定
学修分野	保育		
授業目的※	子どもの心を育む児童文化の特性について理解し、「子どものための文化」「子どもによる文化」の両視点から様々な児童文化財に触れ、言葉や表現との関わりを通して、保育者の役割や具体的な実践方法を身につける。		
到達目標	・ 実践の基礎として、児童文化に関する基本的な理解を深める。 ・ 保育技術としての児童文化財の活用法を習得し、実践する力を身につける。 ・ 保育者として子どもと共に楽しむ視点に立ち、人間性や感性を豊かにする。		
授業内容	児童文化とは何か／絵本／紙芝居とペープサート／シアターあそび／パネルシアター／おもちゃ／伝統行事と伝承遊び／保育と児童文化財		
授業形態※	実践力を深める授業形態となるように理論に基づいた講義を行うほか、教材作成及び模擬保育を実施して基本的な技術や方法を実践的に学べるようにする。各授業では振り返りシートへの記述を取り入れ、次回授業時に学びの共有を行う。		
評価方法※	評価の要点に基づいて実施する最終課題(60%)と、出席・授業態度・提出物(40%)で総合的に評価		
評価基準	A A 積極的に授業に参加し、講義内容を十分に理解している。保育者としての姿勢が育まれている。 A 積極的に授業に参加し、講義内容を理解している。保育者としての姿勢が概ね育まれている。 B 授業に参加し、講義内容を理解している。保育者としての姿勢が育まれつつある。 C 授業に参加しているが、学びの姿勢は消極的である。 D 授業に参加せず、到達目標への達成が難しい。		
テキスト	なし		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		